

2025 年 10 月

# 食料安全保障月報

## (第 52 号)



令和 7 年 10 月 31 日

**農林水産省**

## 食料安全保障月報について

食料安全保障月報(第 52 号)は、米国農務省穀物等需給報告(2025 年 10 月)の公表中止により、2025 年 9 月 12 日公表の同報告のデータに基づき作成しております。

### 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

### 2 対象者

本月報は、2021 年 6 月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

### 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

### 4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

# 2025 年 10 月食料安全保障月報(第 52 号)

## 目 次

### 概要編

|     |                            |   |
|-----|----------------------------|---|
| I   | 2025 年 10 月の主な動き           | 1 |
| II  | 2025 年 10 月の穀物等の国際価格の動向    | 4 |
| III | 2025/26 年度の穀物需給(予測)のポイント   | 4 |
| IV  | 2025/26 年度の油糧種子需給(予測)のポイント | 4 |
| V   | 今月の注目情報「米国のバイオ燃料向け穀物需給の動向」 | 5 |

### (資料)

|       |                                |     |
|-------|--------------------------------|-----|
| 1-1~3 | 穀物等の主要輸出国の生産量(過去 10 年平均との増減比較) | 1 0 |
| 1-4   | 穀物等の国際価格の動向                    | 1 3 |
| 1-5   | サプライチェーン等に関する状況                | 1 4 |
| 2     | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移            | 1 5 |
| 3     | 穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別)         | 1 6 |
| 4     | 加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況        | 1 8 |
| 5     | 食品小売価格の動向                      | 2 2 |
| 6     | 海外の畜産物の需給動向(ALIC 提供)           | 2 3 |
| 7     | FAO 食料価格指数                     | 2 4 |

### 今月のコラム

|                  |     |
|------------------|-----|
| 「マレーシアの食事情①:食文化」 | 2 5 |
|------------------|-----|

### 品目別需給編

|   |          |                                          |
|---|----------|------------------------------------------|
| I | 穀物       |                                          |
| 1 | 小麦       | 1                                        |
|   | ＜米国＞     | 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.2%減少する見込み         |
|   | ＜カナダ＞    | 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.9%増加する見込み(AAFC)   |
|   | ＜豪州＞     | 2025/26 年度の輸出量は前年度から 9.6%増加する見込み(ABARES) |
|   | ＜EU27＞   | 2025/26 年度の生産量は前年度から 18.5%増加する見込み(EC)    |
|   | ＜ロシア＞    | 2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.7%増加する見込み         |
|   | ＜ウクライナ＞  | 2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.8%減少する見込み         |
|   | ＜中国＞     | 2025/26 年度の生産量は前年度並みの見込み                 |
| 2 | とうもろこし   | 9                                        |
|   | ＜米国＞     | 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.1%増加する見込み       |
|   | ＜ブラジル＞   | 2025/26 年度の生産量は、前年度から 3.0%減少する見込み        |
|   | ＜アルゼンチン＞ | 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み        |
|   | ＜ウクライナ＞  | 2025/26 年度の生産量は、前年度から 19.4%増加する見込み       |
|   | ＜中国＞     | 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み       |

|      |     |
|------|-----|
| 3 コメ | 1 5 |
|------|-----|

- <タイ> 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み
- <米国> 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%減少する見込み
- <中国> 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.5%増加する見込み
- <インド> 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.7%増加する見込み
- <ベトナム> 2025/26 年度の生産量は、前年度から 2.8%減少する見込み

## II 油糧種子

|    |     |
|----|-----|
| 大豆 | 2 1 |
|----|-----|

- <米国> 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5%減少する見込み
- <ブラジル> 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み
- <カナダ> 2025/26 年度の生産量は前年度から 5.7%減少する見込み (AAFC)
- <中国> 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み
- <アルゼンチン> 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.7%減少する見込み

|                                             |     |
|---------------------------------------------|-----|
| (参考1) 本レポートに使用されている各国の市場年度について (2025/26 年度) | 2 7 |
| (参考2) 単位換算表                                 | 2 7 |
| (参考3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎)                | 2 8 |

## 【利用上の注意】

表紙写真: ロシア・クラスノダル地方カネフスコイ地区の冬小麦の圃場。このエリアでは適度な降雨があり、気温も十分に高く、作柄は良好。(撮影日: 2025 年 10 月 7 日)

## (概要編)

## I 2025 年 10 月の主な動き (USDA のデータは 2025 年9月時点のもの)

### 主要穀物等の需給・相場等について

9月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2025/26 年度の状況について、品目別にみると、小麦については、カザフスタン、パキスタンで収穫面積・単収ともに前年度から減少、イランで単収が減少し生産量が減少するものの、EU、インドで収穫面積・単収ともに前年度から増加、ロシアで単収が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は、同年8月には侵攻前の水準まで低下したものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意(黒海穀物イニシアティブ)については2023 年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU 向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、EU で収穫面積が前年度から減少、ブラジルで単収が減少し生産量が減少するものの、米国、ウクライナ、ザンビアで収穫面積・単収ともに前年度から増加、アルゼンチンで収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

大豆については、アルゼンチンで収穫面積が前年度から減少するものの、ブラジルで収穫面積・単収ともに増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表している食料価格指数については、主に穀物、乳製品、砂糖、植物油の価格指数の低下が、肉の上昇を上回ったこと等により、8 月の129.7 から、9 月(最新値)は128.8 とわずかに低下(参考:2024 年9 月124.6、2023 年9 月121.7、2022 年9 月137.3、2021 年9 月129.1、2020 年9 月97.9)。海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、直近5カ年の平均値と同程度の水準で推移。



写真: 米国・インディアナ州

とうもろこしの収穫作業

撮影日: 2025 年9月 26 日

撮影者: Neil Mylet



写真: フランス・ヴァル・ドワーズ県

とうもろこしの収穫作業

撮影日: 2025 年 10 月1日

## ウクライナの生産・輸出動向

USDA の9月需給報告によれば、2025/26 年度のウクライナの小麦の生産量は、単収の減少を受け、前年度から2%減少し 2,300 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の減少等を受け、前年度から5%減少し 1,500 万トンとなる見込み。2025/26 年度のとうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに増加することを受け、前年度から 19%増加し 3,200 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の増加等を受け、前年度から 24%増加し 2,550 万トンとなる見込み。

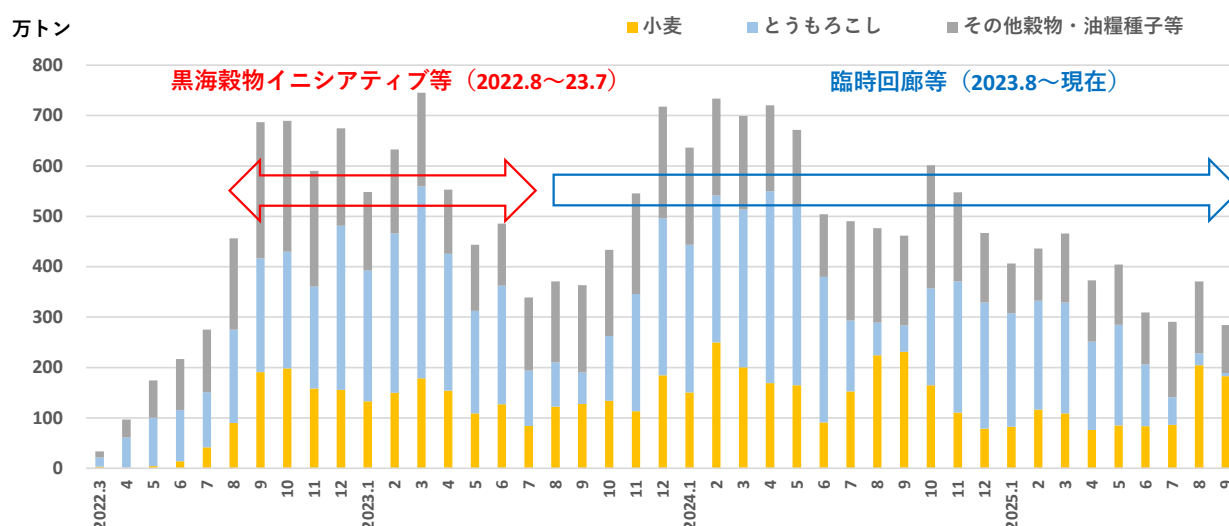
現地情報会社によれば、10 月9日現在、2025/26 年度の冬小麦及び春小麦の収穫進捗率は 98%と収穫はほぼ終了した。とうもろこしの収穫進捗率は 15%。2026/27 年度の秋播き作物については、9 月初旬から作付けが始まっており、出芽が確認された地域の作柄は概ね良好となっている。10 月7日現在、冬小麦の作付進捗率は 49%。

## 臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

## (参考)ウクライナの輸出量の推移(月毎)(2022 年3月～2025 年9月)



出典:ウクライナ経済・環境・農業省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成

注:データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計



## 1 米国:小麦の9月期在庫量は前年同期比6%増、とうもろこしは 13%減、大豆は8%減

USDA の「Grain Stocks」(2025.9.30)によれば、2025 年9月1日時点の小麦の在庫量は、前年同期に比べ 6.4%増の 5,770 万トンとなった一方、とうもろこしの在庫量は、前年同期に比べ 13.1%減の 3,891 万トン、大豆の在庫量は、前年同期に比べ 7.6%減の 861 万トンとなった(表1)。

また、市場年度が終了したとうもろこし、大豆について、2024/25 年度の作付面積、収穫面積、単収、生産量の見直しが行われた。とうもろこしの生産量は前回予測から 63 万トン上方修正され、3億 7,827 万トンに、収穫面積は前回予測から6万ヘクタール上方修正され 3,361 万ヘクタールに、単収は前回予測と変わらず 11.26トン/ヘクタールとなる見込み。大豆の生産量は前回予測から 21 万トン上方修正され、1億 1,905 万トンに、収穫面積は前回予測から7万ヘクタール上方修正され 3,489 万ヘクタールに、単収は前回予測と変わらず 3.41 トン/ヘクタールとなる見込み(表2)。

表1:米国の小麦、とうもろこし、大豆の四半期在庫  
(2025.9.1 時点)

|        | 2024年9月<br>(千トン) | 2025年9月<br>(千トン) | 対前年比<br>(%) |
|--------|------------------|------------------|-------------|
| 小麦     | 54,219           | 57,702           | + 6.4       |
| とうもろこし | 44,792           | 38,905           | - 13.1      |
| 大豆     | 9,320            | 8,614            | - 7.6       |

表2:米国のとうもろこし、大豆の生産量等予測  
(2024/25 年度)

|        | 作付面積<br>(千ha) | 収穫面積<br>(千ha) | 単収<br>(t/ha) | 生産量<br>(千t) |
|--------|---------------|---------------|--------------|-------------|
| とうもろこし | 36,790        | 33,608        | 11.26        | 378,265     |
| 大豆     | 35,313        | 34,888        | 3.41         | 119,049     |

出典:USDA「Grain Stocks」(2025.9.30)をもとに農林水産省で作成

## 2 ブラジル:2025/26 年度の大豆の生産量は史上最高の見込み

ブラジル食料供給公社(CONAB)は 10 月 14 日、2025/26 年度の第1回目の生産予測を公表した。とうもろこしの生産量は、前年度から 1.8%減少し1億 3,860 万トンとなる見込み。これは、ブラジル産とうもろこしの需要増による価格上昇の期待から、作付面積が前年度から 3.9%増加し 2,269 万ヘクタールとなるものの、天候に恵まれ高単収を記録した前年度から、単収が 5.4%減少し 6.11トン/ヘクタールとなると見込まれるため。

現在、第1期作とうもろこし(夏とうもろこし)の作付作業が進んでいる。生産量は、前年度から 2.8%増加し 2,563 万トンとなる見込み。第1期作は主に南部地域で作付けされており、10 月初旬現在、作付進捗率は 29.1%に達し、前年同期及び過去5年平均を上回るペースで進展している。現在のところ、適切な降雨に恵まれ作物は順調に生長している。今期は収益性が改善するとの見込みから、コメや豆などの他作物から作付けがシフトしており、作付面積は前年度から 6.1%増加すると見込まれている。

とうもろこしの輸出量は、期首在庫量の増加と生産量の維持が予想されることを受け、前年度から 16.3%増加し 4,650 万トンとなる見込み。

大豆の生産量は、前年度から 3.6%増加し1億 7,764 万トンとなる見込み。これは、高い収益性によりコメなどの他作物から大豆に作付けがシフトすることから、作付面積が前年度から 3.6%増加し 4,907 万ヘクタールとなると見込まれるため。なお、単収は、前年度と同水準の 3,62 トン/ヘクタールとなる見込み。現在、今期の作付作業が開始されており、10 月中旬時点の作付進捗率は 11.1%と過去5年平均(16.9%)を下回っている。マト・グロッソ州北部、パラナ州等の生産地で降雨が記録されているものの散発的であり、10 月下旬以降に作業が本格化されると見込まれている。

大豆の輸出量は、米国大豆輸出量減と世界的な需要増、ブラジル産大豆の生産拡大が予想されることから、前年度から 5.1%増加し1億 1,212 万トンとなる見込み。



## Ⅱ 2025 年 10 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、9月末、180ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、米国産の堅調な輸出需要や冬小麦の作付け遅れ懸念等を受け180ドル/トン台後半まで上昇したものの、世界的に小麦の供給が潤沢なこと等を受けて下落し、10月中旬現在、180ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、9月末、160ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、米国の収穫の進展等を受け160ドル/トン台前半まで下落したものの、米国の堅調な国内需要や米国中西部の降雨懸念等を受けて上昇し、10月中旬現在、160ドル/トン台半ばで推移。

コメは、9月末、380ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、世界的な供給増や世界第一位の輸入国であるフィリピンによる輸入禁止等を受け更に下落し、10月中旬現在、370ドル/トン台で推移。

大豆は、9月末、360ドル/トン台後半で推移。10月に入り、米中首脳会談開催に向けた期待感等を受け370ドル/トン台後半まで上昇したものの、その後米中貿易摩擦の不透明感が高まったこと等を受け360ドル/トン後半まで下落した。10月中旬現在、大豆油高等を受け上昇し370ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場(期近物)、コメはタイ国家貿易委員会価格

## Ⅲ 2025/26 年度の穀物需給(予測)のポイント

2025/26 年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度から 2.7%増の 29.30 億トン。消費量は、前年度から 1.7%増の 29.33 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度から減少し、期末在庫率も前年度を下回り 26.0%となる見込み(P14 資料 2 参照)。

生産量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、29.30 億トンの見込み。

消費量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、29.33 億トンの見込み。

貿易量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、5.22 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.61 億トンと前年度より減少、期末在庫率も前年度より減少する見込み。

(注:数値は9月の USDA「PS&D」による)

## Ⅳ 2025/26 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

2025/26 年度の油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.92 億トン。消費量は前年度を上回り 6.87 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度から増加するものの、期末在庫率は前年度を下回り 21.1%となる見込み。

(注:数値は9月の USDA「PS&D」による)

## V 今月の注目情報: 米国のバイオ燃料向け穀物需給の動向

米国におけるバイオ燃料向け穀物需要は、「再生可能燃料基準」(RFS)によるバイオ燃料の混合義務量の増加を主な理由として年々増加の傾向にある。2025年6月には、米国環境保護庁(EPA)が、2026、2027年のRFSの案を公表したが、この案のとおり決定されれば、過去最大の混合義務量が設定されることとなり、バイオ燃料の原料として使用されているとうもろこしや大豆の需給のタイト化が予想される。

米国のバイオ燃料政策の動向と穀物需給への影響についてまとめた。

注: 文中の「2025/26 年度」等は市場年度で、米国のとうもろこしは 2025 年 10 月から 2026 年9月。市場年度は国や作物によって異なる(品目別需給編参照)。

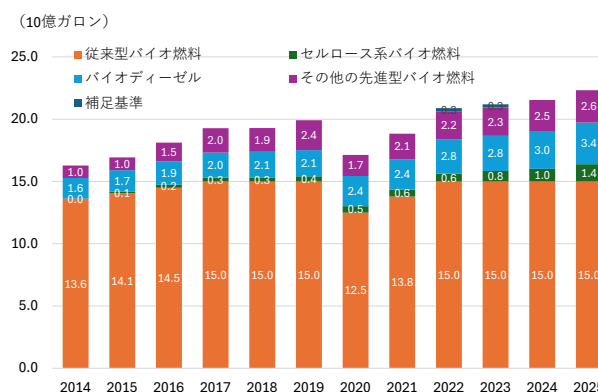
### 1 米国の再生可能燃料混合義務量案

米国は 2025 年9月現在で世界のとうもろこし生産量の 33%を占める最大のとうもろこし生産国である。また、世界の大豆生産量のうち 28%を占め、ブラジルに次ぐ第2位となっている(USDA「PS&D」(2025.9))。豊富な生産力を背景に、米国では「2005 年エネルギー政策法」(Energy Policy Act of 2005)によって確立され「2007 年エネルギー自立・安全保障法」(Energy Independence and Security Act of 2007)によって使用義務量が拡張された再生可能燃料基準(RFS)により、製油業者及び輸入業者に対し、ガソリンまたはディーゼルの燃料に一定量の再生可能燃料を混合することを毎年義務付けている(図1)。

再生可能燃料のカテゴリーには、主にとうもろこしを原料とする従来型バイオ燃料のほか、先進型バイオ燃料として、食物等の非可食部に含まれるセルロースを原料とするセルロース系バイオ燃料、大豆油や菜種油を原料とするバイオディーゼル、SAF 等のその他の先進型バイオ燃料がある。従来型バイオ燃料は、2005 年の石油燃料に対し温室効果ガス(GHG)20%削減が要件となっており、バイオディーゼル及びその他の先進型バイオ燃料では 50%、セルロース系バイオ燃料では 60%削減が要件となっている。

2025 年6月 13 日、米国環境保護庁(EPA)は 2026 年及び 2027 年の再生可能燃料混合義務量案を公表した(表1)。この案では、再生可能燃料の総混合義務量を 2025 年の 223 億 3,000 万ガロンから、2026 年には 240 億 2,000 万ガロン、2027 年には 244 億 6,000 万ガロンにすることを提案している。従来型バイオ燃料の義務量は 150 億ガロンと据え置かれた一方、バイオディーゼルの義務量が大幅に引き上げられ、2026 年には、2025 年の 33 億 5,000 万ガロンから約 67%(22 億 6,000 万ガロン)増の 56 億 1,000 万ガロン、2027 年には 58 億 6,000 万ガロンにすることが提

図1 再生可能燃料混合義務量の推移(2014 年以降)



出典: EPA「Renewable Fuel Annual Standards」等をもとに農林水産省で作成  
注: 2022、2023 年は 2016 年の RFS 基準の裁判所からの差し戻しを受け、追加義務量2億 5,000 万ガロンを含んでいる。

表1 2025 年6月に発表された再生可能燃料混合義務量案

| 単位: 10億ガロン  |       |       |       |          |          |
|-------------|-------|-------|-------|----------|----------|
| 区分          | 2023  | 2024  | 2025  | 2026 (案) | 2027 (案) |
| 再生可能燃料総量    | 20.94 | 21.54 | 22.33 | 24.02    | 24.46    |
| 先進型バイオ燃料    | 5.94  | 6.54  | 7.33  | 9.02     | 9.46     |
| セルロース系バイオ燃料 | 0.84  | 1.09  | 1.38  | 1.30     | 1.36     |
| バイオディーゼル    | 2.82  | 3.04  | 3.35  | 5.61     | 5.86     |
| 従来型バイオ燃料    | 15.00 | 15.00 | 15.00 | 15.00    | 15.00    |

出典: EPA「EPA Proposes New Renewable Fuel Standards to Strengthen U.S. Energy Security, Support Rural America, and Expand Production of Domestic Fuels」(2025.6.13)をもとに農林水産省で作成

案されている。また、今回の案には、製油業者等が主に自身に割り当てられた混合義務量を達成できない場合等に購入する、再生可能燃料識別番号(RIN)と呼ばれる RFS 制度の義務達成に使うクレジットについて、米国以外のバイオ燃料や原料から生成される RIN の価値を半減させる内容も含まれた。

## 2 米国のとうもろこし及び大豆の生産動向

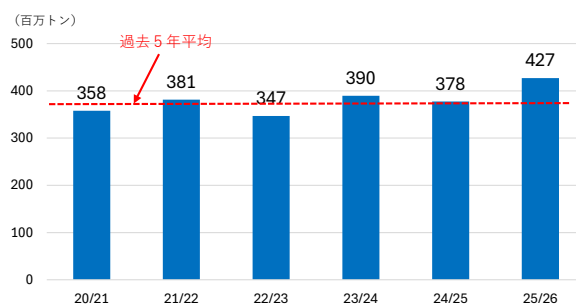
### (1) とうもろこし

USDA によれば、2025/26 年度のとうもろこしの生産量は前年度から 13.1%増、過去5年平均(3億 7,067 万トン)から 15.2%増の4億 2,711 万トンと史上最高となる見込み(図2)。収穫面積は前年度から 8.6%増の 3,644 万ヘクタールとなる見込み。とうもろこしに有利な価格相場により多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えたとみられる。また、単収は前年度から 4.1%増の 11.72 トン/ヘクタールとなる見込み。生育期間を通じて概ね生育に適した天候に恵まれ、記録的な豊作が見込まれている。同「Crop Progress」の作柄評価「良～優良」の割合は生育期間を通じて高い水準で推移しており、9月 28 日時点の「良～優良」の割合は 66%と、前年同期(64%)を上回っている(図3)。

### (2) 大豆

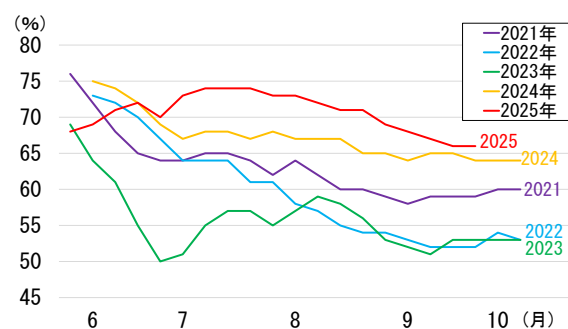
USDA によれば、2025/26 年度の大豆の生産量は前年度から 1.5%減、過去5年平均(1億 1,692 万トン)から微増の 1 億 1,705 万トンとなる見込み(図4)。収穫面積は前年度から 6.7%減の 3,250 万ヘクタールとなる見込み。とうもろこしに有利な価格相場により多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えたことで作付面積が減少したとみられる。一方、単収は、生育期間を通じて概ね生育に適した天候に恵まれ、前年度から 5.6%増の 3.60 トン/ヘクタールとなる見込み。但し、8～9月に高温乾燥の影響を受け、同「Crop Progress」の作柄評価「良～優良」の割合は9月 28 日時点で62%と、前年同期(64%)をやや下回っている(図5)。

図2 米国のとうもろこし生産量の推移



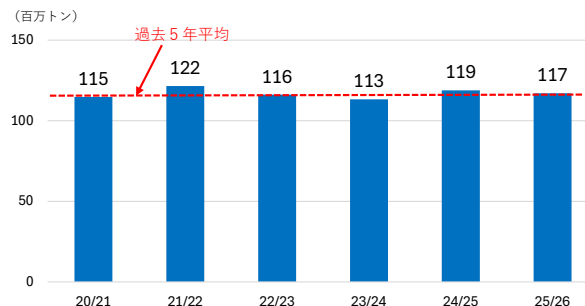
出典: USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

図3 米国のとうもろこしの作柄評価「良～優良」の割合



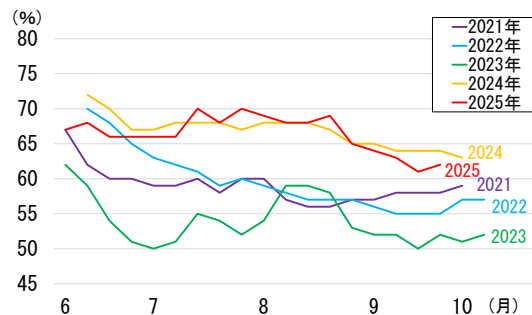
出典: USDA「Crop Progress」をもとに農林水産省で作成

図4 米国大豆の生産量の推移



出典: USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

図5 米国大豆の作柄評価「良～優良」の割合



出典: USDA「Crop Progress」をもとに農林水産省で作成

### 3 米国のとうもろこし及び大豆の輸出動向

#### (1) とうもろこし

USDA によれば、2025/26 年度のとうもろこしの輸出量は前年度から 5.1% 増、過去5年平均(6,079 万トン)から 24.3% 増の 7,557 万トンと史上最高となる見込み。同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度の輸出量は 6,776.2 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ、日本、コロンビアの順(表2)。米国産の価格競争力の高まり等により、前年度から輸出量が増加した。2022/23 年度には、中国向けが輸出量シェアの 20.3% を占めていたものの、2023/24 年度には 5.5%、2024/25 年度には 0.1% 以下となった。

米国は、トランプ大統領の就任以来、中国からの輸入品に対して追加関税を課しており、中国は報復関税などの貿易政策により、米国からの輸入量を減少させている。また、中国政府は国内の穀物生産の増加を促進しており、国内価格の低下から農家の利益を守る観点等から、米国以外からのとうもろこしの輸入についても大幅に抑制している。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 8 月の中国のとうもろこしの輸入量は 176.7 万トンと、前年同期(2,301.6 万トン)に比べ 92.3% 減と大幅に減少している(表3)。

#### (2) 大豆

USDA によれば、2025/26 年度の大豆の輸出量は前年度から 10.1% 減、過去5年平均(5,428 万トン)から 15.5% 減の 4,586 万トンとなる見込み。同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度の輸出量は 4,998.7 万トンで、主な輸出先国は、中国、メキシコ、エジプトの順(表4)。2022/23 年度には、中国が輸出量のシェアの 59.7% を占めていたものの、2024/25 年度には 44.7% となった。2025 年 6 月以降、中国への大豆の輸出は行われておらず、中国は、輸入先を南米へ大幅にシフトさせている。

表2 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2022/23年度<br>(2022年9月～2023年8月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年9月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年9月～2025年8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| メキシコ                           | 1,346.1      | 36.1       | メキシコ                           | 2,090.4      | 39.9       | メキシコ                           | 2,212.2      | 32.6       |
| 中国                             | 756.6        | 20.3       | 日本                             | 1,109.2      | 21.2       | 日本                             | 1,344.0      | 19.8       |
| 日本                             | 676.6        | 18.2       | コロンビア                          | 612.1        | 11.7       | コロンビア                          | 743.7        | 11.0       |
| コロンビア                          | 228.8        | 6.1        | 中国                             | 286.0        | 5.5        | 韓国                             | 617.4        | 9.1        |
| ホンジュラス                         | 86.4         | 2.3        | 韓国                             | 234.9        | 4.5        | 台湾                             | 241.7        | 3.6        |
| その他                            | 631.9        | 17.0       | その他                            | 910.9        | 17.4       | その他                            | 1,617.3      | 23.9       |
| 合計                             | 3,726.4      | 100.0      | 合計                             | 5,243.5      | 100.0      | 合計                             | 6,776.2      | 100.0      |

出典:「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」を  
もとに農林水産省で作成

表3 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年8月) |              |            |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| ブラジル                            | 1,479.6      | 64.3       | ブラジル                            | 72.4         | 41.0       |
| ウクライナ                           | 451.2        | 19.6       | ウクライナ                           | 37.6         | 21.3       |
| 米国                              | 297.3        | 12.9       | ロシア                             | 33.5         | 19.0       |
| ミャンマー                           | 19.7         | 0.9        | ミャンマー                           | 20.7         | 11.7       |
| ブルガリア                           | 18.2         | 0.8        | ラオス                             | 6.2          | 3.5        |
| ロシア                             | 14.4         | 0.6        | 米国                              | 3.9          | 2.2        |
| その他                             | 21.0         | 0.9        | その他                             | 2.3          | 1.3        |
| 計                               | 2,301.6      | 100.0      | 計                               | 176.7        | 100.0      |

出典:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

表4 米国の大豆の輸出先国と輸出量

| 2022/23年度<br>(2022年9月～2023年8月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年9月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年9月～2025年8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| 中国                             | 3,123.2      | 59.7       | 中国                             | 2,455.2      | 54.8       | 中国                             | 2,232.5      | 44.7       |
| メキシコ                           | 455.8        | 8.7        | メキシコ                           | 461.0        | 10.3       | メキシコ                           | 498.5        | 10.0       |
| ドイツ                            | 321.6        | 6.2        | ドイツ                            | 251.3        | 5.6        | エジプト                           | 369.2        | 7.4        |
| 日本                             | 208.7        | 4.0        | インドネシア                         | 227.9        | 5.1        | ドイツ                            | 273.1        | 5.5        |
| インドネシア                         | 188.5        | 3.6        | 日本                             | 188.4        | 4.2        | イタリア                           | 210.0        | 4.2        |
| その他                            | 930.4        | 17.8       | その他                            | 897.2        | 20.0       | その他                            | 1,415.2      | 28.3       |
| 合計                             | 5,228.1      | 100.0      | 合計                             | 4,480.9      | 100.0      | 合計                             | 4,998.7      | 100.0      |

出典:「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」を  
もとに農林水産省で作成

## 4 とうもろこし及び大豆の需給への影響

### (1) とうもろこし

USDA「U.S. Bioenergy Statistics」(2025.7.21)によれば、米国のとうもろこし需要(国内消費及び輸出を含む。)のうち概ね 36%がバイオ燃料向けであり、飼料用需要と並んで大きな割合を占めている(図6)。

今回の混合義務量案では、主にとうもろこしを原料とする従来型バイオ燃料は法的な上限である 150 億ガロンに据え置かれた。とうもろこしは、引き続き再生可能燃料の主要な原料として利用されるものとみられる。

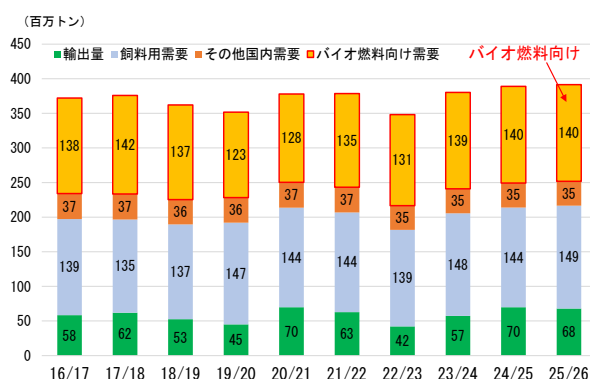
2025/26 年度のとうもろこしの記録的な豊作の中、生産者や業界関係者は、より多くの需要を求めており、現在、米国内で主流となっているバイオエタノール 10%混合(E10)から 15%混合(E15)への利用拡大を望む声があがっている。2025 年 10 月2日には、カリフォルニア州で E15 の販売が承認され、米国の 50 州すべてで E15 の販売が認められることとなった。とうもろこしの供給量が増加する中、需要の動向が注目される。

### (2) 大豆

今回の混合義務量案では、主に大豆油を原料とするバイオディーゼルの義務量が大幅に引き上げられた。2026 年には、2025 年の 33 億 5,000 万ガロンから約 67%(22 億 6,000 万ガロン)増加させ 56 億 1,000 万ガロン、2027 年には 58 億 6,000 万ガロンに増加させることが提案されている。報道情報によれば、混合基準引き上げ案に関して、業界関係者からは、原料コストの増加等を懸念する声の一部あるものの、概ね好意的に受け止められている。

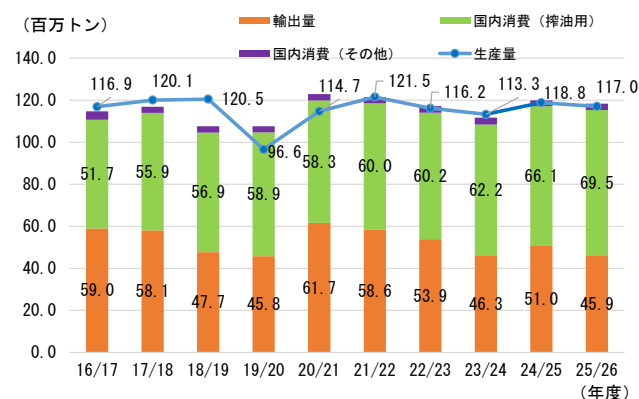
USDA によれば、2025/26 年度の大豆の国内消費量のうち搾油向けの消費量は 6,954 万トンと前年度から 5.1%増加する見込み(図7)。また、再生可能燃料混合義務量の増加見通し等を受け、大豆から搾油された大豆油のうち半数を超える 155 億ポンドがバイオ燃料として利用される見込みであり、前年度から 26%増加すると予測されている(図8)。

図6 米国のとうもろこしの需要の推移



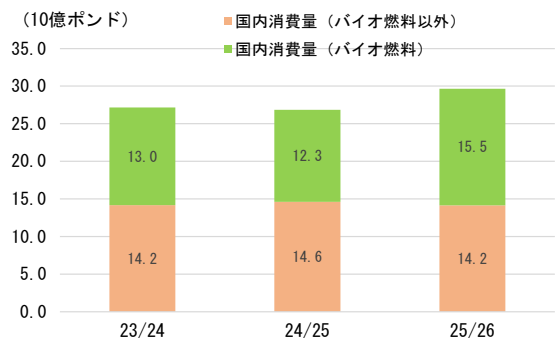
出典:USDA「U.S. Bioenergy Statistics」(2025.7.21)をもとに農林水産省で作成

図7 米国大豆の生産量、輸出量、国内消費



出典:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

図8 米国大豆油の国内消費量



出典:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

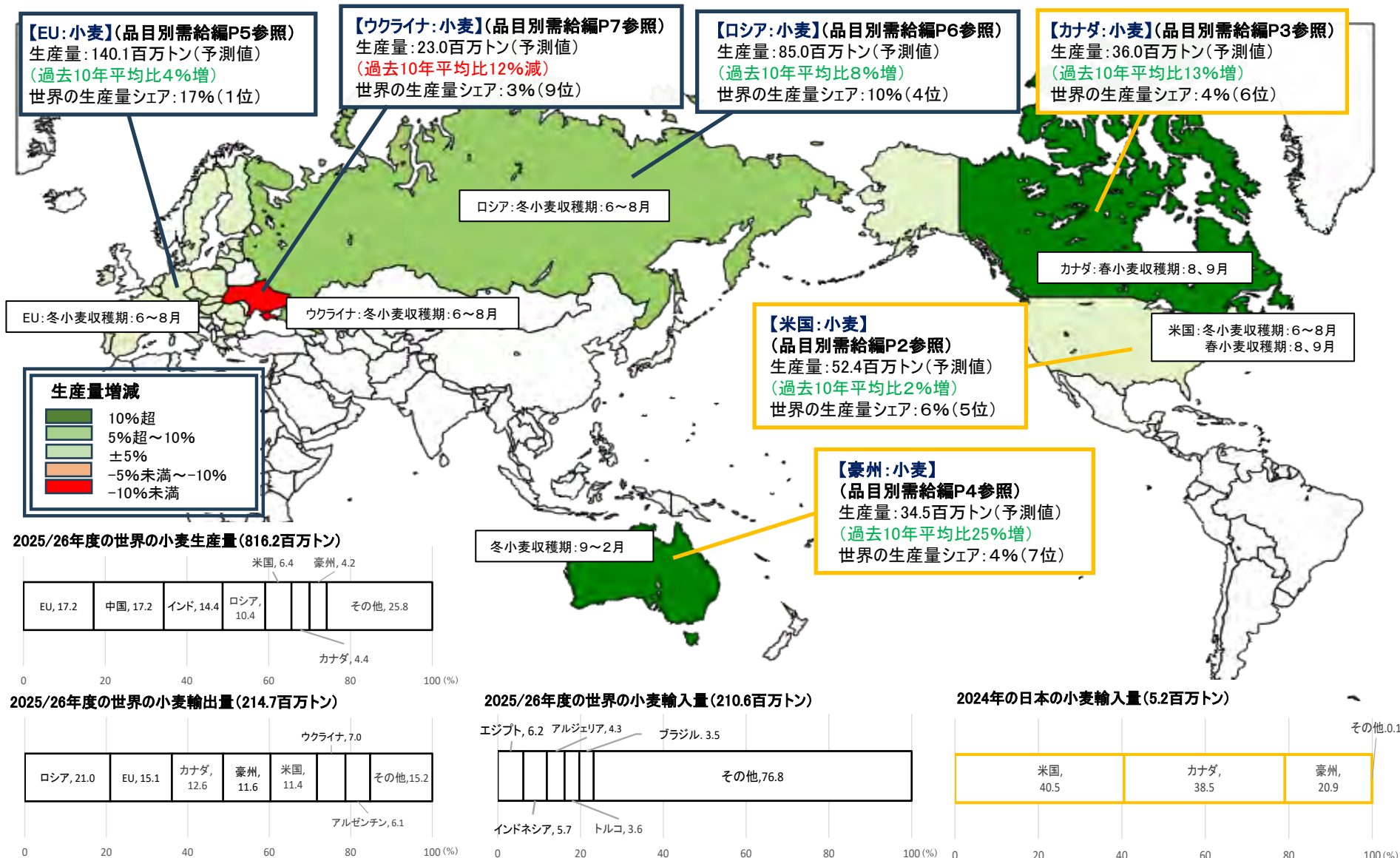


## 5 おわりに

今回の混合義務量案が最終決定されれば、特に大豆の国内需要が増加することが予想される。現在、米中貿易摩擦等の影響により中国は米国からの大豆輸入を停止している。このため、米国は短期的には輸出量の減少により国内消費量の増加に対応するとみられるものの、貿易政策の動向等を今後も注視していく必要がある。また、再生可能燃料義務量案は大きく変更される可能性もあり、今後の最終規則の公表についても注視したい。



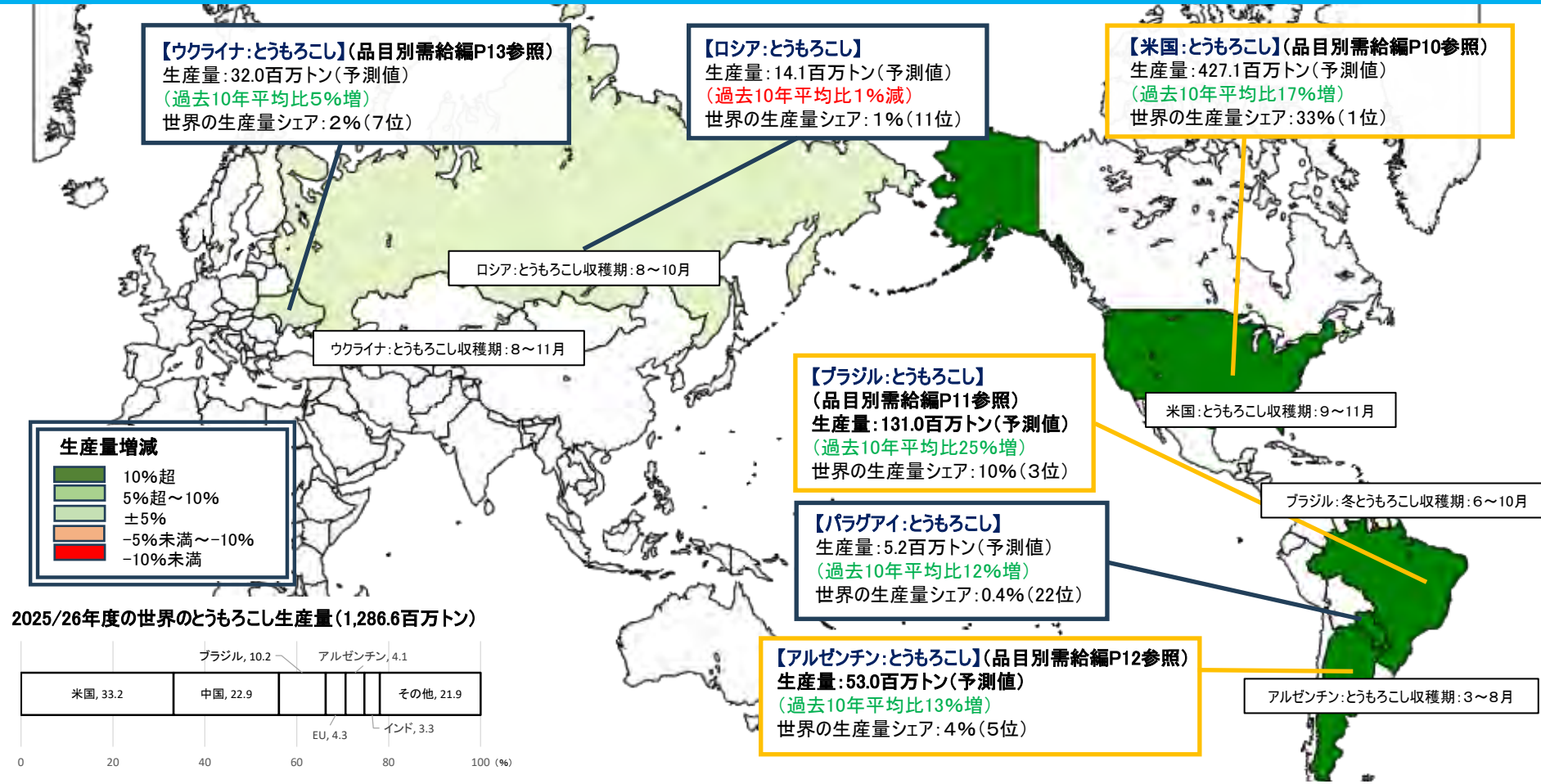
# 資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(10月版)



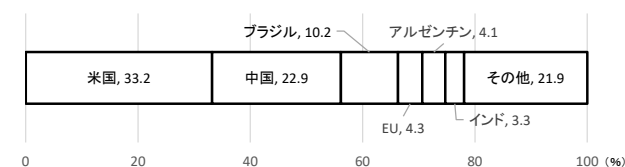
- 2024年度の日本の小麦輸入量は533万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(650万トン、うち食用は512万トン)の82.0%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は256kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の11.4%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.9)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(10月版)



2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,286.6百万トン)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(201.7百万トン)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸入量(193.2百万トン)

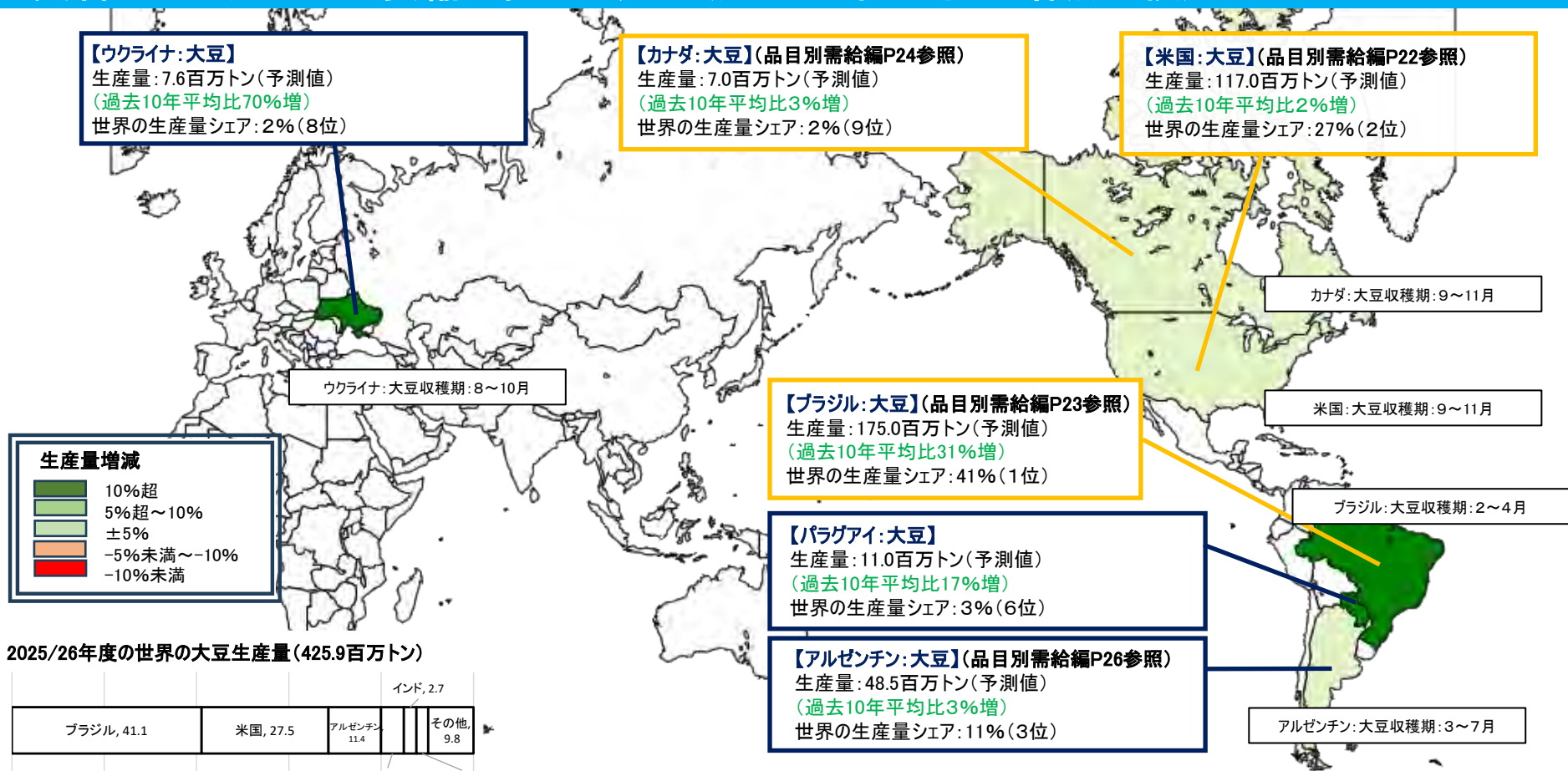


2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン)



○ 2024年度の日本のとうもろこし輸入量は1,522万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,518万トン、うち飼料用は1,194万トン)のほぼ全量を占める。

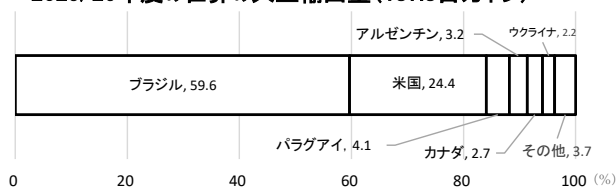
# 資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(10月版)



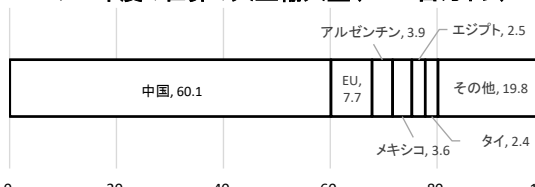
2025/26年度の世界の大豆生産量(425.9百万トン)



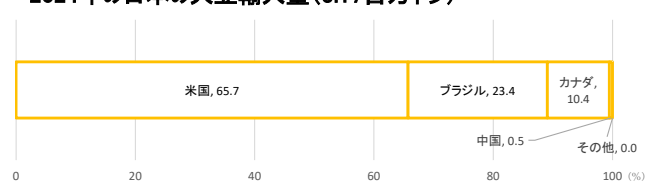
2025/26年度の世界の大豆輸出量(187.8百万トン)



2025/26年度の世界の大豆輸入量(186.2百万トン)



2024年の日本の大豆輸入量(3.17百万トン)



- 2024年度の日本の大豆輸入量は309万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(359万トン、うち大豆油などの加工用は256万トン、食用は88万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は58kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の2.6%を占める。

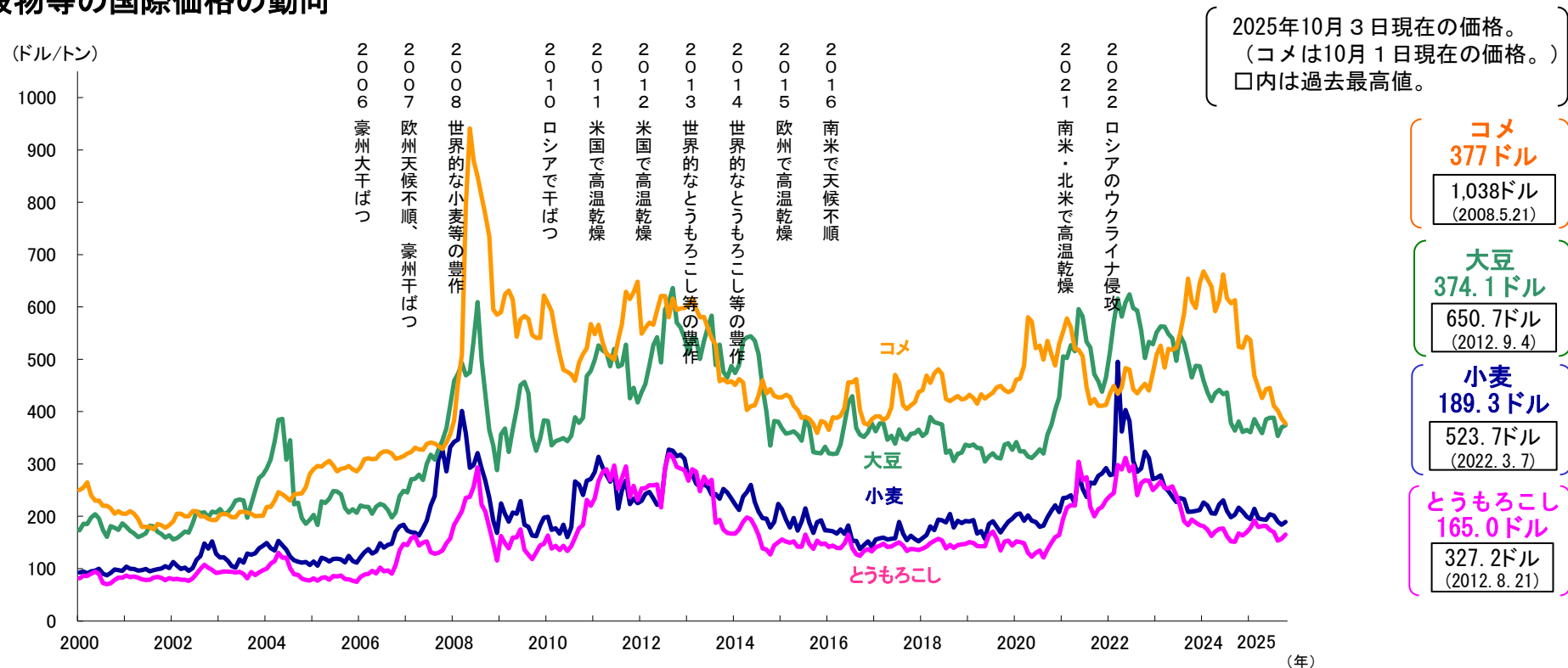
出典: USDA「PS&D」(2025.9)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。



# 資料 1－4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

## □ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

# 資料 1－5 サプライチェーン等に関する状況

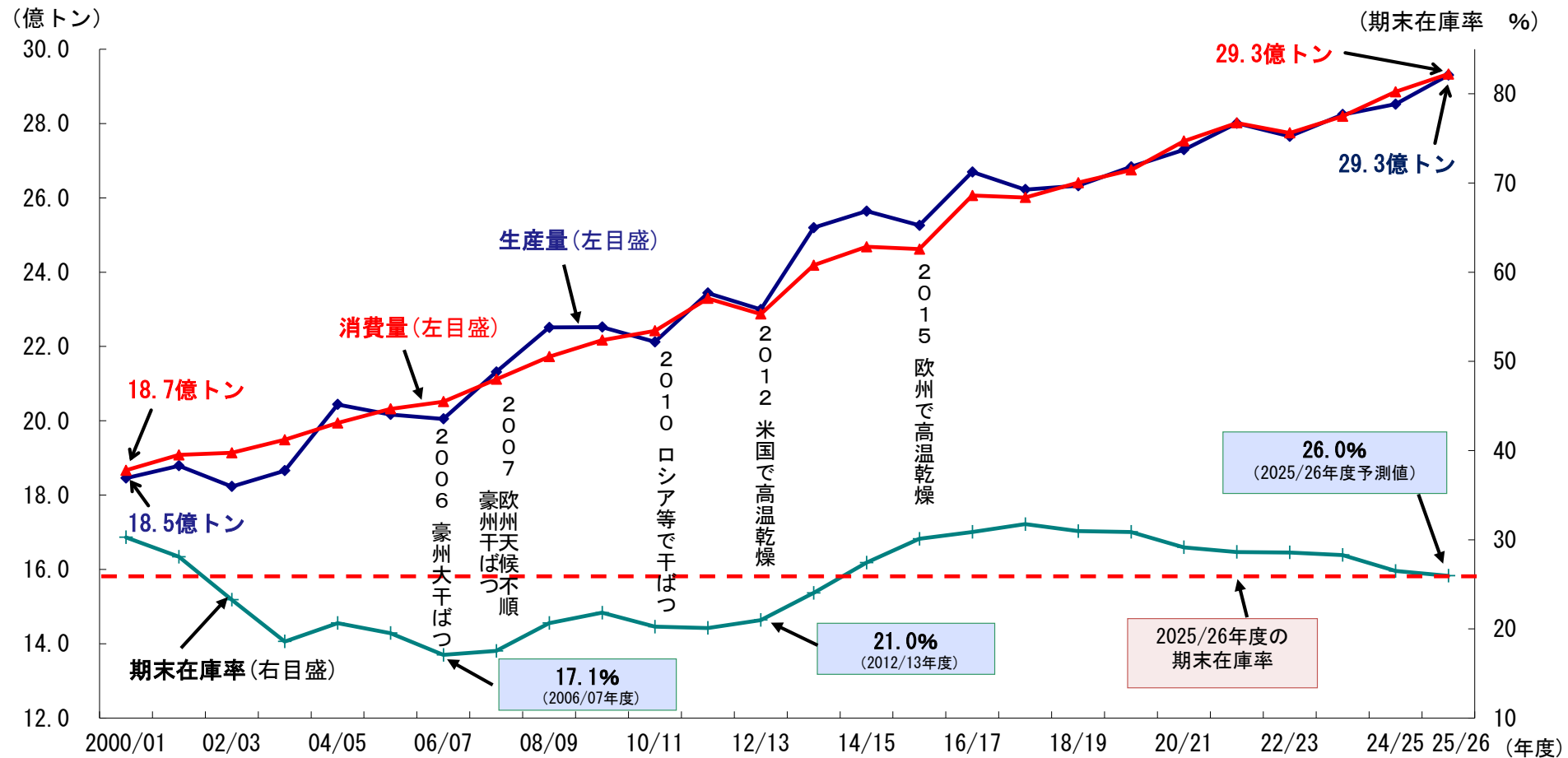
## ○サプライチェーン等に大きな影響を与える情報は特段なし（2025年9月25日時点）

| 生産国の情報                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | チョークポイント情報                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | その他                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○米国<br/>8月の中南部とミシシッピ川の主要な支流であるオハイオ川上流域の少雨の影響で、ミシシッピ川下流の水位が低下。水位低下に伴い、9月2日から下流のはしけ通行の制限を開始。9月23日現在、ミシシッピ川下流のはしけ運賃は4週間前から31%上昇したものの、川の浚渫が行われたこともあり大幅には上昇していない。</p> <p>○ブラジル<br/>主要河川の流量変動によるサプライチェーンへの影響に関する情報は特段なし。</p> <p>○アルゼンチン<br/>パラナ川の水位が平年を下回る状況が続いているものの、現時点ではサプライチェーンへの影響に関する情報は特段なし。</p> <p>○カナダ<br/>中国がカナダ産菜種への反ダンピング調査を6か月延長（2026年3月まで）。</p> <p>○豪州<br/>中国はカナダとの外交・貿易摩擦を背景に、豪州産菜種の輸入を増加させる可能性がある。</p> <p>○マレーシア<br/>霊芝菌に感染したアブラヤシが確認されておりし、単収が減少する可能性がある。</p> | <p>○パナマ運河<br/>パナマ運河の通行に関し特段問題なし。8月のパナマ運河通行数は、1日平均32.2隻と前月33.1隻と比べ微減となったものの、前年同月31.5隻と比べ微増。</p> <p>○スエズ運河<br/>特筆すべき情報なし。</p> <p>○バブ・エル・マンデブ海峡周辺<br/>2025年8月の同海峡の船舶通過数が2024年1月以来で最高水準。依然としてフーシ派の攻撃は続いているものの、一部の船主が航路利用を再開したことによるものと考えられる。</p> <p>○喜望峰<br/>コンテナ業界関係者によれば、紅海の情勢不安は継続しており、喜望峰経由の利用が継続されている。</p> | <p>○海上保険料<br/>国際海上保険連合(IUMI)によれば、2024年に海上保険料総額は400億ドルに迫り、前年比で1.5%増加した。(IUMI, 2025)</p> <p>○ラニーニャ現象に移行する可能性<br/>世界気象機関(WMO)は、2025年9月～11月の太平洋熱帯域の海面水温がラニーニャ現象水準まで低下する可能性が55%であると発表。</p> |

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.0%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



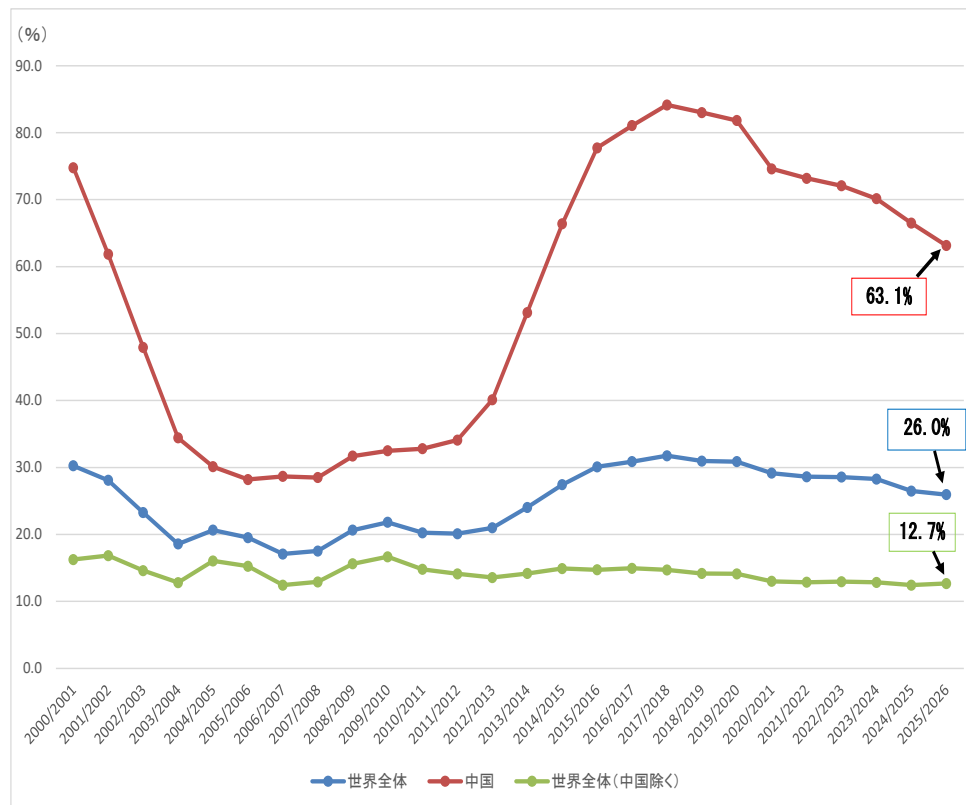
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2025)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

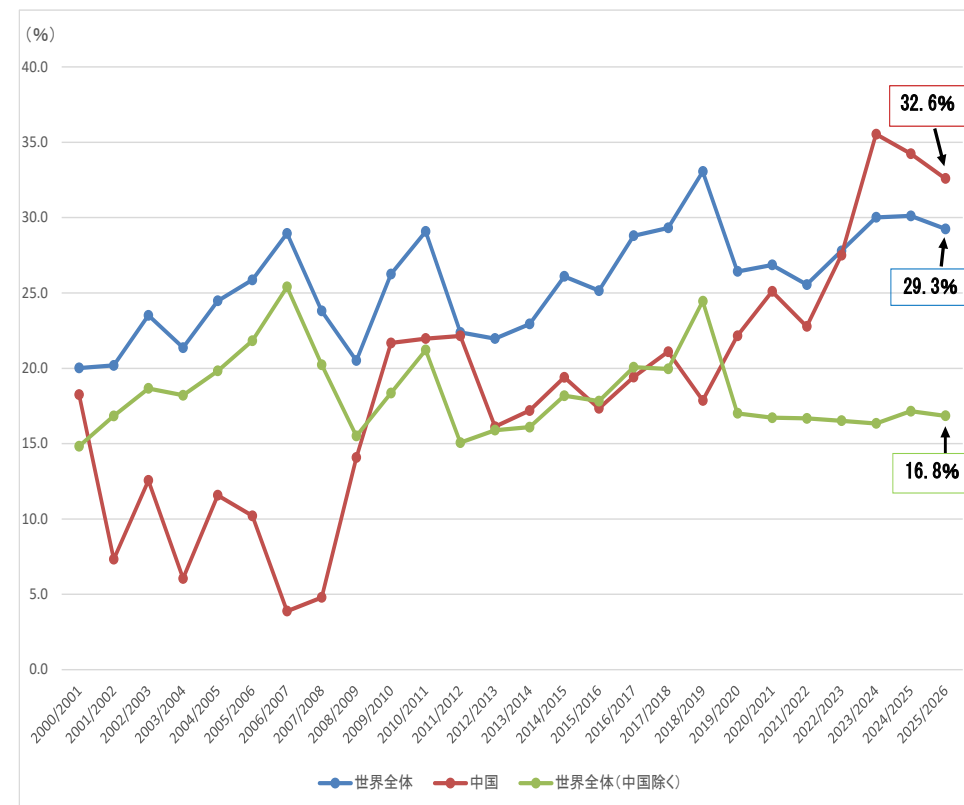


# 資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

## ○ 穀物全体の期末在庫率の推移



## ○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(September 12, 2025)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

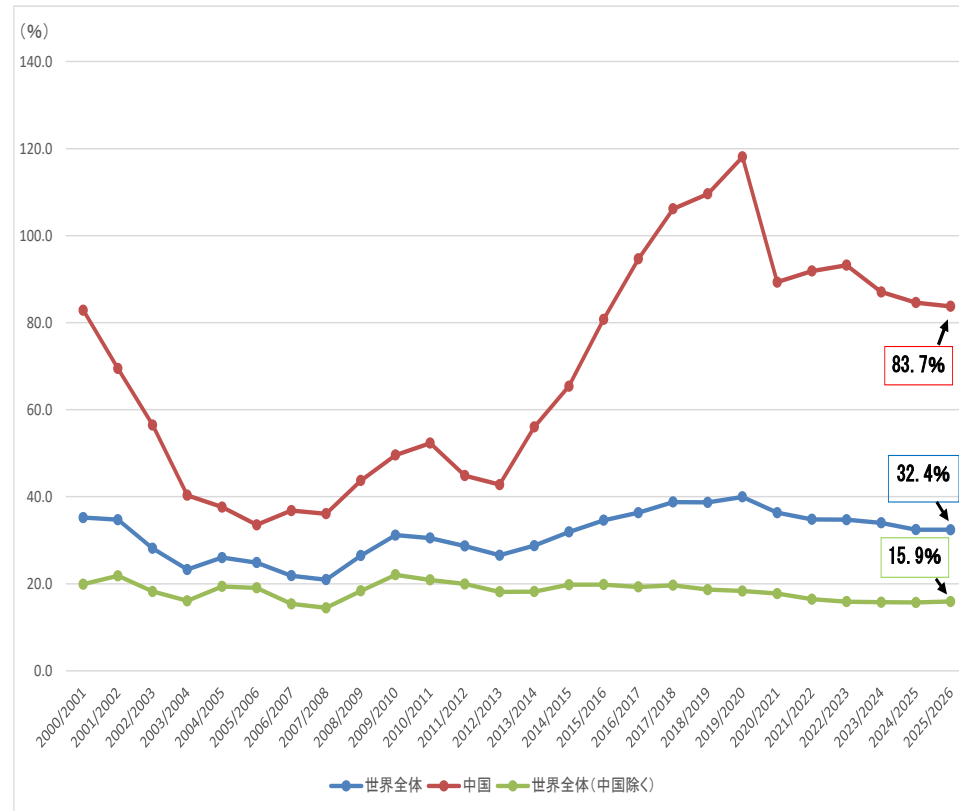
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

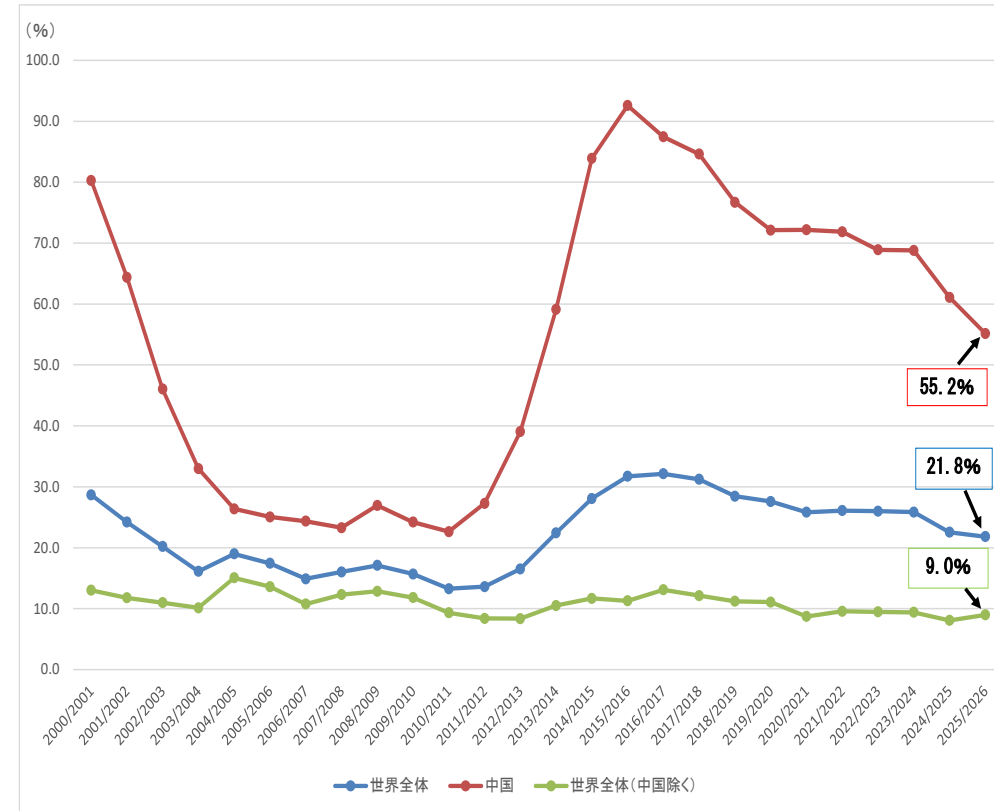
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

# 資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

## ○ 小麦の期末在庫率の推移



## ○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(September 12, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

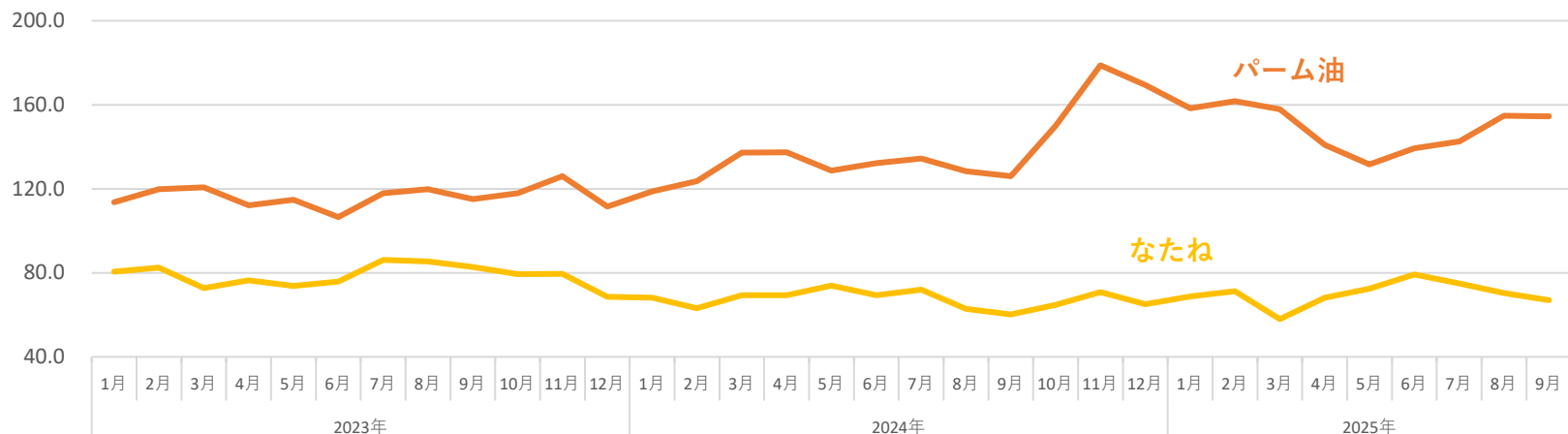
3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

# 資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇したが、その後マレーシアとインドネシアのパーム油生産量増加や在庫の増加見通し等により下落。直近では、インドからの堅調な祝祭需要等により上昇傾向にある。
- なたねについては、概ね安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順による収穫量減少等により、2024年以降上昇していた。直近ではブラジルの生産増加見込み等により下降傾向であったが、米国の関税政策をめぐる不確実性等により、上昇に転じている。

(千円/トン)



2025年10月24日現在  
□内は2023年1月以降  
の最高値。

パーム油  
154.5千円/トン

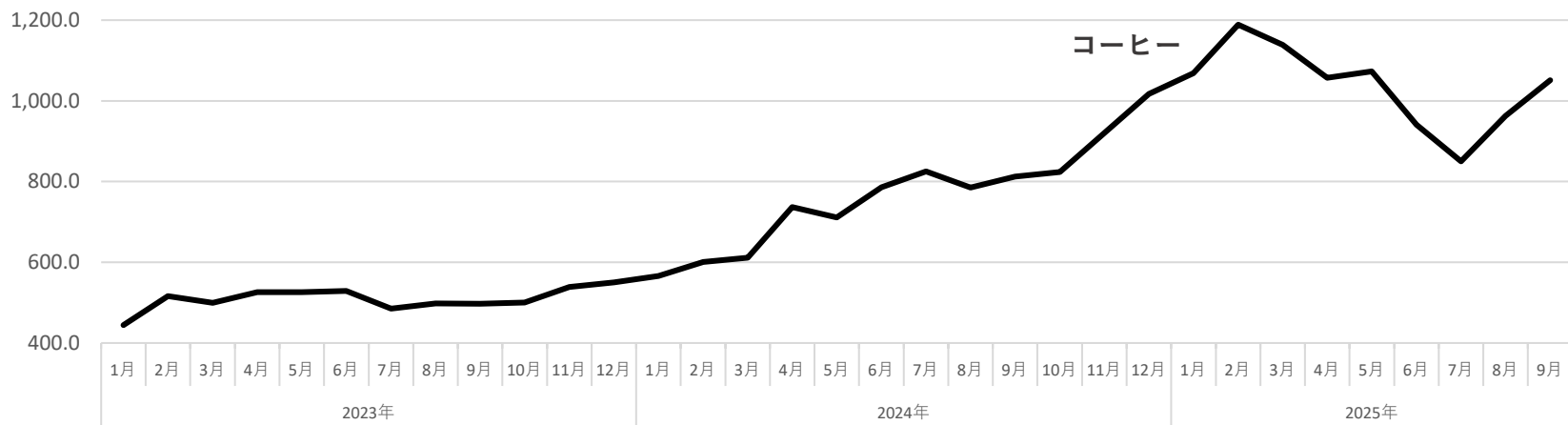
178.8千円/トン  
(2024.11)

なたね

なたね  
67.0千円/トン

86.2千円/トン  
(2023.7)

(千円/トン)



コーヒー  
1050.9千円/トン

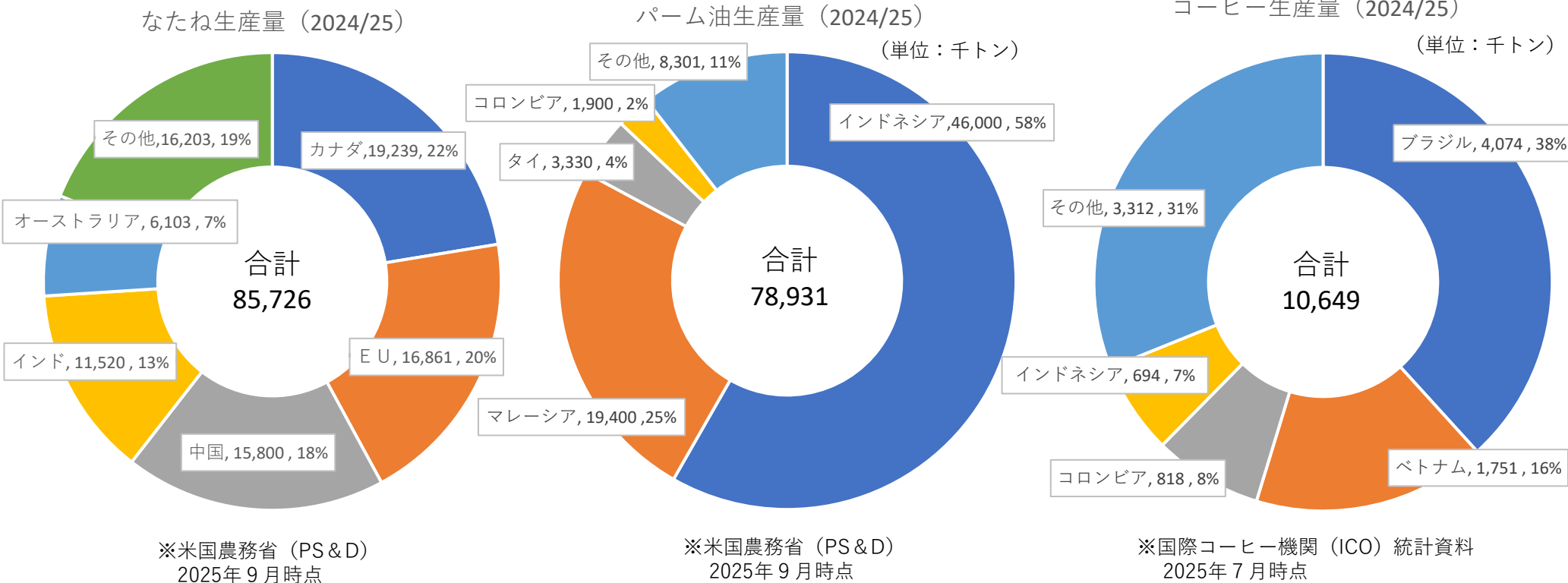
1188.8千円/トン  
(2025.2)

コーヒー

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニベグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況（単位：千トン）



○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2024年））

| なたね     | 輸入量   | 割合     | パーム油   | 輸入量 | 割合     | コーヒー  | 輸入量 | 割合    |
|---------|-------|--------|--------|-----|--------|-------|-----|-------|
| オーストラリア | 1,141 | 54.2%  | マレーシア  | 561 | 85.6%  | ブラジル  | 130 | 36.1% |
| カナダ     | 963   | 45.8%  | インドネシア | 94  | 14.4%  | ベトナム  | 97  | 26.9% |
| その他     | 0     | 0.0%   | その他    | 0   | 0.0%   | コロンビア | 36  | 10.0% |
| 合計      | 2,104 | 100.0% | 合計     | 655 | 100.0% | その他   | 97  | 26.9% |

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

# 資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

## ①なたね

単位（千円/トン）

|       | 2023年 |       |      |       |      |       |       |       |      |      |       |      | 2024年 |      |       |      |       |      |       |      |       |       |       |      | 2025年 |       |      |       |       |       |       |       |       |     |     |     |
|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
|       | 1月    | 2月    | 3月   | 4月    | 5月   | 6月    | 7月    | 8月    | 9月   | 10月  | 11月   | 12月  | 1月    | 2月   | 3月    | 4月   | 5月    | 6月   | 7月    | 8月   | 9月    | 10月   | 11月   | 12月  | 1月    | 2月    | 3月   | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月 | 11月 | 12月 |
| なたね   | 80.6  | 82.4  | 72.8 | 76.4  | 73.8 | 75.9  | 86.2  | 85.5  | 82.8 | 79.4 | 79.6  | 68.6 | 68.2  | 63.1 | 69.4  | 69.3 | 73.9  | 69.4 | 71.9  | 62.8 | 60.2  | 64.8  | 70.8  | 65.1 | 68.7  | 71.2  | 58.0 | 68.2  | 72.4  | 79.2  | 74.9  | 70.4  | 67.0  |     |     |     |
| 前月比   | 93.1  | 102.2 | 88.3 | 105.0 | 96.7 | 102.7 | 113.6 | 99.2  | 96.9 | 95.9 | 100.2 | 86.1 | 99.5  | 92.5 | 109.9 | 99.9 | 106.6 | 93.8 | 103.7 | 87.3 | 126.1 | 107.7 | 109.3 | 91.9 | 105.7 | 103.7 | 81.4 | 117.6 | 106.3 | 109.4 | 94.6  | 93.9  | 95.2  |     |     |     |
| 前年同月比 | 90.2  | 90.4  | 70.1 | 66.0  | 61.4 | 70.5  | 96.1  | 100.6 | 96.9 | 85.3 | 84.8  | 79.2 | 84.6  | 76.6 | 95.4  | 90.8 | 100.1 | 91.4 | 83.5  | 73.5 | 812.1 | 81.5  | 89.0  | 94.9 | 100.7 | 112.9 | 83.5 | 98.3  | 98.0  | 114.2 | 104.2 | 112.1 | 111.4 |     |     |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

## ②パーム油

単位（千円/トン）

|       | 2023年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2024年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2025年 |       |       |       |       |       |       |       |       |     |     |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
|       | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月 | 11月 | 12月 |
| パーム油  | 113.7 | 119.9 | 120.6 | 112.1 | 114.7 | 106.5 | 117.9 | 119.8 | 115.1 | 118.0 | 126.1 | 111.6 | 118.7 | 123.7 | 137.2 | 137.4 | 128.7 | 132.2 | 134.4 | 128.3 | 126.1 | 150.1 | 178.8 | 169.4 | 158.4 | 161.8 | 157.8 | 140.9 | 131.7 | 139.2 | 142.5 | 154.8 | 154.5 |     |     |     |
| 前月比   | 109.1 | 105.4 | 100.7 | 93.0  | 102.3 | 92.9  | 110.7 | 101.6 | 96.1  | 102.4 | 106.9 | 88.5  | 106.4 | 104.2 | 110.9 | 100.2 | 93.7  | 102.7 | 101.7 | 95.4  | 98.2  | 119.1 | 119.1 | 94.7  | 93.5  | 102.2 | 97.6  | 89.2  | 93.5  | 105.7 | 102.3 | 108.7 | 99.8  |     |     |     |
| 前年同月比 | 78.8  | 73.9  | 64.2  | 56.2  | 61.1  | 61.7  | 96.3  | 96.1  | 97.7  | 98.0  | 114.2 | 107.1 | 104.4 | 103.2 | 113.7 | 122.6 | 112.2 | 124.1 | 114.0 | 107.1 | 109.5 | 127.3 | 141.8 | 151.8 | 133.4 | 130.8 | 115.0 | 102.5 | 102.3 | 105.3 | 106.0 | 120.7 | 122.6 |     |     |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出



資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

|               | 2023年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2024年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        | 2025年  |        |        |        |        |       |       |       |        |     |     |     |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-----|-----|-----|
|               | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月    | 1月     | 2月     | 3月     | 4月     | 5月     | 6月    | 7月    | 8月    | 9月     | 10月 | 11月 | 12月 |
| コー<br>ヒー      | 444.4 | 516.3 | 499.6 | 526.2 | 526.1 | 529.1 | 485.5 | 498.1 | 497.4 | 500.3 | 538.5 | 550.2 | 566.3 | 601.1 | 611.7 | 737.0 | 710.8 | 786.3 | 825.0 | 785.5 | 812.1 | 823.4 | 920.3 | 1017.3 | 1068.8 | 1188.8 | 1138.7 | 1057.4 | 1072.9 | 940.6 | 850.2 | 963.0 | 1050.9 |     |     |     |
| 前月<br>比       | 93.2  | 116.2 | 96.8  | 105.3 | 100.0 | 100.6 | 91.8  | 102.6 | 99.9  | 100.6 | 107.6 | 102.2 | 102.9 | 106.2 | 101.8 | 120.5 | 96.5  | 110.6 | 104.9 | 95.2  | 103.4 | 101.4 | 111.8 | 110.5  | 105.1  | 111.2  | 95.8   | 92.9   | 101.5  | 87.7  | 90.4  | 113.3 | 109.1  |     |     |     |
| 前年<br>同月<br>比 | 85.8  | 96.7  | 98.5  | 95.3  | 95.4  | 88.7  | 83.4  | 84.2  | 78.8  | 85.5  | 112.0 | 115.4 | 127.4 | 116.4 | 122.4 | 140.1 | 135.1 | 148.6 | 169.9 | 157.7 | 163.3 | 164.6 | 170.9 | 184.9  | 188.8  | 197.8  | 186.2  | 143.5  | 150.9  | 119.6 | 103.1 | 122.6 | 129.4  |     |     |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ  
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出  
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

## 資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年9月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は118.7～159.0（前年同月比は-0.9%～15.3%）の範囲内。

### 消費者物価指数（総務省） （令和7年4月～令和7年9月）

|                 | R4    | R5    | R6    | R7    |       |       |       |       |       |                    |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| 品目              | 年平均   | 年平均   | 年平均   | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 食パン             | 110.2 | 118.7 | 122.0 | 127.1 | 127.4 | 127.8 | 127.4 | 127.0 | 126.5 | 3.5%               |
| 即席めん            | 107.6 | 119.7 | 122.4 | 119.1 | 121.0 | 119.3 | 120.5 | 120.6 | 119.1 | -0.9%              |
| 豆腐              | 105.3 | 114.6 | 118.2 | 120.4 | 120.6 | 121.8 | 121.8 | 122.0 | 121.9 | 2.6%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 144.4 | 160.2 | 148.6 | 147.5 | 149.3 | 149.8 | 150.0 | 144.7 | 147.0 | 1.9%               |
| みそ              | 101.2 | 108.1 | 113.6 | 116.1 | 118.0 | 117.7 | 118.3 | 118.1 | 118.7 | 3.4%               |
| マヨネーズ           | 125.6 | 149.5 | 153.1 | 151.9 | 153.7 | 151.8 | 153.0 | 152.3 | 159.0 | 3.7%               |
| チーズ             | 107.5 | 131.1 | 133.0 | 141.8 | 138.6 | 137.0 | 139.9 | 145.1 | 144.5 | 8.3%               |
| バター             | 99.2  | 108.6 | 119.7 | 124.4 | 125.9 | 126.6 | 133.5 | 137.6 | 138.4 | 15.3%              |
| 生鮮食品を<br>除く食料   | 104.1 | 112.6 | 116.9 | 123.6 | 124.6 | 125.4 | 126.0 | 126.4 | 126.7 | 7.6%               |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

### 【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和7年4月～令和7年10月）

|                 | R4    | R5    | R6    | R7    |       |       |       |       |       |       |              |                    |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|
| 品目              | 年平均   | 年平均   | 年平均   | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 食パン             | 107.8 | 114.5 | 117.9 | 124.7 | 124.0 | 124.2 | 125.3 | 124.7 | 124.9 | 123.8 | -0.9%        | 4.7%               |
| 即席めん            | 105.6 | 117.5 | 118.8 | 117.3 | 117.3 | 116.1 | 118.5 | 119.1 | 116.1 | 117.9 | 1.6%         | 2.1%               |
| 豆腐              | 103.7 | 113.0 | 116.4 | 120.7 | 119.8 | 119.8 | 118.5 | 119.3 | 118.9 | 120.2 | 1.1%         | 1.4%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 140.7 | 159.4 | 145.8 | 142.2 | 140.3 | 141.6 | 141.3 | 142.2 | 142.9 | 143.8 | 0.6%         | -0.5%              |
| みそ              | 100.1 | 105.9 | 109.5 | 110.2 | 110.4 | 111.7 | 113.6 | 113.1 | 114.2 | 123.8 | 8.4%         | 12.5%              |
| マヨネーズ           | 117.7 | 139.8 | 141.2 | 138.9 | 140.3 | 139.6 | 139.6 | 139.9 | 145.4 | 149.2 | 2.6%         | 6.1%               |
| チーズ             | 105.7 | 126.5 | 127.0 | 136.7 | 134.7 | 130.3 | 134.2 | 138.2 | 139.2 | 138.7 | -0.4%        | 7.7%               |
| バター             | 99.1  | 108.0 | 119.3 | 127.1 | 127.1 | 127.3 | 136.2 | 138.5 | 139.4 | 139.8 | 0.3%         | 17.1%              |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

## 資料6 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を『月報 畜産の情報』（[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_000168.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000168.html)）で公表

○2025年11月号（10月24日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

### ◆牛肉

- （米国）25年8月の牛肉生産量はかなり大きく減少、卸売価格は大幅に上昇
- （豪州）牛肉需要は好調を維持、年間牛肉生産量を過去最高の見通し
- （ウルグアイ）25年の牛と畜頭数および牛肉輸出量は前年同期比増で推移

### ◆豚肉

- （メキシコ）25年、26年の豚肉生産量は前年を上回る見込み
- （EU）25年上半期の豚肉生産量は増加も、価格は低下傾向

### ◆牛乳・乳製品

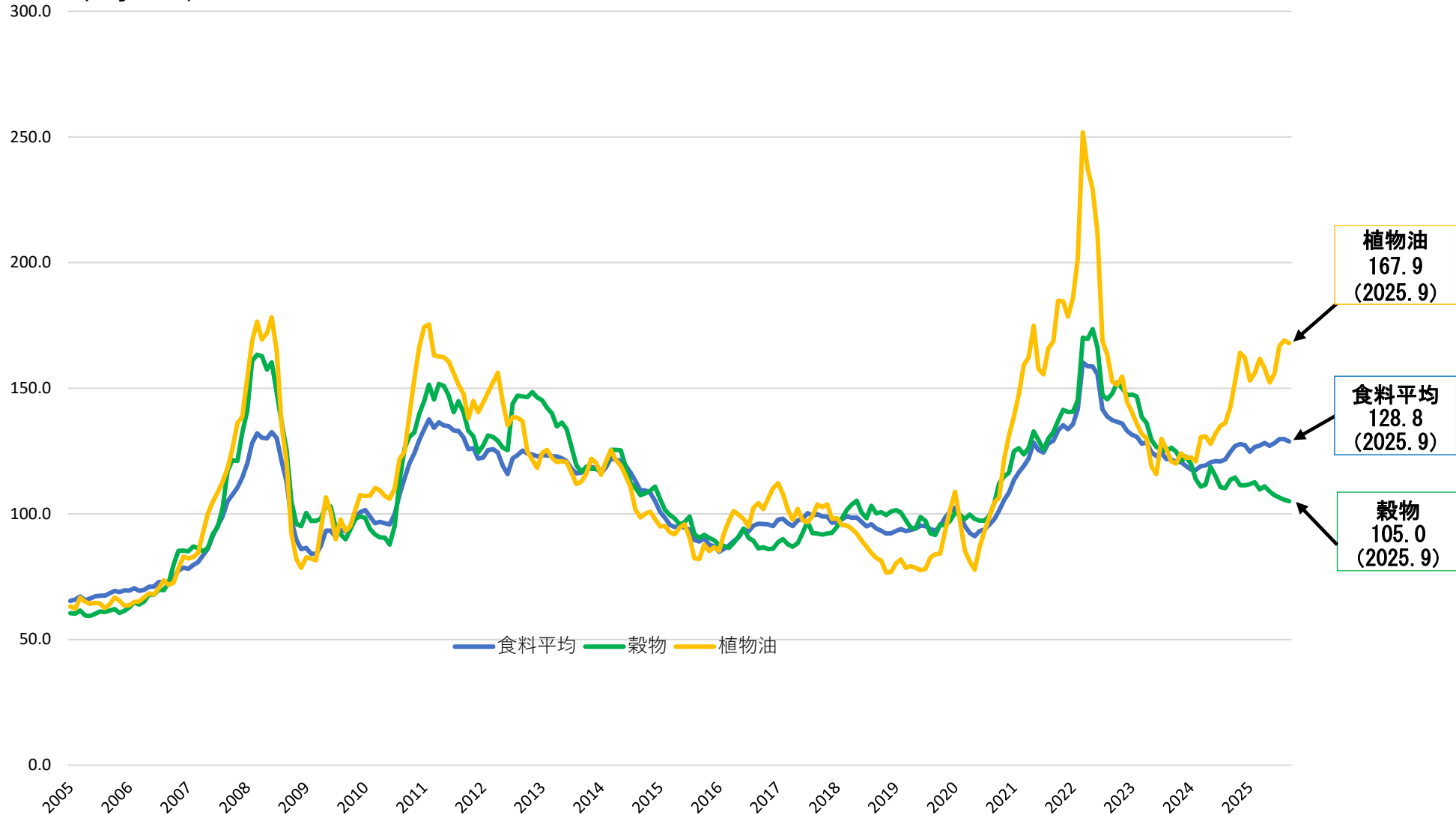
- （米国）25年8月の生乳生産量は増加、同月のバター・チーズ卸売価格は増産で下落基調
- （EU）25年9月第3週の乳製品価格、チーズは上昇もバターや粉乳は下落
- （NZ）25/26年度の生乳生産量は前年度を上回って推移
- （中国）生乳価格は引き続き下落、主要乳製品輸入量は脱脂粉乳を除き増加

### ◆飼料穀物

- （世界・トウモロコシ）25/26年度は生産量の下方修正から期末在庫は下方修正
- （世界・大豆）米国大豆生産量は上方修正となるも期末在庫は下方修正
- （米国）生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加
- （ブラジル）24/25年度トウモロコシおよび大豆の生産量、いずれも前年度比増
- （中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

## 資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.9)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

## 【今月のコラム】

### マレーシアの食事情①: 食文化

マレーシアは、マレー半島とボルネオ島から成る国です。マレー半島の西側に位置するマラッカ海峡は、インドネシアのスマトラ島との間にあり、「海のシルクロード」と呼ばれてきました。古くから東西交易の要衝として多くの商人が行き交い、特に 19 世紀のイギリスによる植民地時代には、インド系や中国系の移民が流入し、現在の多民族社会の基盤が築かれました。現在、先住民を含むマレー系が約 70% (先住民 12% を含む)、中華系が約 23%、インド系が約 7% を占めています (2023 年マレーシア統計局)。こうした歴史的背景や民族構成は、マレーシアの多彩な食文化を育んできました。今回はマレーシアの食文化として、代表的なマレーシア料理を紹介します。

マレーシアの国民料理と言えば、何とんでも「ナシレマ (Nasi Lemak)」です。ココナッツミルクで炊いたご飯に、サンバル(チリソース)、ゆで卵、揚げた小魚やピーナッツ、キュウリのスライスを添えた料理です。朝、道端の屋台では、バナナの葉でピラミッド型に包んだナシレマが驚くほどの安さで売られています。朝食の定番ですが、フライドチキンや、牛肉をたっぷりの香辛料でじっくりと煮込んだルンダンを添えれば、立派なディナーにもなります。



写真1: 露天商で売られるナシレマ

また、インド系ムスリムの人々が営む飲食店「ママック」は、安価で 24 時間営業の店舗が多く、いつでも客で賑わっています。定番メニューは「ロティチャナイ (Roti Canai)」で、薄く伸ばした生地を何度も折りたたんで焼いたパンのような料理です。カレーソースを付けて食べるのが一般的で、生地を薄く伸ばす職人技は見応えがあります。



写真2: ロティチャナイを作るところ  
(近所のママックで)

## 【今月のコラム】

こうしたムスリム系の食事は、もちろんハラルであり、豚肉を使用しないのが特徴です。一方、マレーシアのイスラム教徒の割合は全人口の約 65%であり、ハラルではない食事も広く一般に浸透しています。その代表的な例が中華料理です。19 世紀以降に移住した中華系の人々は独自の屋台文化を発達させました。特に有名な



写真3: バクテー

のは「バクテー (Bak Kut Teh)」です。これは、豚肉の様々な部位を漢方スパイス、醤油などで長時間煮込んだ料理です。元々は中華系労働者の朝ごはんとして、安価な豚の内臓を、香辛料で煮込むことで食べやすくしたのが始まりだそうです。マレーシアのバクテーは醤油味で黒い色をしています、見た目に反して優しい味わいが特徴です。ちなみに、バクテーはシンガポールでも有名で、そちらのバクテーは胡椒と塩を主とした白いスープです。どちらのバクテーが美味しいかは、両国が譲れない論争になっているようです。

他にも、「海南チキンライス (Hainanese Chicken Rice)」は鶏スープで炊いたご飯に茹で鶏を合わせた人気料理です。また、平たい米粉麺を炒めた「チャークイティオ (Char Kway Teow)」は大使館員推薦の一品です。

そして、マレーシアの多民族文化の融合を象徴するのが「プラナカン (ニョニャ)」料理です。ニョニャとは、中華系移民とマレー系とが結婚した子孫の女性のことを指し、ニョニャ料理はマレーの多様なスパイスに中華の食材や調理技術が組み合わさり、とても鮮やかで香り豊かな料理です。「ラクサ (Laksa)」という米粉で作った麺料理が代表的で、地方にそれぞれに味が違うそうです。特に、美食の街と呼ばれるペナンのラクサは、こちらも大使館員からおすすめされた料理のひとつです。



写真4: 鮮やかなニョニャ・スイーツ



## 【今月のコラム】

さて、話はつきませんが、現地で総じて感じることは、まず“スパイシー”であることです。「そんなにスパイシーじゃないよ」と言われて頼んだ料理も、やっぱりピリ辛。うっかり「辛い」と書かれたものを選んでしまうと、涙が出るほどホット！です。もう1つ感じるのは、“クリスピー”であることです。サクサクした食感が好きなのでしょう、様々な料理に揚げた小魚など、クリスピーなものが添えられています。また、フライドチキンや天ぷらなどの揚げ物もカリッと仕上げられていることが多いです。食感を大切にする日本人の感覚と、どこか通じるものがあるように感じます。

そして、こうした特徴を最もよく表しているのが、マレー風 SUSHI かもしれません。ローカライズされたテイクアウトの SUSHI 店が広く普及しており、揚げ物や、ツナマヨにチリパウダーをかけたお寿司が人気のようです。



少しでもマレーシアの豊かな食文化をご紹介できたでしょうか。次回は、マレーシアの農林水産物の生産、流通についてお伝えしたいと思います。

文責：古林 五月（在マレーシア日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

**(品目別需給編)**

## I 穀物

### 1 小麦

#### (1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2025/26 年度

USDA のデータは 2025 年 9 月時点のものであり、「前月比」は 2025 年 8 月予測との比。

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチンで下方修正されたものの、豪州、EU、ロシア、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

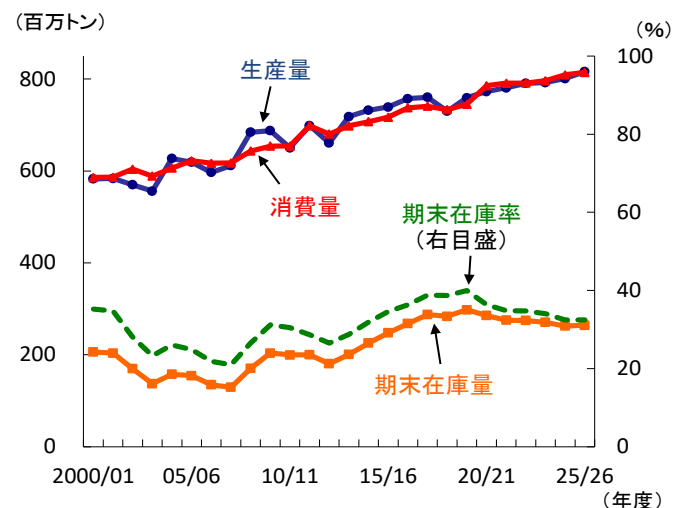
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU、ロシア、豪州、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア、ウクライナで下方修正されたものの、豪州、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

#### ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 792.3   | 800.9            | 816.2   | 9.3           | 1.9            |
| 消費量   | 796.3   | 809.1            | 814.6   | 5.0           | 0.7            |
| うち飼料用 | 158.5   | 155.9            | 158.1   | 3.3           | 1.4            |
| 輸出量   | 222.2   | 209.6            | 214.7   | 1.2           | 2.5            |
| 輸入量   | 223.2   | 199.4            | 210.6   | 1.1           | 5.6            |
| 期末在庫量 | 270.7   | 262.4            | 264.1   | 4.0           | 0.6            |
| 期末在庫率 | 34.0%   | 32.4%            | 32.4%   | 0.3           | ▲ 0.01         |

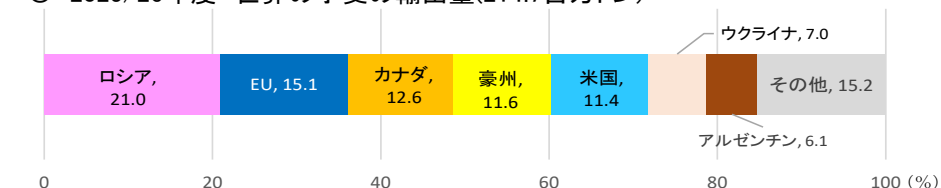
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の生産量(816.2百万トン)



#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の輸出量(214.7百万トン)



#### ○ 2025/26年度 世界の小麦の輸入量(210.6百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.2%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の減少を受け前年度から 2.2%減となるものの、過去5年平均(48.4 百万トン)から 8.4%増の 52.5 百万トンとなる見込み。

同「Crop Production」(2025.8.12)によれば、2025/26 年度の作付面積は、前年度から 1.5%減の 1,837 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が前年度から 0.5%減の 1,344 万ヘクタール、デュラム小麦を除く春小麦も同 6.0%減の 404 万ヘクタールとなる一方、春小麦のうちデュラム小麦が同 5.9%増の 88 万ヘクタールとなる見込み。同年度の生産量は、5,245 万トンで、冬小麦が前年度から 0.5%増の 3,688 万トン、春小麦のうちデュラム小麦が同 9.2%増の 238 万トンとなる一方、デュラム小麦を除く春小麦は同 10.7%減の 1,319 万トンの見込み。

同「Crop Progress」(2025.8.25、9.22 及び 9.29)によれば、2025/26 年度の冬小麦の収穫進捗率は8月 24 日現在で 98%、春小麦の収穫進捗率は9月 21 日現在で 96%と、それぞれ収穫はほぼ終了。2025/26 年度の冬小麦は、前年度と比べ降雨が多く、単収が増加した。一方、春小麦は、乾燥により作柄が悪化した。また、2026/27 年度の冬小麦の作付けが開始されており、9月 28 日現在、作付進捗率は 34%と、前年同期 37%及び過去5年平均 36%を若干下回っているものの、出芽進捗率は 13%と、過去5年平均 12%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA「Wheat Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度から 8.9%増、過去5年平均(22.2 百万トン)から 10.2%増の 24.5 百万トンと、5年ぶりの高水準となる見込み。しかし、世界全体では米国の輸出量は依然として第5位と予想されている。ロシア、EU、カナダ及び豪州では生産量の増加が見込まれており、主要な市場において米国産と競合するとみられる。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年6～7月の輸出量は、前年同期(339.7 万トン)に比べ 18.5%増の 402.4 万トン。輸出先国別には、メキシコ 67.0 万トン(16.7%)、フィリピン 46.2 万トン(11.5%)、ナイジェリア 45.1 万トン(11.2%)の順となっている(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、10 月9日現在、米国産ハード・レッド・ウインターの FOB 価格は 228 ドル/トンと、前月(9月9日)から7ドル/トン下落した。他の主要輸出国の FOB 価格は、カナダ 251 ドル/トン、豪州 249 ドル/トン、ロシア 230 ドル/トン、EU226 ドル/トン、アルゼンチン 222 ドル/トンと、米国は他の主要輸出国と比べても価格競争力を有している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前年度から 0.8%減の 23.0 百万トンとなる見込み。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

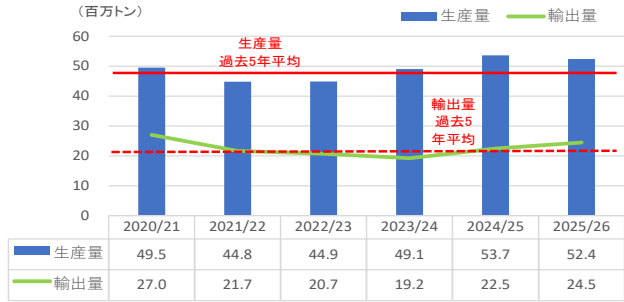
(単位:百万トン)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年6月～26年5月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 49.1    | 53.7             | 52.5                  | -             | ▲ 2.2          |
| 消費量        | 30.2    | 31.0             | 31.4                  | -             | 1.2            |
| うち飼料用      | 2.3     | 3.0              | 3.3                   | -             | 10.1           |
| 輸 出 量      | 19.2    | 22.5             | 24.5                  | 0.7           | 8.9            |
| 輸 入 量      | 3.8     | 4.1              | 3.3                   | -             | ▲ 19.3         |
| 期末在庫量      | 19.0    | 23.2             | 23.0                  | ▲ 0.7         | ▲ 0.8          |
| 期末在庫率      | 38.4%   | 43.3%            | 41.1%                 | ▲ 1.7         | ▲ 2.2          |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 15.01   | 15.57            | 14.80                 | -             | ▲ 4.9          |
| 単収(t/ha)   | 3.27    | 3.45             | 3.54                  | -             | 2.6            |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 米国の小麦生産量及び輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 米国の小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年6月～2025年5月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年6月～7月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年6月～7月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国 名                            | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| メキシコ                           | 400.8        | 18.3       | メキシコ                      | 65.4         | 19.2       | メキシコ                      | 67.0         | 16.7       |
| フィリピン                          | 245.0        | 11.2       | 韓国                        | 39.8         | 11.7       | フィリピン                     | 46.2         | 11.5       |
| 韓国                             | 238.7        | 10.9       | フィリピン                     | 32.6         | 9.6        | ナイジェリア                    | 45.1         | 11.2       |
| 日本                             | 215.1        | 9.8        | 日本                        | 28.8         | 8.5        | 日本                        | 33.2         | 8.3        |
| 台湾                             | 103.5        | 4.7        | 台湾                        | 15.2         | 4.5        | 韓国                        | 19.7         | 4.9        |
| タイ                             | 93.2         | 4.2        | インドネシア                    | 15.1         | 4.4        | 台湾                        | 18.3         | 4.6        |
| その他                            | 897.2        | 40.9       | その他                       | 142.8        | 42.0       | その他                       | 173.0        | 43.0       |
| 計                              | 2,193.5      | 100.0      | 計                         | 339.7        | 100.0      | 計                         | 402.4        | 100.0      |

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.9%増加する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2025.10.17)によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度(35.9 百万トン)から 1.9%増、過去5年平均(32.4 百万トン)から 13.0%増の 36.6 百万トンとなり史上2番目の生産量となる見込み。種類別には、普通小麦は前年度(29.6 百万トン)から 1.8%増、過去5年平均(27.2 百万トン)から 10.6%増の 30.1 百万トンとなり史上2番目の生産量となる見込み。デュラム小麦も前年度(6.4 百万トン)から 2.4%増、過去5年平均(5.2 百万トン)から 25.6%増の 6.5 百万トンとなる見込み。

USDA「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、2025 年の夏、プレーリー3州は単収向上となる降雨に恵まれ、大部分の地域で作物の生長が促進させた一方で、一部地域では継続的な高温乾燥により作物の生長が制限された。

主要生産州政府によれば、サスカチュワン州では、10 月 13 日現在、小麦の収穫は終了している。アルバータ州では、10 月 14 日現在、小麦の収穫はほぼ終了(春小麦のみ 99.9%)している。マニトバ州では、10 月 13 日現在、小麦の収穫は終了している。また、2026/27 年度冬小麦の作付けも終了しており順調に生長している。

現地情報会社によれば、2025/26 年度の春小麦の品質は良好となっている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、堅調な輸出ペースを受け前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、史上最高の前年度から 6.2%減となるものの、27.4 百万トンと史上2番目の輸出量となる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度から 4.7%減の 22.3 百万トン。デュラム小麦も前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、同 12.4%減の 5.1 百万トン。また、USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、史上最高となった前年度から 7.8%減となるものの、過去5年平均(24.4 百万トン)から 10.7%増の 27.0 百万トンとなる見込み。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月の輸出量は、前年同期(157.8 万トン)に比べ 16.8%減の 131.3 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期(136.4 万トン)に比べ 13.6%減の 117.8 万トンで、輸出先国別には、スペイン 16.7 万トン(14.2%)、日本 14.6 万トン(12.4%)、インドネシア 13.6 万トン(11.5%)の順。デュラム小麦は前年同期(21.5 万トン)に比べ 37.2%減の 13.5 万トンで、輸出先国別には、イタリア 5.2 万トン(38.6%)、日本 3.4 万トン(25.5%)、アラブ首長国連邦 2.4 万トン(17.5%)の順(表)。

AAFC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度(4.1 百万トン)から 26.5%増の 5.2 百万トンとなる見込み。

小麦一カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年8月～26年7月) |               |             |  |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|-------------|--|
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度増減率(%)  |  |
| 生 産 量      | 33.4    | 35.9 (35.9)      | 36.0 (36.6)           | 1.0 (-)       | 0.2 (1.9)   |  |
| 消 費 量      | 9.0     | 8.4 (8.0)        | 9.4 (8.2)             | 0.6 (▲0.4)    | 10.9 (3.4)  |  |
| うち飼料用      | 3.8     | 3.1 (3.3)        | 4.0 (3.7)             | 0.5 (▲0.4)    | 27.8 (11.4) |  |
| 輸 出 量      | 25.4    | 29.3 (29.2)      | 27.0 (27.4)           | - (0.4)       | ▲7.8 (▲6.2) |  |
| 輸 入 量      | 0.6     | 0.6 (0.1)        | 0.6 (0.1)             | - (-)         | ▲1.6 (23.5) |  |
| 期末在庫量      | 5.3     | 4.1 (4.1)        | 4.4 (5.2)             | 0.9 (-)       | 6.1 (26.5)  |  |
| 期末在庫率      | 15.3%   | 10.9% (11.1%)    | 12.0% (14.6%)         | 2.2 (-)       | 1.1 (3.5)   |  |
| (参考)       |         |                  |                       |               |             |  |
| 収穫面積(百万ha) | 10.71   | 10.65 (10.65)    | 10.70 (10.66)         | - (-)         | 0.5 (0.1)   |  |
| 単収(t/ha)   | 3.12    | 3.37 (3.37)      | 3.36 (3.44)           | 0.1 (-)       | ▲0.3 (2.1)  |  |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(17 October 2025) ※( )書き。  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

○普通小麦

| 2024/25年度<br>(2024年8月～2025年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年8月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 国 名                            | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                    | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                    | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| インドネシア                         | 243.2        | 10.3       | ペルー                    | 17.2         | 12.6       | スペイン                   | 16.7         | 14.2       |
| 中国                             | 206.1        | 8.7        | インドネシア                 | 15.9         | 11.7       | 日本                     | 14.6         | 12.4       |
| 日本                             | 191.0        | 8.1        | コロンビア                  | 12.7         | 9.3        | インドネシア                 | 13.6         | 11.5       |
| ペルー                            | 164.2        | 6.9        | ベトナム                   | 11.3         | 8.3        | エクアドル                  | 12.0         | 10.1       |
| コロンビア                          | 143.1        | 6.0        | モザンビーク                 | 10.2         | 7.4        | メキシコ                   | 7.8          | 6.6        |
| その他                            | 1,419.1      | 60.0       | その他                    | 69.1         | 50.7       | その他                    | 53.2         | 45.2       |
| 計                              | 2,366.5      | 100.0      | 計                      | 136.4        | 100.0      | 計                      | 117.8        | 100.0      |

○デュラム小麦

| 2024/25年度<br>(2024年8月～2025年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年8月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 国 名                            | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                    | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                    | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| アルジェリア                         | 156.8        | 27.2       | モロッコ                   | 7.3          | 33.9       | イタリア                   | 5.2          | 38.6       |
| モロッコ                           | 124.2        | 21.5       | 日本                     | 2.9          | 13.3       | 日本                     | 3.4          | 25.5       |
| イタリア                           | 83.8         | 14.5       | ペルー                    | 2.6          | 12.0       | アラブ首長国連邦               | 2.4          | 17.5       |
| 米国                             | 51.0         | 8.8        | 米国                     | 2.5          | 11.4       | ナイジェリア                 | 1.2          | 9.0        |
| 日本                             | 22.7         | 3.9        | アラブ首長国連邦               | 2.4          | 11.3       | グアテマラ共和国               | 1.0          | 7.4        |
| その他                            | 138.2        | 24.0       | その他                    | 3.9          | 18.0       | その他                    | 0.3          | 2.1        |
| 計                              | 576.7        | 100.0      | 計                      | 21.5         | 100.0      | 計                      | 13.5         | 100.0      |

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 9.6%増加する見込み(ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2025.9.2)によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前回予測(6月)から 3.2 百万トン上方修正され、前年度から収穫面積が減少することを受け前年度(34.1 百万トン)から 1.0%減となるものの、過去5年平均(33.8 百万トン)と同水準の 33.8 百万トンとなり、史上4番目の生産量となる見込み(図)。

州別には、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)は 1.7 百万トン上方修正の 12.7 百万トン(前年度から 0.4%増)、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)は 1.0 百万トン上方修正の 10.7 百万トン(同 17.1%減)、サウスオーストラリア州(SA 州)はわずかに上方修正され 4.2 百万トン(同 53.1%増)、ビクトリア州(VIC 州)は 0.2 百万トン上方修正の 4.0 百万トン(同 14.3%増)、クイーンズランド州(QLD 州)は 0.2 百万トン上方修正の 2.1 百万トン(同 8.1%減)と、全土にわたり適度な降雨により前回予測から生産見通しが改善した(図)。西豪州穀物産業協会(GIWA)「Crop Report」(2025.10.17)によれば、WA 州の小麦生産量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され 12.6 百万トンとなる見込み。穀物の生長に重要な時期に降雨が少なかったものの、大部分の地域で順調に生長しており、史上最高の生産量を記録した 2022/23 年度と同水準の生産量が見込まれている。

USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前年度から単収が増加することを受け前年度から 1.1%増、過去5年平均(33.8 百万トン)から 2.2%増の 34.5 百万トンとなり、史上3番目の生産量となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、2025/26 年度シーズン当初は、非常に乾燥した状態から始まり、特に豪州の小麦作付面積の約 27%を占める WA 州で顕著であった。6月上旬に恵みの降雨があり、7月8月、9月上旬にも適時の降雨があり、小麦の生長が促進された。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等を受け前回予測から 1.5 百万トン上方修正され、期首在庫量が増加することを受け前年度(23.0 百万トン)から 9.6%増加するものの、過去5年平均(25.0 百万トン)から 2.1%減の 24.5 百万トンとなる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年8月の輸出量は、前年同期(1,884.5 万トン)に比べ 15.9%増の 2,183.6 万トン。輸出先国別には、インドネシア 406.8 万トン(18.6%)、フィリピン 321.2 万トン(14.7%)、タイ 163.8 万トン(8.1%)の順で、中国は生産量の増加により 105.2 万トン(4.8%)と大きく輸入量を減少させている(表)。2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前回予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度(5.7 百万トン)から 4.6%増の 5.9 百万トンとなる見込み。

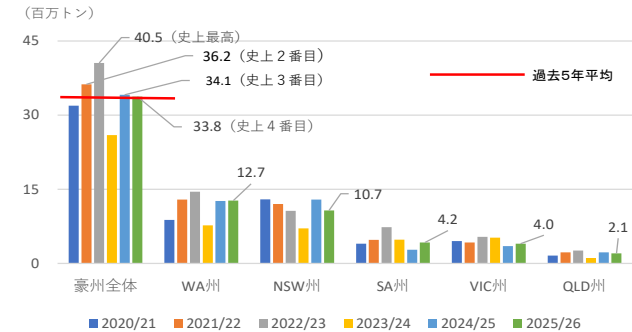
小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) |                   |            |        |
|------------|---------|------------------|------------------------|-------------------|------------|--------|
|            |         |                  | 予測値                    | 前月(前回)予測<br>からの変更 | 対前年度増減率(%) |        |
| 生産量        | 26.0    | 34.1 (34.1)      | 34.5 (33.8)            | 3.5 (3.2)         | 1.1        | (▲1.0) |
| 消費量        | 7.8     | 8.0 (9.0)        | 8.7 (8.9)              | 0.6 (0.1)         | 8.7        | (▲0.7) |
| うち飼料用      | 4.3     | 4.5 ...          | 5.1 ...                | 0.5 ...           | 13.3       | ...    |
| 輸出量        | 19.8    | 25.0 (22.4)      | 25.0 (24.5)            | 2.0 (1.5)         | -          | (9.6)  |
| 輸入量        | 0.2     | 0.2 ...          | 0.2 ...                | -                 | -          | ...    |
| 期末在庫量      | 2.9     | 4.3 (5.7)        | 5.3 (5.9)              | 0.9 (1.0)         | 24.2       | (4.6)  |
| 期末在庫率      | 10.5%   | 12.9% (18.2%)    | 15.7% (17.8%)          | 1.6 (2.3)         | 2.8        | (▲0.3) |
| (参考)       |         |                  |                        |                   |            |        |
| 収穫面積(百万ha) | 12.37   | 13.06 (13.06)    | 12.70 (12.71)          | 0.2 (0.1)         | ▲2.8       | (▲2.7) |
| 単収(t/ha)   | 2.10    | 2.61 (2.61)      | 2.72 (2.66)            | 0.2 (0.2)         | 4.2        | (1.7)  |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
ABARES「Australian Crop Report」(2 September 2025) ※( )書き。  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料:ABARES「Australian Crop Report」(2025.9.2)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年9月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年8月) |              |            |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| 中国                              | 375.6        | 19.0       | 中国                              | 375.0        | 19.9       | インドネシア                          | 406.8        | 18.6       |
| インドネシア                          | 323.5        | 16.3       | インドネシア                          | 307.4        | 16.3       | フィリピン                           | 321.2        | 14.7       |
| フィリピン                           | 233.7        | 11.8       | フィリピン                           | 219.0        | 11.6       | タイ                              | 163.8        | 7.5        |
| イエメン                            | 152.2        | 7.7        | イエメン                            | 152.2        | 8.1        | ベトナム                            | 141.0        | 6.5        |
| 韓国                              | 123.5        | 6.2        | 韓国                              | 119.1        | 6.3        | 韓国                              | 140.9        | 6.5        |
| 日本                              | 120.6        | 6.1        | 日本                              | 112.5        | 6.0        | イエメン                            | 116.9        | 5.4        |
| その他                             | 651.8        | 32.9       | その他                             | 599.3        | 31.8       | その他                             | 893.0        | 40.9       |
| 計                               | 1,980.8      | 100.0      | 計                               | 1,884.5      | 100.0      | 計                               | 2,183.6      | 100.0      |

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成



< EU27 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 18.5%増加する見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2025.9.25)によれば、2025/26 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 4.5 百万トン上方修正され、主産国で生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度(118.9 百万トン)から生産量が回復することを受け前年度から 18.5%増、過去5年平均(129.5 百万トン)から 8.8%増の 140.9 百万トンとなる見込み。

種類別には、普通小麦がルーマニア、ドイツ等の生産量引上げにより前月予測から上方修正され、前年度からフランス、ドイツ、ルーマニア等で生産量が回復することを受け前年度から 18.7%増、過去5年平均から 8.7%増の 132.6 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、イタリア等の生産量引下げにより前月予測からわずかに下方修正されるものの、前年度から 14.9%増、過去5年平均から 10.5%増の 8.3 百万トンとなる見込み(図)。

現地情報会社によれば、10 月上旬で 2025/26 年度の実小麦の収穫はほぼ終了している。

【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から 1.2 百万トン上方修正され、減産の前年度から生産量が回復することを受け前年度(26.2 百万トン)から 21.8%増の 31.9 百万トンとなる見込み。

同「EU trade for cereals」(2025.9.24)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月の輸出量は、前年同期(305.2 万トン)に比べ 25.0%減の 228.8 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 32.5%減の 202.5 万トンとなる一方、デュラム小麦は同 404.6%増の 26.3 万トン(表)。

2025/26 年度の実輸入量は、前月予測からわずかに下方修正され、ウクライナからの輸入が減少すると見込まれることを受け前年度(10.0 百万トン)から 43.2%減の 5.7 百万トンとなる見込み。EU は、ウクライナ産品の輸入に関し、2022 年6月から輸入関税及び関税割当を停止してきたが、本年6月5日に関税割当制度等の適用を再開した。再開によりウクライナからの小麦の輸入は減少する見込み(詳細については、<ウクライナ>【貿易情報・その他】関税割当制度等の適用再開を参照。)。

同「EU trade for cereals」(2025.9.24)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月の輸入量は、ウクライナからの輸入が大きく減少したこと等により前年同期(71.5 万トン)に比べ 37.6%減の 44.6 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 44.4%減の 34.6 万トンとなる一方、デュラム小麦は同 8.8%増の 10.0 万トン(表)。

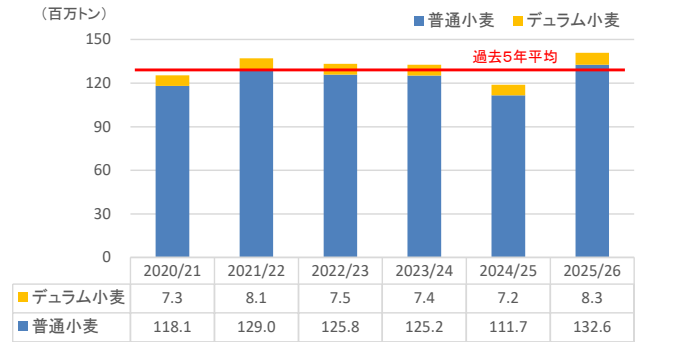
2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から 3.4 百万トン上方修正され、前年度(8.9 百万トン)から 30.1%増の 11.6 百万トンとなる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

| 年 度        | 2023/24 |       | 2024/25<br>(見込み) |       | 2025/26 (25年7月～26年6月) |               |            |
|------------|---------|-------|------------------|-------|-----------------------|---------------|------------|
|            |         |       |                  |       | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生 産 量      | 135.4   | 122.1 | (118.9)          | 140.1 | (140.9)               | 1.8           | (4.5)      |
| 消 費 量      | 110.5   | 109.0 | (111.2)          | 113.0 | (112.0)               | 1.0           | (▲0.1)     |
| うち飼料用      | 46.5    | 45.0  | (46.2)           | 48.5  | (46.6)                | 1.0           | (▲0.1)     |
| 輸 出 量      | 38.0    | 27.8  | (26.2)           | 32.5  | (31.9)                | -             | (1.2)      |
| 輸 入 量      | 12.7    | 10.6  | (10.0)           | 5.5   | (5.7)                 | ▲1.0          | (▲0.01)    |
| 期末在庫量      | 15.8    | 11.7  | (8.9)            | 11.8  | (11.6)                | ▲0.8          | (3.4)      |
| 期末在庫率      | 10.6%   | 8.5%  | (6.5%)           | 8.1%  | (8.1%)                | ▲0.6          | (2.3)      |
| 対前年度増減率(%) |         |       |                  |       |                       |               | ▲0.4       |
| (参考)       |         |       |                  |       |                       |               | (1.6)      |
| 収穫面積(百万ha) | 24.32   | 22.70 | (22.36)          | 23.85 | (23.59)               | -             | (0.3)      |
| 単収(t/ha)   | 5.57    | 5.38  | (5.32)           | 5.87  | (5.97)                | 0.1           | (0.1)      |
| 対前年度増減率(%) |         |       |                  |       |                       |               | 9.1        |
| (参考)       |         |       |                  |       |                       |               | (12.3)     |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
EC「EU Cereals Balance Sheets」(25 September 2025) ※( )書き。  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 EUの種類別小麦生産量の推移



資料:EC「EU cereals production, area and yield」(2025.9.25)をもとに農林水産省で作成

表 EUの小麦の輸出量及び輸入量

| O輸出量                           |              |            |                        |              |            | O輸入量                           |              |            |                        |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 2024/25年度<br>(2024年7月～2025年6月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年7月～2025年6月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月) |              |            |
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| モロッコ                           | 343.2        | 13.2       | アルジェリア                 | 49.1         | 21.5       | ウクライナ                          | 449.8        | 45.3       | カナダ                    | 17.4         | 39.0       |
| アルジェリア                         | 335.7        | 12.9       | モロッコ                   | 23.0         | 10.0       | カナダ                            | 242.6        | 24.4       | ウクライナ                  | 5.9          | 13.3       |
| ナイジェリア                         | 280.4        | 10.8       | サウジアラビア                | 18.1         | 7.9        | モルドバ                           | 62.5         | 6.3        | セルビア                   | 5.5          | 12.2       |
| 英国                             | 185.4        | 7.1        | エジプト                   | 17.4         | 7.6        | 米国                             | 57.9         | 5.8        | 英国                     | 4.6          | 10.4       |
| エジプト                           | 174.8        | 6.7        | 英国                     | 10.6         | 4.6        | セルビア                           | 56.7         | 5.7        | 米国                     | 4.3          | 9.7        |
| その他                            | 1,277.3      | 49.2       | その他                    | 110.6        | 48.4       | その他                            | 122.7        | 12.4       | その他                    | 6.9          | 15.3       |
| 合計                             | 2,596.7      | 100.0      | 合計                     | 228.8        | 100.0      | 合計                             | 992.2        | 100.0      | 合計                     | 44.6         | 100.0      |

資料:EC「EU trade for cereals」(2025.9.24)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することを受け前年度から 4.2%増、過去5年平均(85.1 百万トン)と同水準の 85.0 百万トンとなる見込み(図)。

種類別には、冬小麦は、前年度(55.8 百万トン)から 10.2%増の 61.5 百万トンとなる一方、春小麦は、前年度(25.8 百万トン)から 8.9%減の 23.5 百万トンとなる見込み。

同「World Agricultural Production」(2025.9.12)によれば、ロシア統計庁が発表した 2025/26 年度の冬小麦の作付面積は前年度から約2%減の 1,580 万ヘクタール、春小麦の作付面積は同約 10%減の 1,110 万ヘクタールとなった。春小麦の単収は、広範囲で好天に恵まれたことを受け8月予測から上方修正されており、主要な春小麦産地であるヴォルガ、ウラル、シベリア連邦管区では平年を上回る作柄となっている。なお、冬小麦の単収については、前年度からは 11.8%増加し 3.97トン/ヘクタールとなる見込み。

現地情報会社によれば、10 月 10 日現在、2025/26 年度小麦の収穫進捗率は 95%と終盤を迎えており、単収は前年度を 0.43トン/ヘクタール上回り 3.41トン/ヘクタールとなっている。

報道によれば、ロシア南部では 2025/26 年度の小麦の生産量が減少しており、乾燥の影響もあるものの、生産に対する投資の減少が大きく影響しているとみられる。同地域では、ここ数年の天候不順のほか、高金利や資材・機械のコストの上昇による収益性の低下を背景に、中小農家の廃業が増加している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量が増加することを受け前年度から 4.7%増、過去5年平均(44.1 百万トン)から 2.0%増の 45.0 百万トンとなり、史上3番目の輸出量となる見込み(図)。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～9月の輸出量は、前年同期(1,475.5 万トン)に比べ 28.2%減の 1,058.8 万トンとなっている。輸出先国別には、エジプト 206.4 万トン(19.5%)、トルコ 120.5 万トン(11.4%)、リビア 59.5 万トン(5.6%)の順(表)。9月までの輸出量が前年同期を大きく下回っている要因は、主要輸出先国であるエジプトへの輸出量が伸びていないことがあり、アルゼンチン及び豪州の小麦の豊作観測が影響しているとみられる。また、EU等の輸出国との競合も影響しているとみられる。

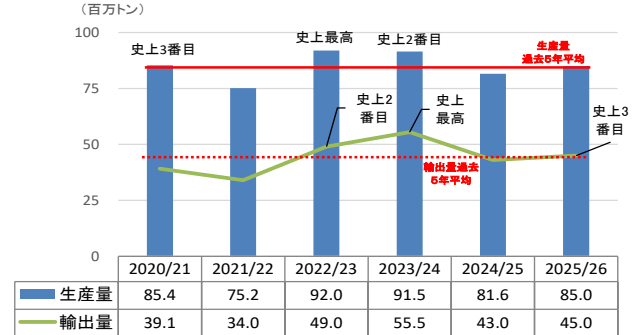
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前年度から 5.7%増の 11.2 百万トンとなる見込み。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26(25年7月～26年6月) |               |                |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 91.5    | 81.6             | 85.0 (85.0)          | 1.5           | 4.2            |
| 消 費 量      | 39.0    | 40.0             | 39.7 (40.4)          | 0.7           | ▲ 0.7          |
| うち飼料用      | 16.0    | 17.0             | 16.5 (17.0)          | 0.5           | ▲ 2.9          |
| 輸 出 量      | 55.5    | 43.0             | 45.0 (43.6)          | ▲ 1.0         | 4.7            |
| 輸 入 量      | 0.3     | 0.3              | 0.3 (0.5)            | -             | -              |
| 期末在庫量      | 11.7    | 10.6             | 11.2 (10.8)          | 1.8           | 5.7            |
| 期末在庫率      | 12.4%   | 12.8%            | 13.2% (12.9%)        | 2.2           | 0.5            |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 28.83   | 27.80            | 26.50 (26.37)        | ▲ 0.20        | ▲ 4.7          |
| 単収(t/ha)   | 3.17    | 2.94             | 3.21 (3.23)          | 0.08          | 9.2            |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 ロシアの小麦の生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年7月～9月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月～9月) |              |            |
|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| エジプト                      | 285.0        | 19.3       | エジプト                      | 206.4        | 19.5       |
| トルコ                       | 94.1         | 6.4        | トルコ                       | 120.5        | 11.4       |
| バングラデシュ                   | 82.1         | 5.6        | リビア                       | 59.5         | 5.6        |
| アルジェリア                    | 78.2         | 5.3        | イスラエル                     | 54.4         | 5.1        |
| サウジアラビア                   | 62.8         | 4.3        | ケニア                       | 48.6         | 4.6        |
| その他                       | 873.3        | 59.2       | その他                       | 569.4        | 53.8       |
| 合計                        | 1,475.5      | 100.0      | 合計                        | 1,058.8      | 100.0      |

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の減少を受け前年度から1.7%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）から17.6%減の23.0百万トンとなる見込み。

EC「JRC MARS Bulletin – Global outlook」（2025.9.15）によれば、ウクライナの2025/26年度の冬作物について、今夏の乾燥が中央部の生育後期の作物に悪影響を及ぼした。西部では、7月の過剰な降雨により収穫が妨げられ、品質が低下している。ウクライナ全体では冬作物の単収は平年を下回る見込み。

現地情報会社によれば、10月9日現在、小麦の収穫進捗率は98%と収穫はほぼ終了しており、収穫量は2,262万トンとなっている。また、2026/27年度の冬小麦の作付けが9月初旬から始まっており、10月7日現在の作付進捗率は49%と乾燥の影響等により前年同期（59%）に比べ遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26年度の輸出量は、生産量の減少等を受け前年度から4.8%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）から17.1%減の15.0百万トンとなる見込み。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、2022年6月から輸入関税及び関税割当を停止してきた。当該措置は2025年6月5日に失効し、「深化した包括的自由貿易協定（DCFTA）」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。その後、6月30日に新たな貿易措置についてウクライナと合意し、EUとウクライナの連合委員会は10月14日に合意を承認し、10月29日に発効となった。これにより、小麦及びメスリン等に対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンに見直された（表1）。報道によれば、関税割当が再開されたことにより、ウクライナ産小麦のEU輸出は減少すると予想されており、ウクライナは北アフリカやアジアへの輸出に一層注力するとみられる。

ウクライナ税関庁によれば、2025/26年度のうち2025年7～9月の輸出量は、前年同期（609.8万トン）に比べ22.6%減の471.8万トンとなっている。輸出先国別には、エジプト139.8万トン（29.6%）、インドネシア94.6万トン（20.0%）、アルジェリア44.3万トン（9.4%）の順（表2）。

現地情報会社によれば、9月までの輸出量が前年度を下回っている要因は、収穫の遅れと主要な輸出先国であったスペインへの輸出量が大きく減少したことによる。10月以降もEUやロシアなどの輸出国との競合が激しくなるとみられる。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前年度から107.5%増の1.9百万トンとなる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年7月～26年6月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 23.0    | 23.4             | 23.0 (25.0)           | 1.0           | ▲ 1.7          |
| 消 費 量 | 6.0     | 8.2              | 7.1 (8.9)             | 0.5           | ▲ 13.4         |
| うち飼料用 | 1.5     | 3.6              | 2.5 (2.0)             | 0.5           | ▲ 30.6         |
| 輸 出 量 | 18.6    | 15.8             | 15.0 (15.5)           | ▲ 0.5         | ▲ 4.8          |
| 輸 入 量 | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.1)             | -             | 42.9           |
| 期末在庫量 | 1.4     | 0.9              | 1.9 (1.5)             | 1.0           | 107.5          |
| 期末在庫率 | 5.7%    | 3.9%             | 8.7% (6.2%)           | 4.5           | 4.8            |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 5.01 5.20 5.50 (6.30) - 5.8  
単収(t/ha) 4.59 4.50 4.18 (3.97) 0.18 ▲ 7.1  
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表1 EUのウクライナ産穀物等に対する関税割当数量

| (単位:トン)           |                |           |
|-------------------|----------------|-----------|
| 品目                | 変更前の関税割当数量     | 新たな関税割当数量 |
| 小麦、小麦ペレット         | 1,000,000      | 1,300,000 |
| とうもろこし、とうもろこしペレット | 650,000        | 1,000,000 |
| 大麦、大麦ペレット         | 350,000        | 450,000   |
| 小麦粉、大麦粉、とうもろこし粉   | 各品目の関税割当数量を含む。 | 各粉30,000  |

資料:EC 公表資料をもとに農林水産省で作成

表2 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年7月～2025年6月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年7月～9月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月～9月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| スペイン                           | 326.1        | 20.9       | スペイン                      | 144.5        | 23.7       | エジプト                      | 139.8        | 29.6       |
| エジプト                           | 211.1        | 13.5       | インドネシア                    | 99.6         | 16.3       | インドネシア                    | 94.6         | 20.0       |
| アルジェリア                         | 195.1        | 12.5       | ベトナム                      | 63.8         | 10.5       | アルジェリア                    | 44.3         | 9.4        |
| インドネシア                         | 158.8        | 10.2       | エジプト                      | 46.8         | 7.7        | ベトナム                      | 44.2         | 9.4        |
| ベトナム                           | 104.7        | 6.7        | タイ                        | 44.0         | 7.2        | スペイン                      | 24.3         | 5.2        |
| その他                            | 566.5        | 36.3       | その他                       | 211.1        | 34.6       | その他                       | 124.7        | 26.4       |
| 合計                             | 1,562.2      | 100.0      | 合計                        | 609.8        | 100.0      | 合計                        | 471.8        | 100.0      |

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26年度の生産量は前年度並みの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、単収の減少を受け前年度から 0.1%減となるものの、過去5年平均(137.1 百万トン)から 2.1%増の 140.0 百万トンとなり、史上最高の前年度に次ぐ生産量となる見込み(図)。

中国国家统计局(2025.7.10)によれば、2025/26 年度の夏季産小麦(夏季に収穫された冬小麦及び春小麦。なお、甘寧省等の一部地域の春小麦は生育が遅いため推定値。)の作付面積は、前年度から 1.7 万ヘクタール減少し 0.1%減の 23.07 百万ヘクタール。単収は前年度から僅かに減少するものの、ほぼ横ばいの 5.99 トン/ヘクタール。生産量は前年度から 17 万トン減少し 0.1%減の 138.2 百万トン。

中国農業農村部(2025.6.18)によれば、6月 18 日現在、2025/26 年度冬小麦の収穫進捗率は、96%となっており、主要生産地の収穫は終了している。

また、中国中央气象台「作物生育期監視」によれば、9月上旬現在、2025/26 年度春小麦は主要生産地の大部分で収穫が終了したとみられる。同「作物生育期監視」(2025.9.21～27 及び 10.5～11)によれば、2026/27 年度冬小麦の作付けは9月下旬から開始されており、10 月上旬現在、西北地域(陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区)で作付け・発芽が進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前年度から 1.3%減、過去5年平均(150.9 百万トン)から 1.9%減の 148.0 百万トンとなる見込み。

2025/26 年度の輸入量は、期首在庫量の減少等を受け前年度から 43.9%増となるものの、過去5年平均(10.3 百万トン)から 41.5%減の 6.0 百万トンとなる見込み(図)。

中国国務院関税税則委員会、米中共同声明を受け、5月 14 日から税委会公告 2025 年第4号の追加関税 34%のうち 24%の適用を 90 日間停止するとともに、同第5号及び第6号の追加関税を停止すると発表(同第7号)した。これにより小麦は計 25%の追加関税を課すこととなった。その後、米中経済貿易協議の共同声明を受け、8月 12 日、同第4号の追加関税 34%のうち 24%の適用を引き続き 90 日間停止すると発表した。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7～8月の輸入量は、前年同期(121.1 万トン)に比べ 47.1%減の 64.1 万トンとなっている。輸入先国別には、カナダ 49.3 万トン(77.0%)、豪州 12.6 万トン(19.6%)、カザフスタン 0.8 万トン(1.2%)の順となっている(表)。米国からの輸入は 15 トンと大きく減少している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前年度から 2.3%減の 124.8 百万トンとなる見込み。

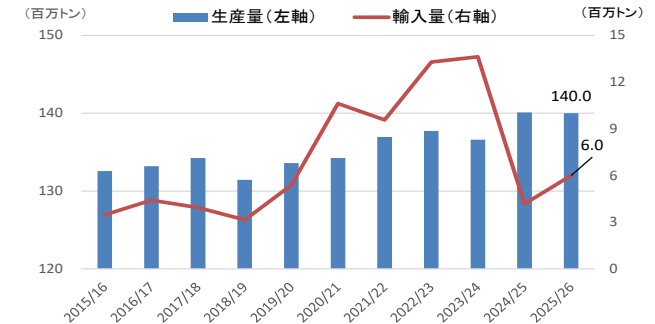
小麦－中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26(25年7月～26年6月) |               |                |  |
|-------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|--|
|       |         |                  | 予測値、( ) は IGC        | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量 | 136.6   | 140.1            | 140.0 (140.0)        | -             | ▲ 0.1          |  |
| 消 費 量 | 153.5   | 150.0            | 148.0 (147.3)        | -             | ▲ 1.3          |  |
| うち飼料用 | 37.0    | 33.0             | 31.0 (28.0)          | -             | ▲ 6.1          |  |
| 輸 出 量 | 1.0     | 1.0              | 1.0 (1.2)            | -             | ▲ 2.0          |  |
| 輸 入 量 | 13.6    | 4.2              | 6.0 (6.2)            | -             | 43.9           |  |
| 期末在庫量 | 134.5   | 127.8            | 124.8 (134.8)        | -             | ▲ 2.3          |  |
| 期末在庫率 | 87.1%   | 84.6%            | 83.7% (90.8%)        | -             | ▲ 0.9          |  |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 23.63 23.59 23.60 (23.65)  
単収(t/ha) 5.78 5.94 5.93 (5.92)  
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 中国の小麦生産量・輸入量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

| 2024/25年度<br>(2024年7月～2025年6月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年7月～8月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月～8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| カナダ                            | 185.9        | 48.2       | 米国                        | 38.0         | 31.4       | カナダ                       | 49.3         | 77.0       |
| 豪州                             | 86.9         | 22.5       | カナダ                       | 37.1         | 30.7       | 豪州                        | 12.6         | 19.6       |
| 米国                             | 46.2         | 12.0       | 豪州                        | 17.8         | 14.7       | カザフスタン                    | 0.8          | 1.2        |
| カザフスタン                         | 30.8         | 8.0        | カザフスタン                    | 14.5         | 11.9       | 日本                        | 0.6          | 1.0        |
| ロシア                            | 29.7         | 7.7        | ロシア                       | 12.7         | 10.5       | ロシア                       | 0.4          | 0.7        |
| 日本                             | 4.9          | 1.3        | 日本                        | 0.7          | 0.6        | フランス                      | 0.3          | 0.5        |
| その他                            | 1.5          | 0.4        | その他                       | 0.4          | 0.3        | その他                       | 0.04         | 0.1        |
| 合計                             | 385.9        | 100.0      | 合計                        | 121.1        | 100.0      | 合計                        | 64.1         | 100.0      |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成



## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26 年度

USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月比」は2025年8月予測との比。

**生産量** 前年度比  前月比 

・米国、インド等で上方修正されたものの、EU、セルビア、ロシア、モルドバで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

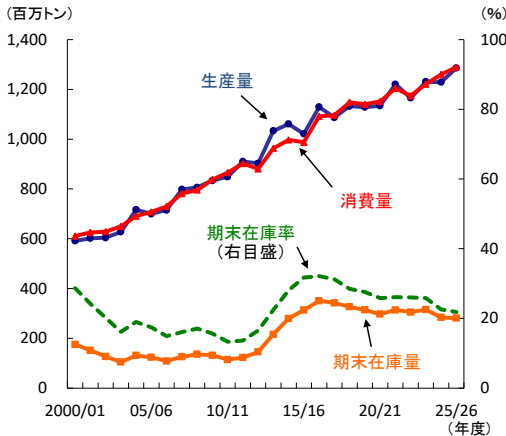
**消費量** 前年度比  前月比 

・EU、セルビア等で下方修正されたものの、ブラジル、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比  前月比 

・セルビア、EU、ロシア等で下方修正されたものの、米国、ザンビア等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比  前月比 



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

### ◎世界のとうもろこし需給

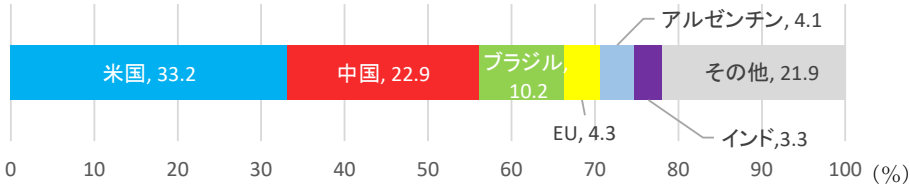
(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 1,231.1 | 1,228.9          | 1,286.6 | ▲ 2.0         | 4.7            |
| 消 費 量 | 1,220.9 | 1,260.3          | 1,289.4 | 0.2           | 2.3            |
| うち飼料用 | 769.6   | 786.7            | 810.5   | ▲ 0.7         | 3.0            |
| 輸 出 量 | 192.6   | 193.8            | 201.7   | 0.8           | 4.1            |
| 輸 入 量 | 197.4   | 183.0            | 193.2   | 1.0           | 5.6            |
| 期末在庫量 | 315.5   | 284.2            | 281.4   | ▲ 1.1         | ▲ 1.0          |
| 期末在庫率 | 25.8%   | 22.5%            | 21.8%   | ▲ 0.1         | ▲ 0.7          |

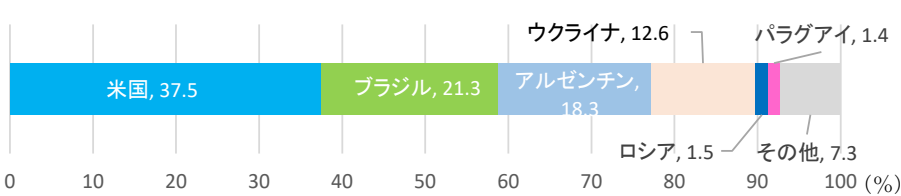
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

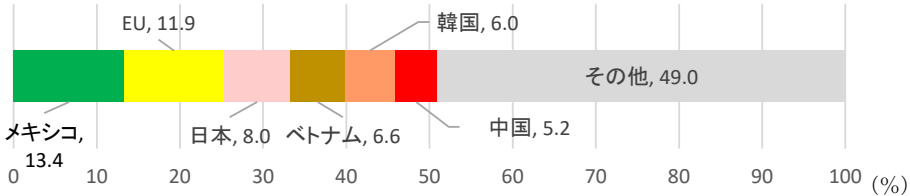
#### ○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,286.6 百万トン)



#### ○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (201.7 百万トン)



#### ○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (193.2 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.1%増の 427.1 百万トンと、史上最高の見込み。とうもろこしに有利な価格相場により、多くの農家が大豆から作付けを切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」(2025.9.29)によれば、9月 28 日現在、成熟進捗率は 71%と前年同期(73%)、過去5年平均(74%)を下回った。また、収穫進捗率は 18%と、前年同期(20%)を下回った。8～9月には主産地の一部で乾燥した天候に見舞われたものの、全体としては作柄に大きな影響はなく、生育期間を通じて概して良好な天候に恵まれ、作柄評価は「良～優良」の割合が 66%と、前年同期(64%)を上回っている。

報道情報によれば、米国中部における初霜の到来は 1970 年当時と比べて概ね1～2週間遅れており、農作業はほぼ凍結のない条件下で進められている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の増加等を受け、前年度から 4.7%増の 332.3 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度から 5.1%増の 75.6 百万トンと、史上最高の見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 9月の輸出量は、前年同期(373.7 万トン)に比べ 74.5%増の 652.0 万トン。輸出先国別には、メキシコ 230.1 万トン(35.3%)、日本 124.4 万トン(19.1%)、コロンビア 62.9 万トン(9.6%)の順となっている(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、10 月9日現在、米国産の輸出価格は 200 ドル/トンと、前月(9月9日)から3ドル/トン下落した。ブラジル産は前月から3ドル/トン下落し 208 ドル/トン、アルゼンチン産は前月から1ドル/トン上昇し 200 ドル/トンとなった(図)。報道情報(2025.10.14)によれば、米国産とうもろこしは主要競合国に対し高い価格競争力があることから、前年度を上回るペースで輸出を続けている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加等を受け前年度から 59.2%増、過去5年平均(35.9 百万トン)から 49.4%増の 53.6 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 4.5 ポイント増の 13.1%となる見込み。

とうもろこしー米国

(概ね4～5月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

| 年 度     | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年9月～26年8月) |           |            |
|---------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|
|         |         |                  | 予測値                   | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量     | 389.7   | 377.6            | 427.1                 | 1.9       | 13.1       |
| 消費量     | 322.9   | 317.4            | 332.3                 | -         | 4.7        |
| うち飼料用   | 148.1   | 144.2            | 155.0                 | -         | 7.5        |
| エタノール用等 | 139.4   | 138.1            | 142.2                 | -         | 3.0        |
| 輸出量     | 57.3    | 71.9             | 75.6                  | 2.5       | 5.1        |
| 輸入量     | 0.7     | 0.5              | 0.6                   | -         | 25.5       |
| 期末在庫量   | 44.8    | 33.7             | 53.6                  | ▲ 0.2     | 59.2       |
| 期末在庫率   | 11.8%   | 8.6%             | 13.1%                 | ▲ 0.1     | 4.5        |

(参考)

|            |       |       |       |        |     |
|------------|-------|-------|-------|--------|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 35.01 | 33.55 | 36.44 | 0.55   | 8.6 |
| 単収(t/ha)   | 11.13 | 11.26 | 11.72 | ▲ 0.13 | 4.1 |

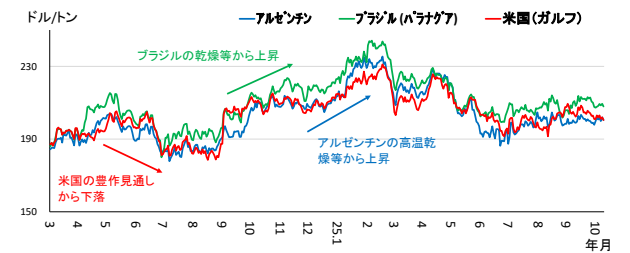
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年9月～2025年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年9月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年9月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| メキシコ                           | 2,212.2      | 32.6       | メキシコ                   | 187.5        | 50.2       | メキシコ                   | 230.1        | 35.3       |
| 日本                             | 1,344.0      | 19.8       | コロンビア                  | 61.2         | 16.4       | 日本                     | 124.4        | 19.1       |
|                                | 743.7        | 11.0       | 日本                     | 53.0         | 14.2       | コロンビア                  | 62.9         | 9.6        |
| 韓国                             | 617.4        | 9.1        | スペイン                   | 25.7         | 6.9        | スペイン                   | 51.2         | 7.9        |
| 台湾                             | 241.7        | 3.6        | オランダ                   | 7.0          | 1.9        | 韓国                     | 35.2         | 5.4        |
| その他                            | 1,617.3      | 23.9       | その他                    | 39.3         | 10.5       | その他                    | 148.1        | 22.7       |
| 合計                             | 6,776.2      | 100.0      | 合計                     | 373.7        | 100.0      | 合計                     | 652.0        | 100.0      |

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成



< ブラジル > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 3.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の減少を受け前年度から 3.0%減となるものの、過去5年平均(118.8 百万トン)から 10.3%増の 131.0 百万トンと、史上3番目の生産量となる見込み。  
なお、2024/25 年度は、2023/24 年度から 13.4%増の 135.0 百万トンと、史上2番目の生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2025.10.14)によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の減少を受け前年度から 1.8%減の 138.6 百万トンの見込み。夏とうもろこし(第1期作)の実産量は、前年度から 2.8%増の 25.6 百万トンの見込み。作付進捗率は 10 月初旬時点で 29.1%と前年同期及び過去5年平均を上回っている。一部地域では低温により発芽及び初期成育が遅れているものの、まとまった降雨が広範囲で記録され生育状態は良好。収益性の向上によりコメや豆からとうもろこしに作付けがシフトし、作付面積は前年度から 6.1%増の 4.0 百万ヘクタールの見込み。また、冬とうもろこし(第2・3期作)の実産量は、前年度から 2.7%減の 113.0 百万トンの見込み。冬とうもろこしの大部分を占める第2期作の作付作業は 12 月末に開始される予定(図)。なお、2024/25 年度の第3期作は9月に大半の実産地域で降雨が続いたことで、遅蒔きで登熟期に入っていた地域に良好な条件となった。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用及びエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより、前年度から 2.2%増の 95.0 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、主にエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより輸出増加が抑制され、前年度と同水準の 43.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度から 12.4%増の 43.0 百万トンとなる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2025 年3～9月の輸出量は、前年同期(1,778.6 万トン)に比べ 2.8%増の 1,829.2 万トン。輸出先国別には、イラン 327.3 万トン(17.9%)、エジプト 288.4 万トン(15.8%)、ベトナム 172.1 万トン(9.4%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の減少及び消費量の増加を受け前年度から 61.2%減、過去5年平均(7.1 百万トン)から 51.8%減の 3.4 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 4.0 ポイント減の 2.5%となる見込み。

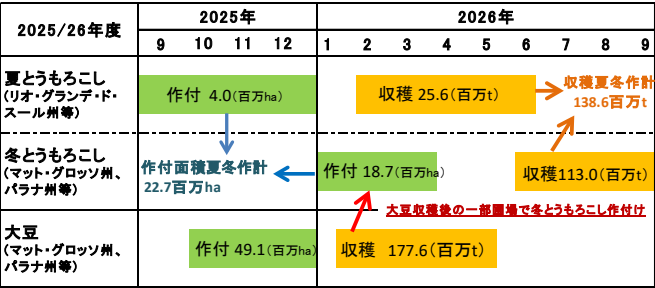
とうもろこしーブラジル

(夏とうもろこしは、概ね8～翌年1月に作付けされ、2～6月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね1～3月に作付けされ、6～10月に収穫される。)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (26年3月～27年2月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 119.0   | 135.0 (141.1)    | 131.0 (138.6)         | - (-)         | ▲3.0 (▲1.8)    |
| 消 費 量      | 84.0    | 93.0 (90.6)      | 95.0 (94.6)           | 1.0 (-)       | 2.2 (4.4)      |
| うち飼料用      | 62.5    | 65.0 …           | 65.5 …                | - …           | 0.8 …          |
| 輸 出 量      | 38.3    | 43.0 (40.0)      | 43.0 (46.5)           | - (-)         | - (16.3)       |
| 輸 入 量      | 1.7     | 1.5 (1.7)        | 1.6 (1.7)             | - (-)         | 6.7 (-)        |
| 期末在庫量      | 8.3     | 8.8 (14.1)       | 3.4 (13.4)            | ▲0.2 (-)      | ▲61.2 (▲5.4)   |
| 期末在庫率      | 6.8%    | 6.5% (10.8%)     | 2.5% (9.5%)           | ▲0.1 (-)      | ▲4.0 (▲1.3)    |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 21.65   | 22.30 (21.8)     | 22.60 (22.7)          | - (-)         | 1.3 (3.9)      |
| 単収(t/ha)   | 5.50    | 6.05 (6.5)       | 5.80 (6.1)            | - (-)         | ▲4.1 (▲5.4)    |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
CONAB「Graos」(14 October 2025) ※( )書き  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)



資料:CONAB「Graos」(2025.10.14)をもとに農林水産省で作成

表 ブラジルのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2024年 3月～2025年 2月) |              |            | 2023/24年度<br>(2024年 3月～2024年 9月) |              |            | 2024/25年度<br>(2025年 3月～2025年 9月) |              |            |
|----------------------------------|--------------|------------|----------------------------------|--------------|------------|----------------------------------|--------------|------------|
| 国名                               | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                               | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                               | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| エジプト                             | 601.1        | 15.7       | エジプト                             | 239.7        | 13.5       | イラン                              | 327.3        | 17.9       |
| イラン                              | 536.9        | 14.1       | 韓国                               | 188.7        | 10.6       | エジプト                             | 288.4        | 15.8       |
| ベトナム                             | 450.9        | 11.8       | ベトナム                             | 182.8        | 10.3       | ベトナム                             | 172.1        | 9.4        |
| 韓国                               | 243.3        | 6.4        | 日本                               | 134.1        | 7.5        | スペイン                             | 121.5        | 6.6        |
| 日本                               | 214.3        | 5.6        | アルジェリア                           | 116.3        | 6.5        | サウジアラビア                          | 99.0         | 5.4        |
| その他                              | 1,772.8      | 46.4       | その他                              | 916.9        | 51.6       | その他                              | 820.9        | 44.9       |
| 合計                               | 3,819.4      | 100.0      | 合計                               | 1,778.6      | 100.0      | 合計                               | 1,829.2      | 100.0      |

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前年度から 6.0%増、過去5年平均(49.0 百万トン)から 8.2%増の 53.0 百万トンとなる見込み。前年度は病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付意欲に負の影響を及ぼしたが、被害の改善により 2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、2023/24 年度から 2.0%減の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報及び月報(2025.10.16)によれば、10 月 16 日現在の作付進捗率は 26%で、前年同期(19%)を上回っており、エントレ・リオス州、サンタフェ州、コルドバ州で最も作付けが進んでいる。ほとんどの圃場では出芽が開始しており、生育は良好(写真)。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実消費量は、飼料用消費の増加を受け前年度から 2.6%増の 15.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は、生産量の増加等を受け前年度から 7.2%増の 37.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の実輸出量は、2023/24 年度から 4.9%減の 34.5 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年3～9月の輸出量は、前年同期(2,366.8 万トン)に比べ 9.5%減の 2,141.9 万トン。輸出先国別には、ベトナム 404.9 万トン(18.9%)、ペルー278.2 万トン(13.0%)、アルジェリア 203.0 万トン(9.5%)の順となっている(表)。

アルゼンチン政府は、2025 年9月 22 日、とうもろこしを含む穀物及びその副産物について、輸出税を一時的に撤廃すると発表した。期限は 10 月 31 日又は申告された輸出額が 70 億米ドルに相当する額に達する日(いずれか早い方)までとしていたが、輸出額の上限に達し、9月 25 日から再び輸出税を課すこととなった。報道情報によれば、輸出を加速させることで、低迷するペソ通貨を支えるために必要なドルを調達する狙いがあったとみられる。政府はこれまで、2025 年1月から6月末までとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げていたが、7月1日からは従来の税率である 12%に引き上げ、8月1日には、再び 9.5%に引き下げていた。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加を受け前年度から 14.7%増、過去5年平均(3.1 百万トン)から 3.0%増の 3.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 0.5 ポイント増の 6.1%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、概ね9月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年2月前半に作付けされる。概ね3～8月に収穫される。)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (26年3月～27年2月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 51.0    | 50.0             | 53.0 (59.1)           | -             | 6.0            |
| 消 費 量 | 14.6    | 15.2             | 15.6 (20.9)           | -             | 2.6            |
| うち飼料用 | 10.4    | 10.8             | 11.2 (15.9)           | -             | 3.7            |
| 輸 出 量 | 36.3    | 34.5             | 37.0 (38.0)           | -             | 7.2            |
| 輸 入 量 | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)             | -             | -              |
| 期末在庫量 | 2.5     | 2.8              | 3.2 (1.8)             | -             | 14.7           |
| 期末在庫率 | 4.9%    | 5.6%             | 6.1% (3.1%)           | -             | 0.5            |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 7.78 6.90 7.50 (8.22)  
単収(t/ha) 6.56 7.25 7.07 (7.20)  
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点の値であり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

写真 サンタフェ州の圃場(9月 24 日撮影)



当圃場では9月10日に作付作業が行われ、とうもろこしの出芽が始まっている。

撮影者:José Daniel Peloni

表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2024年3月～2025年2月) |              |            | 2023/24年度<br>(2024年3月～2024年9月) |              |            | 2024/25年度<br>(2025年3月～2025年9月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| ベトナム                           | 667.8        | 18.4       | ベトナム                           | 468.8        | 19.8       | ベトナム                           | 404.9        | 18.9       |
| ペルー                            | 433.1        | 11.9       | ペルー                            | 263.8        | 11.1       | ペルー                            | 278.2        | 13.0       |
| マレーシア                          | 333.6        | 9.2        | 韓国                             | 236.4        | 10.0       | アルジェリア                         | 203.0        | 9.5        |
| 韓国                             | 282.2        | 7.8        | マレーシア                          | 216.9        | 9.2        | マレーシア                          | 199.9        | 9.3        |
| アルジェリア                         | 280.1        | 7.7        | サウジアラビア                        | 182.1        | 7.7        | エジプト                           | 158.7        | 7.4        |
| その他                            | 1,628.2      | 44.9       | その他                            | 998.9        | 42.2       | その他                            | 897.2        | 41.9       |
| 合計                             | 3,624.9      | 100.0      | 合計                             | 2,366.8      | 100.0      | 合計                             | 2,141.9      | 100.0      |

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 19.4%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積及び単収の増加を受け高温乾燥等の影響により生産量が減少した前年度から 19.4%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン)から 4.9%減の 32.0 百万トンとなる見込み（図）。

現地情報会社によれば、10 月 9 日現在、収穫進捗率は 15%となっている。

【需要状況】USDAによれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の増加を受け前年度から 10.9%増の 6.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の増加等を受け前年度から 23.8%増の 25.5 百万トンとなる見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度から 30.1%減の 20.6 百万トンとなる見込み。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25 年度(2024 年 10 月～2025 年9月)の輸出量は、前年度(2,947.1 万トン)に比べ 32.1%減の 2,000.8 万トン。輸出先国別には、トルコ 568.8 万トン(28.4%)、イタリア 273.6 万トン(13.7%)、スペイン 240.7 万トン(12.0%)の順となっている(表)。2025 年9月の輸出量は前年同月に比べ 90.2%減の 4.2 万トンと、2020/21 年度以降では最低水準となった。報道情報によれば、大幅な輸出量の減少は収穫の遅れが原因であり、主産地である中央部と北部で本格的な収穫が始まっていなかったとみられる。

2022 年6月より適用されてきた EU のウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置が 2025 年 6 月 5 日に適用期限を迎え失効し、欧州委員会は、6 月 6 日以降、深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)に基づく関税割当を適用している。6 月 30 日には欧州委員会とウクライナが DCFTA の下で新たな貿易措置に合意したことが発表され、とうもろこしの年間の関税割当量は、現行の 65 万トンから 100 万トンに拡大された(小麦＜ウクライナ＞表1参照)。EU とウクライナの連合委員会は 10 月 14 日に上記の合意を承認し、10 月 29 日に発効となった。期限は 2028 年末までとされ、同年に見直しが検討される予定。現地情報会社によれば、とうもろこしについては、EU の関税率は0%であるため、割当量の増減による影響はないとみられる。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加により、前年度から 8.5%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2.5 百万トン)からは 54.4%減の 1.2 百万トンの見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 0.4 ポイント減の 3.6%となる見込み。

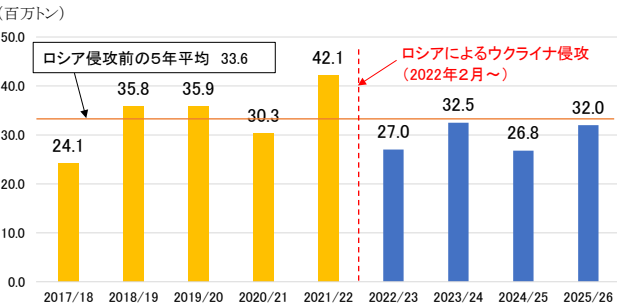
とうもろこしーウクライナ

(概ね4～5月に作付けされ、8～11 月に収穫される。)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) |               |                |        |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|--------|
|            |         |                  | 予測値( ) はIGC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |        |
| 生 産 量      | 32.5    | 26.8             | 32.0 (31.5)            | -             | -              | 19.4   |
| 消 費 量      | 5.4     | 5.8              | 6.4 (6.1)              | 0.1           | 0.1            | 10.9   |
| うち飼料用      | 4.5     | 4.9              | 5.5 (4.7)              | 0.1           | 0.1            | 12.2   |
| 輸 出 量      | 29.5    | 20.6             | 25.5 (25.5)            | -             | -              | 23.8   |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)              | -             | -              | ▲ 50.0 |
| 期末在庫量      | 0.6     | 1.1              | 1.2 (1.0)              | 0.2           | 0.2            | 8.5    |
| 期末在庫率      | 1.8%    | 4.0%             | 3.6% (3.2%)            | 0.6           | 0.6            | ▲ 0.4  |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |        |
| 収穫面積(百万ha) | 4.20    | 4.10             | 4.40 (4.40)            | -             | -              | 7.3    |
| 単収(t/ha)   | 7.74    | 6.54             | 7.27 (7.16)            | -             | -              | 11.2   |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 ウクライナのとうもろこしの生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年 9 月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年 9 月) |              |            |
|-----------------------------------|--------------|------------|-----------------------------------|--------------|------------|
| 国名                                | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                                | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| スペイン                              | 617.4        | 20.9       | トルコ                               | 568.8        | 28.4       |
| 中国                                | 461.9        | 15.7       | イタリア                              | 273.6        | 13.7       |
| エジプト                              | 361.9        | 12.3       | スペイン                              | 240.7        | 12.0       |
| オランダ                              | 277.7        | 9.4        | オランダ                              | 199.1        | 10.0       |
| イタリア                              | 253.0        | 8.6        | エジプト                              | 162.5        | 8.1        |
| その他                               | 975.2        | 33.1       | その他                               | 556.1        | 27.8       |
| 合計                                | 2,947.1      | 100.0      | 合計                                | 2,000.8      | 100.0      |

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、単収の増加を受け前年度から 0.03%増、過去5年平均(278.8 百万トン)から 5.8%増の 295.0 百万トンと、史上最高の見込み。

中国中央气象台「全国農業気象月報」(2025.10.5)によれば、東北部では、9月の日照、気温、水分量の条件は良好で、初霜の時期が遅く、作物の成熟に好影響を与えた。9月末現在、春とうもろこし、夏とうもろこしのいずれも生育ステージは主に乳熟期～成熟期にある。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の増加を受け前年度から 1.6%増の 321.0 百万トンと、史上最高の見込み。ただし、中国農業農村部「中国農業展望報告(2025－2034)」(2025.4)によれば、飼料用とうもろこしの需要は、今後、畜産物単位当たりの飼料消費量の減少に伴い、減少に転じる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、大幅に輸入量が減少した前年度から 233.3%増の 10.0 百万トンとなる見込み。なお、2024/25 年度の輸入量は、報復関税などの貿易政策の変更や国内農家の利益を守るための輸入抑制により、2023/24 年度から 87.1%減の 3.0 百万トンとなる見込み(図)。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年8月の輸入量は、前年同期(2,301.6 万トン)に比べ 92.3%減の 176.7 万トン。輸入先国別には、ブラジル 72.4 万トン(41.0%)、ウクライナ 37.6 万トン(21.3%)、ロシア 33.5 万トン(19.0%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年8月号」によれば、8月の国内価格は、流通業者の在庫放出により市場供給量が増加したことに加え、工業用需要が低調で企業の稼働率が低下を続けたため、前月(2,420 元/トン)から下落し 2,380 元/トン。

中国国務院関税税則委員会は、5月 14 日以降、米国産とうもろこしに対して計 25%の追加関税を課している。8月 12 日には 90 日間停止されてきた 24%が上乗せされることとなっていたが、米中の合意により、この停止期間はさらに 90 日間延長されることとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の増加を受け前年度から 8.3%減、過去5年平均(205.0 百万トン)から 13.6%減の 177.1 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 5.9 ポイント減の 55.2%となる見込み。

とうもろこしー中国

(春とうもろこしは、概ね2～4月に作付けされ、7～9月に収穫される。夏とうもろこしは、概ね4～6月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) |               |               |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|---------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC           | 前月予測<br>からの変更 | 前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 288.8   | 294.9            | 295.0 (299.5)          |               | 0.03          |
| 消 費 量      | 307.0   | 316.0            | 321.0 (313.2)          | -             | 1.6           |
| うち飼料用      | 225.0   | 234.0            | 239.0 (211.0)          | -             | 2.1           |
| 輸 出 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.1)              | -             | -             |
| 輸 入 量      | 23.3    | 3.0              | 10.0 (8.0)             | -             | 233.3         |
| 期末在庫量      | 211.2   | 193.1            | 177.1 (178.4)          | ▲ 1.1         | ▲ 8.3         |
| 期末在庫率      | 68.8%   | 61.1%            | 55.2% (57.0%)          | ▲ 0.3         | ▲ 5.9         |
| (参考)       |         |                  |                        |               |               |
| 収穫面積(百万ha) | 44.22   | 44.74            | 44.30 (44.90)          | -             | ▲ 1.0         |
| 単収(t/ha)   | 6.53    | 6.59             | 6.66 (6.67)            | -             | 1.1           |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 中国のとうもろこしの輸入量の推移

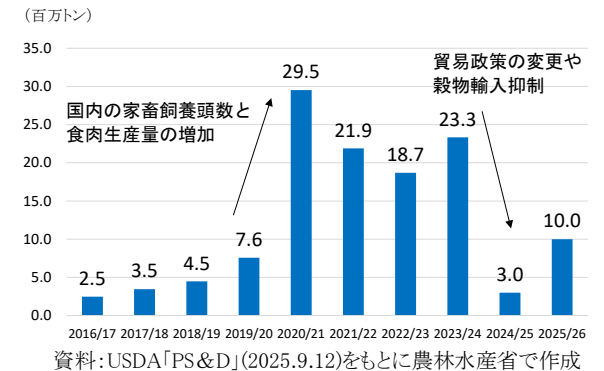


表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

| 2023/24 年度<br>(2023年10月～2024年9月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年8月) |              |            |
|----------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名                               | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| ブラジル                             | 1,502.3      | 64.4       | ブラジル                            | 1,479.6      | 64.3       | ブラジル                            | 72.4         | 41.0       |
| ウクライナ                            | 456.5        | 19.6       | ウクライナ                           | 451.2        | 19.6       | ウクライナ                           | 37.6         | 21.3       |
| 米国                               | 298.8        | 12.8       | 米国                              | 297.3        | 12.9       | ロシア                             | 33.5         | 19.0       |
| ミャンマー                            | 19.8         | 0.8        | ミャンマー                           | 19.7         | 0.9        | ミャンマー                           | 20.7         | 11.7       |
| ブルガリア                            | 18.2         | 0.8        | ブルガリア                           | 18.2         | 0.8        | ラオス                             | 6.2          | 3.5        |
| ロシア                              | 15.6         | 0.7        | ロシア                             | 14.4         | 0.6        | 米国                              | 3.9          | 2.2        |
| その他                              | 21.8         | 0.9        | その他                             | 21.0         | 0.9        | その他                             | 2.3          | 1.3        |
| 計                                | 2,332.9      | 100.0      | 計                               | 2,301.6      | 100.0      | 計                               | 176.7        | 100.0      |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成



3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月比」は2025年8月予測との比。

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナム、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

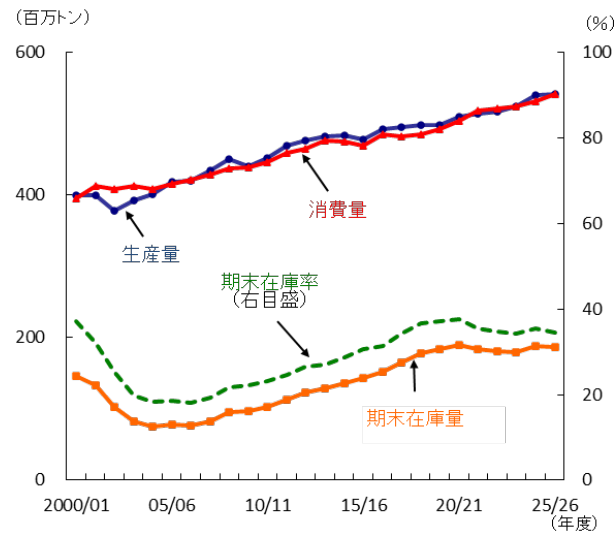
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ミャンマー、アフガニスタン等で下方修正されたものの、インド、マダガスカル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン、米国、豪州等で下方修正されたものの、ミャンマーで上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

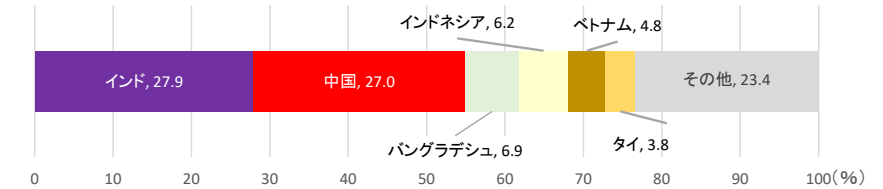
(単位:百万精米トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 523.7   | 540.9            | 541.1   | ▲ 0.4         | 0.03           |
| 消 費 量 | 524.8   | 532.0            | 542.2   | 0.2           | 1.9            |
| 輸 出 量 | 56.8    | 61.12            | 62.2    | 0.04          | 1.7            |
| 輸 入 量 | 53.4    | 58.2             | 58.8    | 0.1           | 1.0            |
| 期末在庫量 | 179.4   | 188.4            | 187.3   | 0.6           | ▲ 0.6          |
| 期末在庫率 | 34.2%   | 35.4%            | 34.5%   | 0.1           | ▲ 0.9          |

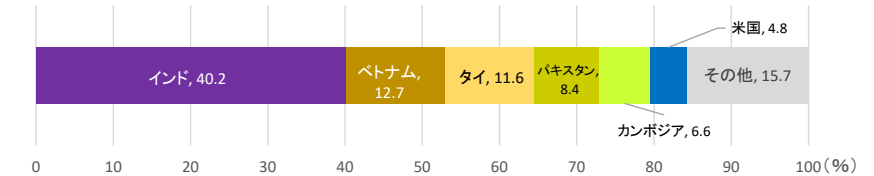
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

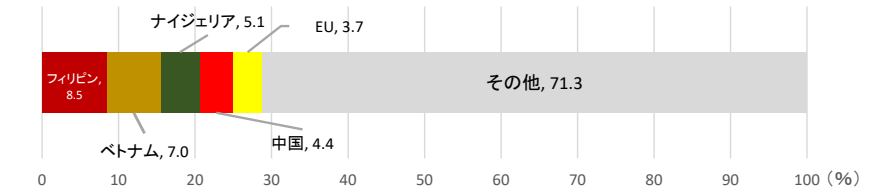
○ 2025/26年度 世界のコメの生産量(541.1百万トン)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸出量(62.2百万トン)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸入量(58.8百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が前年度から8万ヘクタール減少（前年度比 0.7%減）することを受け前年度から 0.7%減の 20.4 百万トンの見込み。単収は過去最高の 2.86 トン/ヘクタールを維持する見込み。

タイ農業協同組合農業経済局「農業経済」（2025.9）によれば、2024/25 年度の乾季米（2024 年 11 月～2025 年4月作付け）は収穫作業をほぼ終了した。生産量は作付面積の増加に伴い、前年度から 31%増の 859 万トン（粳米ベース）と予測されている。また 2025/26 年度の雨季米（2025 年5月～10 月作付け）の実産量は、作付面積が微減するものの、気象条件が良く、単収が前年度から 1.2%増の 2.75 トン/ヘクタールと見込まれ、前年度から 0.8%増の 2,723 万トン（粳米ベース）となる見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.9）によれば、雨季米は現在、幼穂形成期にあり、作付面積は市場価格の下落を要因に減少が予測されている。8月下旬、北部及び北東部では、台風 13 号カジキと台風 14 号ナンファに伴う持続的な降雨により洪水が発生し、約1万 4,000 ヘクタールの水田が被害を受けた。こうした局所的な影響はあるものの、十分な降雨と日射量に支えられ、全体的な生育状況は良好な状態を維持している。そのため単収及び総生産量は前年度から増加が見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度同の 7.2 百万トンの見込み。

同「Grain and Feed Monthly」（2025.9.3）によれば、タイのコメ輸出は、インドの低価格米の市場復帰と、インドネシアやフィリピンを含む主要輸出先国の需要減退が要因となり輸出量減少及び競争力の低下という厳しい環境に直面している。

タイ関税局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年1～8月の輸出量は、前年同期に比べ 24%減の 503.6 万トンで、輸出先国別には、イラク 66.9 万トン（14.6%）、米国 54.3 万トン（11.4%）、南アフリカ 54.0 万トン（9.6%）の順となっている（表）。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は7万トンと大幅に減少し前年同期に比べ 94%減となった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、政府の大規模備蓄計画を受け前年度から 19.3%増の 3.7 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 2.9 ポイント増の 18.7%となる見込み。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26(26年1月～26年12月) |               |                |  |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--|
|       |         |                  | 予測値、0はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量 | 20.0    | 20.6             | 20.4 (20.4)           | -             | ▲ 0.7          |  |
| 消 費 量 | 12.3    | 12.5             | 12.7 (12.6)           | -             | 1.2            |  |
| 輸 出 量 | 9.9     | 7.2              | 7.2 (7.7)             | -             | -              |  |
| 輸 入 量 | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.02)            | -             | -              |  |
| 期末在庫量 | 2.2     | 3.1              | 3.7 (3.0)             | -             | 19.3           |  |
| 期末在庫率 | 10.0%   | 15.8%            | 18.7% (14.9%)         | -             | 2.9            |  |

(参考)

|            |       |       |               |   |       |
|------------|-------|-------|---------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 10.65 | 10.88 | 10.80 (10.80) | - | ▲ 0.7 |
| 単収(粳t/ha)  | 2.85  | 2.86  | 2.86 (1.89)   | - | -     |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)（単収は精米t/ha）  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

写真 タイ北部の圃場(10月7日撮影)



7月 26 日に作付けを行ったジャボニカ米は、幼穂形成期を迎え、生育は順調。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2024年1月～12月) |              |            | 2023/24年度<br>(2024年1月～8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2025年1月～8月) |              |            |
|----------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国 名                        | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| インドネシア                     | 133.3        | 13.4       | インドネシア                    | 111.1        | 19.2       | イラク                       | 66.9         | 14.6       |
| イラク                        | 99.7         | 10.0       | イラク                       | 75.4         | 11.0       | 米国                        | 54.3         | 11.4       |
| 米国                         | 84.8         | 8.5        | 米国                        | 53.3         | 8.1        | 南アフリカ                     | 54.0         | 9.6        |
| 南アフリカ                      | 83.3         | 8.4        | 南アフリカ                     | 50.0         | 7.0        | 中国                        | 46.7         | 9.5        |
| フィリピン                      | 61.8         | 6.2        | フィリピン                     | 34.7         | 5.3        | セネガル                      | 22.7         | 4.3        |
| セネガル                       | 46.2         | 4.6        | セネガル                      | 28.7         | 3.9        | 日本                        | 16.4         | 3.8        |
| その他                        | 489.6        | 48.8       | その他                       | 310.2        | 45.5       | その他                       | 242.5        | 46.8       |
| 計                          | 998.7        | 100.0      | 計                         | 663.4        | 100.0      | 計                         | 503.6        | 100.0      |

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成



< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Rice Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26年度の実産量は、前年度から6.0%減の6.6百万トンの見込み。種類別では、長粒種は4.9百万トンと前年度から11%減の見込み。これは米国最大の長粒種生産地域であるミシシッピ・デルタ地域における4～5月にかけての異常な豪雨と、それに続く洪水により、作付面積が減少したことによる。一方、中・短粒種は1.7百万トンと、前年度から9.8%増の見込み。これは、中・短粒種の主要生産地であるカリフォルニア州における作付面積の拡大による。

同「Crop Production」(2025.9.12)によれば、2025/26年度の収穫面積は、1.12百万ヘクタールで、前年同期に比べ3.7%減。種類別の収穫面積は、長粒種は、アーカンソー州等で減少し、7.5%減の0.84百万ヘクタール。中・短粒種は、カリフォルニア州、ルイジアナ州等で増加し、11.2%増の0.26百万ヘクタール。中・短粒種の主要生産地であるカリフォルニア州では、前年度から14.2%増の0.21百万ヘクタールの見込み。

同「Crop Progress」(2025.9.8)によれば、9月7日現在の作柄評価は、「良～優良」の割合は74%と前年同期(80%)を6ポイント下回っている。同「Crop Progress」(2025.9.29)によれば、9月28日現在、主要生産6州の収穫進捗率は77%と前年同期(77%)と同水準で、過去5年平均(67%)を10ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、引き続きタイからのジャスミン米やインド、パキスタンからのバスマティ米の輸入継続が予測され、前年度から 2.5%増の 1.6 百万トンと史上最高の見込み。

同「Rice Outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26 年度の輸出量は、北東アジア及びイラク向け輸出増が予測されることを受け前年度から 4.2%増の 3.0 百万トンの見込み。

同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8～9月の輸出量は 27.8 万トンで、輸出先国別には、ハイチ 5.8 万トン(20.9%)、メキシコ 5.7 万トン(20.5%)、日本 3.7 万トン(13.1%)の順(表)。種類別には、長粒種は、輸出量 18.9 万トンで、輸出先国別には、ハイチ 5.8 万トン(国別シェア 30.7%)、メキシコ 4.6 万トン(同 24.4%)、ホンジュラス 2.6 万トン(同 13.6%)。中・短粒種は、輸出量 8.9 万トンで、輸出先国別には、日本 3.7 万トン(国別シェア 41.1%)、韓国 3.1 万トン(同 35.3%)、メキシコ 1.1 万トン(同 12.0%)。

コメー米国

長粒種の実産量は7割、中・短粒種の実産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年8月～26年7月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 6.9     | 7.1              | 6.6                   | 0.01          | ▲ 6.0          |
| 消 費 量      | 4.9     | 5.3              | 5.3                   | ▲ 0.03        | ▲ 0.6          |
| 輸 出 量      | 3.2     | 2.9              | 3.0                   | ▲ 0.1         | 4.2            |
| 輸 入 量      | 1.4     | 1.6              | 1.6                   | 0.03          | 2.5            |
| 期末在庫量      | 1.3     | 1.7              | 1.7                   | 0.3           | ▲ 1.2          |
| 期末在庫率      | 15.8%   | 20.9%            | 20.5%                 | 3.5           | ▲ 0.5          |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 1.16    | 1.16             | 1.12                  | 0.01          | ▲ 3.4          |
| 単収(kg/ha)  | 8.56    | 8.69             | 8.47                  | ▲ 0.1         | ▲ 2.5          |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

写真 カリフォルニア州の圃場(10月13日撮影)



中粒種の品種  
M-105 カルロー  
ズの圃場。コン  
バインが稲を穀  
物カートに積み  
下ろしている。

撮影者: Vicky Boyd

表 米国のコメの輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年8月～2025年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年8月～9月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年8月～9月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国 名                            | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| メキシコ                           | 68.6         | 23.5       | メキシコ                      | 8.4          | 20.2       | ハイチ                       | 5.8          | 20.9       |
| 日本                             | 39.4         | 13.5       | 韓国                        | 6.5          | 15.6       | メキシコ                      | 5.7          | 20.5       |
| ハイチ                            | 28.6         | 9.8        | ニカラグア                     | 3.5          | 8.5        | 日本                        | 3.7          | 13.1       |
| ホンジュラス                         | 27.4         | 9.4        | ハイチ                       | 3.5          | 8.3        | 韓国                        | 3.1          | 11.3       |
| イラク                            | 22.0         | 7.6        | 日本                        | 2.9          | 7.0        | ホンジュラス                    | 2.6          | 9.2        |
| 韓国                             | 13.4         | 4.6        | トルコ                       | 2.9          | 6.8        | サウジアラビア                   | 2.0          | 7.3        |
| その他                            | 91.9         | 31.6       | その他                       | 14.1         | 33.7       | その他                       | 4.9          | 17.7       |
| 計                              | 291.2        | 100.0      | 計                         | 41.8         | 100.0      | 計                         | 27.8         | 100.0      |

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26 年度の実産量は、農作物の生産性向上との政府計画に沿って、作付面積が安定し単収が増加するとの予測を受け前年度から 0.5%増の 146.0 百万トン(精米ベース)となる見込み。

中国中央気象台「晩稲二期作生育状況」及び「一期作生育状況」(2025.10.5～10.11)によれば、二期作晩稲は、南部稲作地域の華南（広東省、広西（コワンシー）壮族自治区）、浙江省、江西省、湖南省で、出穂期、乳熟期及び成熟期にある。一期作米は、長江中下流域(江蘇省、浙江省)や広西（コワンシー）壮族自治区で乳熟及び成熟期を迎えている。

内モンゴル自治区食糧・物資備蓄局「2025 年 10 月 14 日国内米相場」によれば、中国南部では十分な日射量が、作物の成熟、収穫及び乾燥を推進した。湖南省東部、江西省、浙江省西部、福建省北西部などでは高温が続き、晩稲の出穂や乳熟に悪影響を与えた。また台風 21 号マットウモの影響で、海南省、広東省西部、広西（コワンシー）壮族自治区南西部、雲南省、貴州省西部などで強風、豪雨が発生し、一部地域で晩稲が倒伏、水没した。10 月 10 日現在、全国の秋作物の収穫は 50%を超えており、品目別で中稲は約 60%となっている。二期作晩稲は散発的に収穫が進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA「Grain and Feed Update」(2025.7.2)によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料及び工業用への古米在庫の放出増を要因として前年度から 0.5%増の 146.7 百万トンとなる見込み。

同「Rice outlook」(2025.9.16)によれば、2025/26 年度の輸入量は、国際市場におけるコメ価格の下落と国内コメ価格の高止まりによりミャンマーからの輸入が増加するとの予測を受け前年度から 11.1%増の 2.6 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7～8月の輸入量は、前年同期(15.8 万トン)に比べ 274.4%増の 59.1 万トンとなっている。輸入先国別には、ミャンマー23.5 万トン(39.7%)、タイ 15.2 万トン(25.7%)、ベトナム 10.9 万トン(18.5%)の順となっている(表)。

USDAによれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度から 21.7%減の 0.9 百万トンの見込み。

2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加予測や政府の備蓄プログラム等を受け前年度から 1.0%増の 104.5 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 0.4 ポイント増の 70.8%となる見込み。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

| (単位:百万精米トン) |         |                  |                       |               |                |  |
|-------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--|
| 年 度         | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年7月～26年6月) |               |                |  |
|             |         |                  | 予測値、〇はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量       | 144.6   | 145.3            | 146.0 (146.0)         | -             | 0.5            |  |
| 消 費 量       | 148.1   | 146.0            | 146.7 (145.6)         | -             | 0.5            |  |
| 輸 出 量       | 1.6     | 1.2              | 0.9 (1.9)             | -             | ▲ 21.7         |  |
| 輸 入 量       | 1.5     | 2.3              | 2.6 (2.5)             | -             | 11.1           |  |
| 期末在庫量       | 103.0   | 103.5            | 104.5 (103.2)         | -             | 1.0            |  |
| 期末在庫率       | 68.8%   | 70.4%            | 70.8% (70.0%)         | -             | 0.4            |  |
| (参考)        |         |                  |                       |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha)  | 28.95   | 29.01            | 29.00 (29.00)         | -             | ▲ 0.03         |  |
| 単収(粍t/ha)   | 7.14    | 7.15             | 7.19 (5.03)           | -             | 0.6            |  |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025) (単収は精米/ha)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 中国のコメの輸入先国と輸入量

| 2024/25年度<br>(2024年7月～2025年6月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年7月～8月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年7月～8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                        | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| ミャンマー                          | 67.4         | 28.9       | ミャンマー                     | 7.7          | 49.1       | ミャンマー                     | 23.5         | 39.7       |
| タイ                             | 56.1         | 24.0       | タイ                        | 4.0          | 25.3       | タイ                        | 15.2         | 25.7       |
| ベトナム                           | 49.6         | 21.3       | ベトナム                      | 2.3          | 14.8       | ベトナム                      | 10.9         | 18.5       |
| インド                            | 24.1         | 10.3       | パキスタン                     | 1.5          | 9.2        | インド                       | 6.3          | 10.6       |
| パキスタン                          | 20.7         | 8.9        | インド                       | 0.1          | 0.7        | パキスタン                     | 2.2          | 3.7        |
| カンボジア                          | 11.7         | 5.0        | ラオス                       | 0.1          | 0.6        | カンボジア                     | 1.1          | 1.8        |
| その他                            | 3.8          | 1.6        | その他                       | 0.1          | 0.4        | その他                       | 0.0          | 0.0        |
| 合計                             | 233.5        | 100.0      | 合計                        | 15.8         | 100.0      | 合計                        | 59.1         | 100.0      |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.7%増、過去5年平均(135.5 百万トン)から 11.5%増の 151.0 百万トンと史上最高の見込み。

同「Kharif Sowing Increases but Heavy Rains Impact Standings Crops」(2025.9.24)によれば、9月4日時点のインド全土のモンスーン降水量は 50 年平均を9%上回り、北西部と中部でそれぞれ平年比 37%、10%の降水量増を記録した。本降雨により土壌水分量が改善され、9月1日時点の作付面積は 43.2 百万ヘクタールと前年(40.5 百万ヘクタール)から7%増加した。

インド農業・農民福祉省によれば、2025/26 年度のカリフ米の作付面積は、9月 26 日時点で前年度から 1.35%増の 44.2 百万ヘクタールとなっており、南西モンスーンの早期到来及び範囲拡大が増加要因となっている。

【貿易情報・その他】USDA「Grain and Feed Update」(2025.9.3)によれば、2025/26 年度の消費量は、インド政府が国内市場及びエタノール製造業者向けに補助価格で過剰米の在庫処分を進めることによる需要増が見込まれ、前年度から 4.1%増の 127.0 百万トンと予測されている。また生産量の増加により、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度(PDS)の継続実施が可能となっている。政府は PDS により市場からコメ等を調達し、低所得世帯(8.14 億人以上)に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前年度から 6.4%増の 25.0 百万トンの見込み。同「Grain: World Markets and Trade」(2025.7.11)によれば、インドのパーボイルド米輸出は、規制の撤廃後、価格の下落によりサハラ以南のアフリカ及びバングラデシュへの販売が増加し、過去最高を記録する勢いにある。

インド輸出入統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年7月の輸出量は、1,954.2 万トンと前年同期(1,242.9 万トン)に比べ 57.2%増となっている。輸出先国別には、ベナン 188.5 万トン(9.6%)、サウジアラビア 122.9 万トン(6.3%)、バングラデシュ 118.6 万トン(6.1%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、政府備蓄米放出等により前年度から 2.2%減の 45.5 百万トンとなるが、政府が望む在庫水準(13.54 百万トン)は大幅に上回る見込み。

インド食品公社(Food Cooperation India)によれば、2025 年9月時点の期末在庫量は、36.9 百万トン(精米)と前年同期に比べ 14.2%増の見込み。

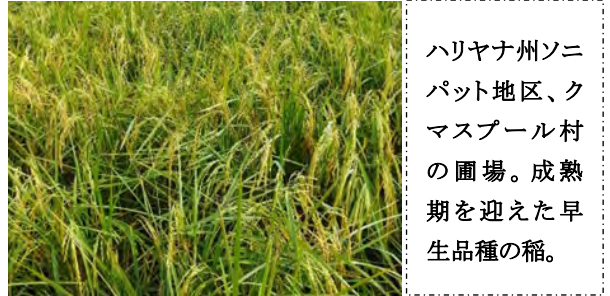
コメーインド

カリフ米:雨季/モンスーン期(5～10 月)に栽培。  
ラビ米:冬季の 11 月～翌3月に栽培。  
夏季米:3～6月に栽培。

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26(25年10月～26年9月) |               |                |  |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--|
|       |         |                  | 予測値、0はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量 | 137.8   | 150.0            | 151.0 (151.0)         | -             | 0.7            |  |
| 消 費 量 | 116.4   | 122.0            | 127.0 (124.2)         | 0.5           | 4.1            |  |
| 輸 出 量 | 14.4    | 23.5             | 25.0 (23.4)           | -             | 6.4            |  |
| 輸 入 量 | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)             | -             | -              |  |
| 期末在庫量 | 42.0    | 46.5             | 45.5 (50.4)           | -             | ▲ 2.2          |  |
| 期末在庫率 | 32.1%   | 32.0%            | 29.9% (34.2%)         | ▲ 0.1         | ▲ 2.0          |  |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 47.83 51.42 51.50 (51.50) - 0.2  
単収(穀t/ha) 4.32 4.38 4.40 (2.93) - 0.5  
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)、  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025) (単収は精米t/ha)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

写真 インド北部の圃場(10月1日撮影)



ハリヤナ州ソニ  
パット地区、ク  
マスプール村  
の圃場。成熟  
期を迎えた早  
生品種の稲。

表 インドのコメの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年9月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年7月) |              |            |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| サウジアラビア                         | 136.7        | 9.3        | サウジアラビア                         | 119.8        | 9.6        | ベナン                             | 188.5        | 9.6        |
| ベナン                             | 125.0        | 8.5        | ベナン                             | 100.0        | 8.0        | サウジアラビア                         | 122.9        | 6.3        |
| イラク                             | 99.4         | 6.8        | ギニア                             | 80.8         | 6.5        | バングラデシュ                         | 118.6        | 6.1        |
| ギニア                             | 84.5         | 5.8        | イラク                             | 77.4         | 6.2        | コートジボワール                        | 99.7         | 5.1        |
| イラン                             | 74.0         | 5.1        | イラン                             | 69.0         | 5.6        | ギニア                             | 99.4         | 5.1        |
| コートジボワール                        | 71.8         | 4.9        | コートジボワール                        | 56.6         | 4.6        | トーゴ                             | 88.7         | 4.5        |
| その他                             | 872.1        | 59.6       | その他                             | 739.2        | 59.5       | その他                             | 1,236.5      | 63.3       |
| 計                               | 1,463.4      | 100.0      | 計                               | 1,242.9      | 100.0      | 計                               | 1,954.2      | 100.0      |

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

コメベトナム

北部で概ね二期作、南部で三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (26年1月～26年12月) |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、OはIGC              | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 27.2    | 26.8             | 26.0 (28.6)            | ▲ 0.3         | ▲ 2.8          |
| 消 費 量      | 22.5    | 22.6             | 22.7 (22.5)            | -             | 0.4            |
| 輸 出 量      | 9.0     | 8.2              | 7.9 (8.5)              | -             | ▲ 3.7          |
| 輸 入 量      | 3.7     | 4.0              | 4.1 (2.7)              | -             | 2.5            |
| 期末在庫量      | 3.0     | 2.9              | 2.4 (2.3)              | ▲ 0.5         | ▲ 17.0         |
| 期末在庫率      | 9.5%    | 9.5%             | 8.0% (7.5%)            | ▲ 1.6         | ▲ 1.6          |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.11    | 6.95             | 6.80 (7.18)            | ▲ 0.10        | ▲ 2.2          |
| 単収(㎏/ha)   | 6.12    | 6.16             | 6.12 (3.99)            | 0.02          | ▲ 0.6          |

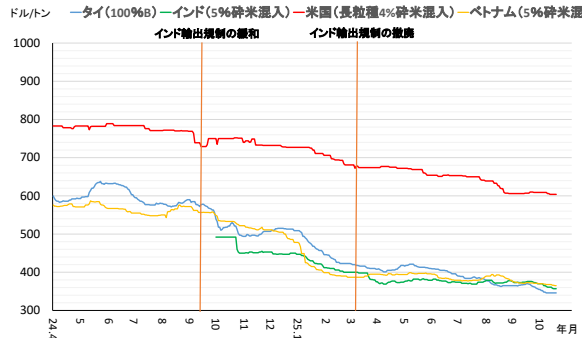
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)、  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025) (単収は精米t/ha)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2024年1月～12月) |              |            | 2023/24年度<br>(2024年1月～9月) |              |            | 2024/25年度<br>(2025年1月～9月) |              |            |
|----------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|---------------------------|--------------|------------|
| 国 名                        | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国 名                       | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| フィリピン                      | 422.1        | 46.7       | フィリピン                     | 322.8        | 46.2       | フィリピン                     | 294.4        | 43.1       |
| インドネシア                     | 125.7        | 13.9       | インドネシア                    | 103.2        | 14.8       | コートジボワール                  | 85.3         | 12.5       |
| マレーシア                      | 71.9         | 8.0        | マレーシア                     | 62.1         | 8.9        | ガーナ                       | 76.5         | 11.2       |
| ガーナ                        | 61.3         | 6.8        | ガーナ                       | 42.4         | 6.1        | 中国                        | 60.0         | 8.8        |
| コートジボワール                   | 48.3         | 5.3        | コートジボワール                  | 33.7         | 4.8        | マレーシア                     | 36.3         | 5.3        |
| 中国                         | 28.5         | 3.2        | 中国                        | 24.1         | 3.5        | セネガル                      | 16.4         | 2.4        |
| その他                        | 145.5        | 16.1       | その他                       | 110.8        | 15.9       | その他                       | 113.6        | 16.7       |
| 計                          | 903.4        | 100.0      | 計                         | 699.2        | 100.0      | 計                         | 682.5        | 100.0      |

資料:ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

図 米国、タイ、ベトナム、インドのコメ輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 2.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から2.8%減の26.0百万トンの見込み。

ベトナム総統計局(2025.10.6)によれば、2025年(USDA:2024/25年度)の雨季作(ムア米)の全国作付面積は、9月20日時点で、前年同期に比べ0.72万ヘクタール減の146.11万ヘクタールの見込み。うち北部の作付面積は、土地転用等により、前年同期に比べ1.64万ヘクタール減の97.98万ヘクタールとなっている。南部の作付面積は、塩害の影響が軽減されたことから、前年同期に比べ0.92万ヘクタール増の48.13万ヘクタールとなっている。なお、雨季作(夏秋米)の作付面積は、前年同期に比べ1.09万ヘクタール減の189.83万ヘクタールとなっている。

アセアン食料安全保障情報システム(2025.9)によれば、北部では雨季米(夏秋作)が幼穂形成期から乳熟期にあり、作付面積は115万ヘクタールである。良好な天候による灌漑設備からの十分な水供給により生育は良好なことから、単収はやや増加が見込まれている。8月下旬の台風13号カジキにより、新たに作付けされたムア米(夏秋作)を中心に10万5,000ヘクタールが被害を受けた。しかし速やかな排水と再作付けが行われ、作物の生育は順調とのこと。南部では、雨季米(早期夏秋作)が収穫期を迎え、単収は前年度並みと予測されている。その他雨季米(後期夏秋作及びムア作)は登熟期から収穫期に入っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、カンボジアからの粳米(国内精米用)の大量輸入継続により、前年度から2.5%増の4.1百万トンと、過去最高となる見込み。同「Grain and Feed Quarterly」(2025.8.6)によれば、国内のコメ供給はカンボジアからの玄米輸入で補われており、2025年上半期にベトナムはカンボジアから約170万トン輸入し、前年同期に比べ77%増となった。

USDAによれば、2025/26年度の輸出量は、インドやタイといった輸出国との競争激化が予測され前年度から3.7%減の7.9百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2024/25年度のうち2025年1～9月の輸出量は、682.5万トンと前年同期(699.2万トン)に比べ2.4%減。輸出先国別には、フィリピン294.4万トン(43.1%)、コートジボワール85.3万トン(12.5%)、ガーナ76.5万トン(11.2%)の順(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の10月10日の価格は、前月(9月10日)から4ドル/トン下落し368ドル/トンとなった(図)。USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前年度から17.0%減の2.4百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から1.6ポイント減の8.0%となる見込み。



## Ⅱ 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2025/26 年度

USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月比」は2025年8月予測との比。

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ロシア等で上方修正されたものの、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

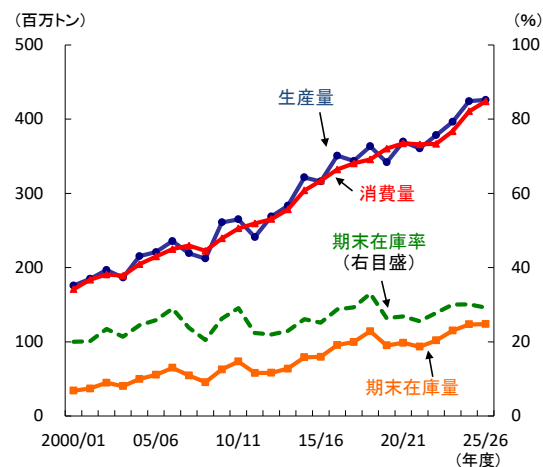
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国、エジプト等で上方修正されたものの、インド、アルゼンチン、バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国等で下方修正されたものの、ロシア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

### ◎世界の大豆需給

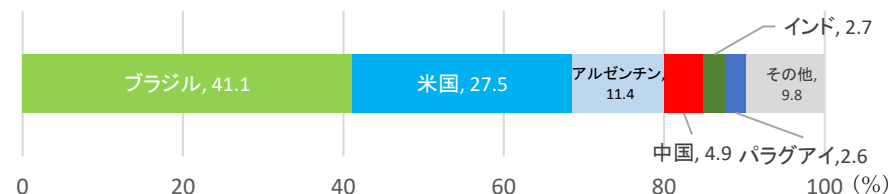
(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 396.4   | 424.2            | 425.9   | ▲ 0.5         | 0.4            |
| 消 費 量 | 383.6   | 410.5            | 423.9   | ▲ 1.2         | 3.3            |
| うち搾油用 | 331.2   | 354.5            | 366.6   | ▲ 1.1         | 3.4            |
| 輸 出 量 | 177.8   | 183.5            | 187.8   | 0.3           | 2.3            |
| 輸 入 量 | 178.3   | 178.2            | 186.2   | 0.3           | 4.5            |
| 期末在庫量 | 115.1   | 123.6            | 124.0   | ▲ 0.9         | 0.3            |
| 期末在庫率 | 0.3     | 0.3              | 0.3     | ▲ 0.1         | ▲ 0.9          |

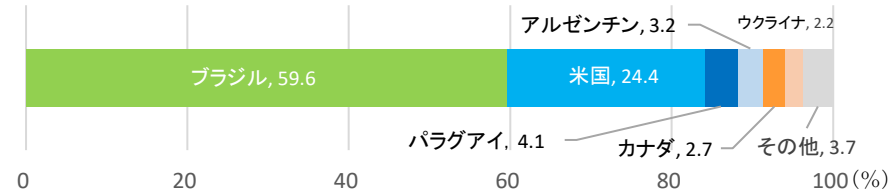
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

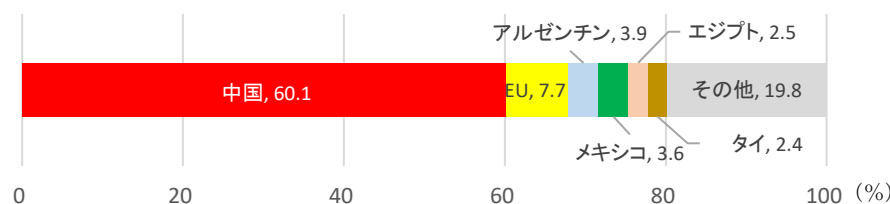
#### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の生産量(425.9 百万トン)



#### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸出量(187.8 百万トン)



#### ○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸入量(186.2 百万トン)





## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積の減少を受け前年度から 1.5%減の 117.1 百万トンの見込み。とうもろこしに有利な価格相場により、多くの農家がとうもろこしに作付けを切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」(2025.9.29)によれば、9月 28 日現在、落葉進捗率は 79%と前年同期(79%)と同水準で、過去 5年平均(77%)を上回っている。7月下旬までは概して良好な天候に恵まれていたものの、8～9月には主要生産地であるイリノイ州、インディアナ州、オハイオ州等で高温乾燥に見舞われ(<カナダ>図参照)作柄が悪化し、作柄評価が「良～優良」の割合は 62%と、前年同期(64%)を下回っている。また収穫進捗率は 19%と前年同期(24%)及び過去 5年平均(20%)を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 5.3%増の 72.5 百万トンと史上最高の見込み。米国環境保護庁(EPA)は、6月 13 日、再生可能燃料基準制度(RFS)について、2026～2027 年の混合基準量案を公表した。バイオディーゼルに関しては、2025 年の 33 億 5,000 万ガロンに対して、2026 年は 56 億 1,000 万ガロン、2027 年は 58 億 6,000 万ガロンと過去最高の数量を設定している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 10.1%減の 45.9 百万トンの見込み。

国際穀物理事会(IGC)によれば、10 月9日現在、米国産の輸出価格は、405 ドル/トンと、前月(9月9日)から1ドル/トン下落した。ブラジル産は前月から4ドル/トン下落し 442 ドル/トン、アルゼンチン産は前月から8ドル/トン下落し 406 ドル/トンとなった(図)。業界情報誌「OIL WORLD Weekly」(2025.10.10)によれば、9月は中国以外の輸入国の大半が南米産に比べ安価な米国産を輸入したとみられる。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度の輸出量のうち 2025 年 9月の輸出量は、前年同期(290.4 万トン)に比べ 0.3%減の 289.5 万トン。輸出先国別には、エジプト 51.6 万トン(17.8%)、メキシコ 42.7 万トン(14.8%)、日本 23.7 万トン(8.2%)の順となっている(表)。なお、中国向け輸出は米中貿易摩擦の影響を受け6月以降0トンとなっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 9.0%減、過去5年平均(8.0 百万トン)から 2.2%増の 8.2 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 0.6 ポイント減の 6.9%となる見込み。

## 大豆－米国

(概ね5～6月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

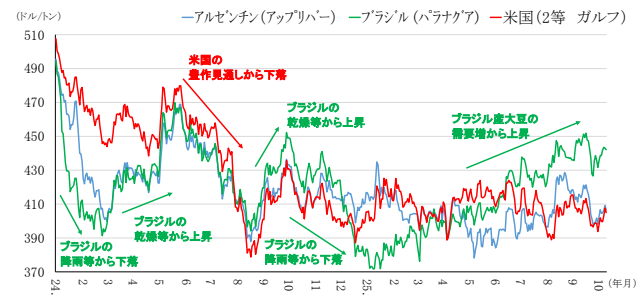
| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年9月～26年8月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値                   | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 113.3   | 118.8            | 117.1                 | 0.2           | ▲ 1.5          |
| 消 費 量 | 65.4    | 68.9             | 72.5                  | 0.5           | 5.3            |
| うち搾油用 | 62.2    | 66.1             | 69.5                  | 0.4           | 5.2            |
| 輸 出 量 | 46.3    | 51.0             | 45.9                  | ▲ 0.5         | ▲ 10.1         |
| 輸 入 量 | 0.6     | 0.7              | 0.5                   | -             | ▲ 27.0         |
| 期末在庫量 | 9.3     | 9.0              | 8.2                   | 0.3           | ▲ 9.0          |
| 期末在庫率 | 8.3%    | 7.5%             | 6.9%                  | -             | ▲ 0.6          |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 33.29 34.82 32.50 0.08 ▲ 6.7  
単収(t/ha) 3.40 3.41 3.60 - 5.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

### 図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

### 表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年9月～2025年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年9月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年9月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| 中国                             | 2,232.5      | 44.7       | 中国                     | 100.4        | 34.6       | エジプト                   | 51.6         | 17.8       |
| メキシコ                           | 498.5        | 10.0       | メキシコ                   | 35.7         | 12.3       | メキシコ                   | 42.7         | 14.8       |
| エジプト                           | 369.2        | 7.4        | ドイツ                    | 26.8         | 9.2        | 日本                     | 23.7         | 8.2        |
| ドイツ                            | 273.1        | 5.5        | エジプト                   | 23.7         | 8.2        | インドネシア                 | 21.0         | 7.3        |
| イタリア                           | 210.0        | 4.2        | インドネシア                 | 20.6         | 7.1        | トルコ                    | 21.0         | 7.2        |
| その他                            | 1,415.2      | 28.3       | その他                    | 83.1         | 28.6       | その他                    | 129.4        | 44.7       |
| 合計                             | 4,998.7      | 100.0      | 合計                     | 290.4        | 100.0      | 合計                     | 289.5        | 100.0      |

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が史上最高となり単収も増加することにより前年度から 3.6%増の 175.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2025.10.14)によれば、2025/26 年度の実産量は、コメなどの他作物から収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受け前年度から 3.6%増の 177.6 百万トンと史上最高の見込み。10 月 11 日現在、作付進捗率は 11.1%と過去5年平均(16.9%)を下回っている。マツト・グロッソ州北部、パラナ州等の生産地では降雨が記録されているものの散発的であるため、10 月下旬に予想される降雨の安定化を踏まえ作付けが本格化する見込み。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 2.0%増の 62.3 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル政府は、インフレ懸念により14%からの引上げが延期されていたバイオディーゼル混合率について、2025 年8月1日から 15%へ引き上げた。これにより化石燃料輸入量の減少、脱炭素化、農家の所得向上等が期待されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の増加等を受け前年度から 9.7%増の 112.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度の輸出量は、前年度(10,415.6 万トン)に比べ 1.0%減の 10,313.8 万トン。輸出先国別には、中国 7,975.7 万トン(77.3%)、スペイン 396.3 万トン(3.8%)、タイ 365.5 万トン(3.5%)の順となっている(表)。2025 年9月の中国向け輸出量は、前年同月の 431.1 万トン(全体の 70.6%)から 57.1%増の 677.5 万トン(同 92.3%)(図)。

報道情報(2025.10.20)によれば、中国がブラジルから大豆の輸入を増加させており、ブラジル産大豆の在庫量の減少に懸念が示されている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加を受け前年度から 2.9%増、過去5年平均(31.9 百万トン)から 16.7%増の 37.3 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント減の 21.4%となる見込み。

大豆－ブラジル

(概ね9～12 月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

| 年 度        | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) |               |                |         |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|---------|
|            |         |                  | 予測値                    | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |         |
| 生 産 量      | 154.5   | 169.0 (171.5)    | 175.0 (177.6)          | - (-)         | 3.6            | (3.6)   |
| 消 費 量      | 58.3    | 61.1 (62.3)      | 62.3 (63.3)            | - (-)         | 2.0            | (1.7)   |
| うち搾油用      | 54.4    | 57.0 ...         | 58.0 ...               | - ...         | 1.8            | ...     |
| 輸 出 量      | 104.2   | 102.1 (106.7)    | 112.0 (112.1)          | - (-)         | 9.7            | (5.1)   |
| 輸 入 量      | 0.9     | 0.7 (0.9)        | 0.4 (0.5)              | 0.2 (-)       | ▲46.2          | (▲44.4) |
| 期末在庫量      | 29.8    | 36.2 (10.7)      | 37.3 (13.4)            | 0.3 (-)       | 2.9            | (25.1)  |
| 期末在庫率      | 18.3%   | 22.2% (6.3%)     | 21.4% (7.6%)           | 0.2 (-)       | ▲0.8           | (1.3)   |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |         |
| 収穫面積(百万ha) | 46.15   | 47.40 (47.35)    | 48.80 (49.07)          | - (-)         | 3.0            | (3.6)   |
| 単収(t/ha)   | 3.35    | 3.57 (3.62)      | 3.59 (3.62)            | - (-)         | 0.6            | (▲0.1)  |

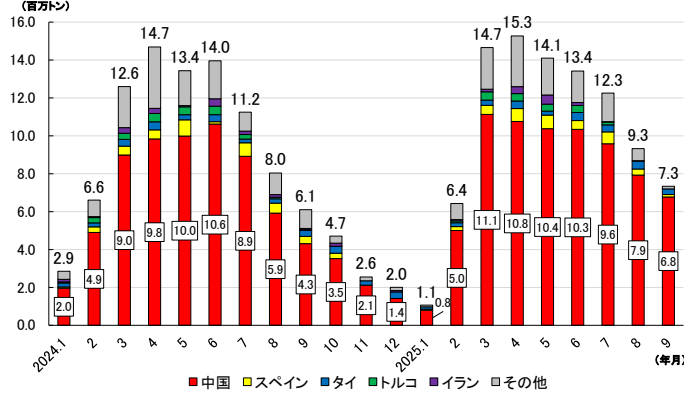
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
CONAB「Graos」(14 October 2025)※( )書き  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年9月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年9月) |              |            |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名                              | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| 中国                              | 7,820.2      | 75.1       | 中国                              | 7,975.7      | 77.3       |
| スペイン                            | 393.4        | 3.8        | スペイン                            | 396.3        | 3.8        |
| タイ                              | 303.3        | 2.4        | タイ                              | 365.5        | 3.5        |
| トルコ                             | 248.4        | 2.9        | トルコ                             | 184.8        | 1.8        |
| イラン                             | 180.5        | 1.7        | イラン                             | 146.3        | 1.4        |
| その他                             | 1,469.8      | 14.1       | その他                             | 1,245.2      | 12.1       |
| 合計                              | 10,415.6     | 100.0      | 合計                              | 10,313.8     | 100.0      |

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

図 ブラジルの大豆の輸出量の推移(2024.1～2025.9)



※数値は上が全体の輸出量、下の口が中国の輸出量  
資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 5.7%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2025.10.17)によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、単収が前年度から減少することを受け前年度から 5.7%減の 7.1 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Model-based Principal field crop estimates, August 2025」(2025.9.17)によれば、2025/26 年度の実産量は前年度から 5.7%減の 7.1 百万トンの見込み。州別には、マニトバ州では前年度から 2.9%増の 1.7 百万トンとなるものの、オンタリオ州では前年度から 8.8%減の 4.0 百万トン、ケベック州では前年度から 7.8%減の 1.3 百万トンとなる見込み。各州とも単収は前年度を下回る見込みで、カナダ東部(オンタリオ州及びケベック州等)では生育期を通じて高温乾燥に見舞われたことから、8月31日時点の作柄は平年並みか平年を下回る水準と評価されている。

AAFC「Canadian Drought Monitor」(2025.9.30)によれば、主要生産地のオンタリオ州及びケベック州では、9月に入り乾燥型の天候により収穫作業が進展した(図)。

オンタリオ州穀物生産者協会によれば、オンタリオ州の10月15日現在の収穫進捗率は91%と、収穫に適した天候が続き順調に進行している。単収は地域差が見られ、生育期に適時降雨があった圃場では4.7トン/ヘクタールを超えたものの、高温乾燥の影響を受けた圃場では1.3トン/ヘクタールを下回る例も報告されている。なお、州全体では平年並みか平年を下回る見込み。

【需要状況】AAFCによれば、2025/26年度の実消費量は、前月予測から変更はなく、飼料用需要の減少等を受け前年度から9.0%減の2.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2025/26年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少等を受け前年度から1.3%減の5.4百万トンの見込み。

カナダ統計局によれば、2025/26年度のうち2025年8月の輸出量は、前年同期(19.2万トン)に比べ14.0%減の16.5万トン。輸出先国別には、米国3.8万トン(23.1%)、日本3.2万トン(19.1%)、インドネシア2.9万トン(17.4%)の順となっている(表)。

AAFCによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度から1.0%減の0.5百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から0.2ポイント増の6.6%となる見込み。

大豆－カナダ

(概ね5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年8月～26年7月) |               |                |        |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--------|
|       |         |                  | 予測値、○はAAFC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |        |
| 生産量   | 7.0     | 7.6 (7.6)        | 7.0 (7.1)             | - (-)         | ▲7.5           | (▲5.7) |
| 消費量   | 2.3     | 2.4 (2.5)        | 2.3 (2.2)             | ▲0.3 (-)      | ▲6.3           | (▲9.0) |
| うち搾油用 | 1.7     | 1.6 (1.7)        | 1.6 (1.7)             | ▲0.2 (-)      | -              | (1.3)  |
| 輸 出 量 | 4.8     | 5.4 (5.4)        | 5.1 (5.4)             | 0.3 (-)       | ▲6.4           | (▲1.3) |
| 輸 入 量 | 0.3     | 0.2 (0.3)        | 0.4 (0.5)             | - (-)         | 44.6           | (68.5) |
| 期末在庫量 | 0.6     | 0.5 (0.5)        | 0.5 (0.5)             | ▲0.2 (▲0.1)   | 1.9            | (▲1.0) |
| 期末在庫率 | 7.9%    | 6.8% (6.4%)      | 7.4% (6.6%)           | ▲3.5 (▲0.7)   | 0.6            | (0.2)  |

(参考)

|            |      |             |             |       |      |        |
|------------|------|-------------|-------------|-------|------|--------|
| 収穫面積(百万ha) | 2.26 | 2.29 (2.29) | 2.30 (2.32) | - (-) | 0.4  | (1.3)  |
| 単収(t/ha)   | 3.09 | 3.30 (3.31) | 3.04 (3.07) | - (-) | ▲7.9 | (▲7.3) |

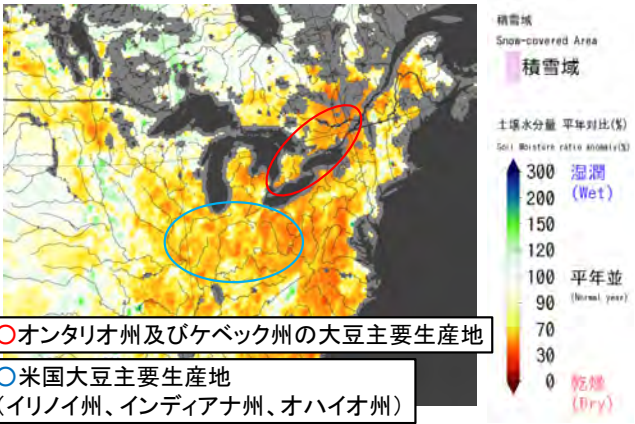
資料:USDA「PS&D」、

「World Agricultural Production」(12 September 2025)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(17 October 2025)※( )書き

注:USDAのデータは2025年9月時点のものとあり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

図 オンタリオ州、ケベック州及び米国の大豆主要生産地の  
土壌水分量平年対比(2025年9月1日～15日)



資料:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度<br>(2024年8月～2025年7月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年8月) |              |            | 2025/26年度<br>(2025年8月) |              |            |
|--------------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|------------------------|--------------|------------|
| 国名                             | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                     | 輸出量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| 中国                             | 104.3        | 19.2       | アルジェリア                 | 4.4          | 23.0       | 米国                     | 3.8          | 23.1       |
| イラン                            | 76.5         | 14.1       | 米国                     | 4.4          | 22.8       | 日本                     | 3.2          | 19.1       |
| アルジェリア                         | 54.9         | 10.1       | 日本                     | 2.6          | 13.6       | インドネシア                 | 2.9          | 17.4       |
| 米国                             | 43.2         | 7.9        | インドネシア                 | 2.0          | 10.5       | 中国                     | 1.8          | 11.0       |
| 日本                             | 40.0         | 7.4        | マレーシア                  | 1.3          | 6.7        | ノルウェー                  | 1.0          | 6.0        |
| インドネシア                         | 31.8         | 5.8        | ベルギー                   | 1.3          | 6.7        | ベトナム                   | 0.8          | 5.1        |
| その他                            | 193.5        | 35.6       | その他                    | 3.2          | 16.7       | その他                    | 3.0          | 18.3       |
| 合計                             | 544.2        | 100.0      | 合計                     | 19.2         | 100.0      | 合計                     | 16.5         | 100.0      |

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の増加を受け前年度から 1.7%増の 21.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

中国中央気象台「全国農業気象月報」(2025.10.5)、「作物生育期監視」(2025.9.28～10.4)によれば、主要生産地の東北部の大部分で8月から9月にかけて、日照、気温及び土壌水分量が良好で、大豆の成熟及び乾燥に好影響を与えた。10 月4日現在、東北部では成熟期を迎えている。

中国農業農村部(2025.10.11)によれば、同国の 10 月 10 日の収穫進捗率は、およそ 55%となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 4.8%増の 133.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「中国農業展望報告(2025－2034)」(2025.4)によれば、2025 年は豚肉生産量の増加に伴い、短期的に飼料用需要の増加が見込まれるものの、2034 年までの長期的な見通しでは、養豚施設の大規模化や防疫水準の向上により、飼料用需要は今後安定的に推移する見込み。その一方で、飼料用大豆粕の減量への取組が本格的に進み、大豆粕需要は徐々に減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 5.2%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年8月の輸入量は、前年同期(9,337.7 万トン)に比べ 3.3%増の 9,650.0 万トン。輸入先国別には、ブラジル 6,515.4 万トン(67.5%)、米国 2,438.9 万トン(25.3%)、アルゼンチン 359.3 万トン(3.7%)の順(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年8月号」によれば、国家及び地方備蓄の大豆が市場に出たことで価格が安定し、8月の国内価格は 4,680 元/トンと、前月(4,680 元/トン)から横ばいで推移している。

中国国務院関税税則委員会は、5月 14 日以降、米国産大豆に対して計 20%の追加関税を課している。8月 12 日には 90 日間停止されてきた 24%が上乗せされることとなっていたが、米中の合意により、この停止期間はさらに 90 日間延長されることとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、搾油用需要の増加等を受け前年度から 0.2%減、過去5年平均(34.6 百万トン)から 25.3%増の 43.4 百万トンと、史上2番目の見込み(図)。期末在庫率は、前年度から 1.6 ポイント減の 32.6%となる見込み。

大豆－中国

(概ね4～6月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)(単位:百万トン)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) |         |           |            |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------|-----------|------------|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC             |         | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生 産 量 | 20.8    | 20.7             | 21.0                   | (21.1)  | -         | 1.7        |
| 消 費 量 | 121.8   | 126.9            | 133.0                  | (133.4) | -         | 4.8        |
| うち搾油用 | 99.0    | 103.0            | 108.0                  | (110.0) | -         | 4.9        |
| 輸 出 量 | 0.1     | 0.1              | 0.1                    | (0.1)   | -         | 25.0       |
| 輸 入 量 | 112.0   | 106.5            | 112.0                  | (111.0) | -         | 5.2        |
| 期末在庫量 | 43.3    | 43.5             | 43.4                   | (47.0)  | -         | ▲ 0.2      |
| 期末在庫率 | 35.5%   | 34.2%            | 32.6%                  | (35.2%) | -         | ▲ 1.6      |

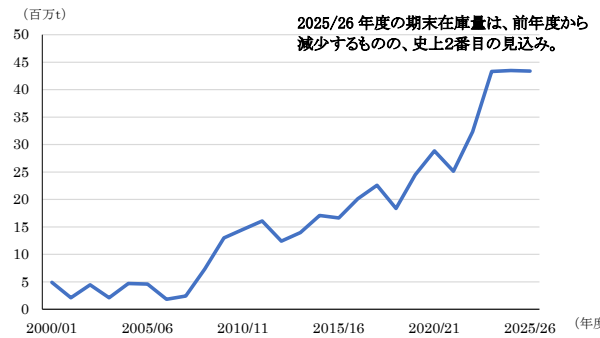
(参考)  
収穫面積(百万ha) 10.47 10.33 10.50 (10.50) - 1.6  
単収(t/ha) 1.99 2.00 2.00 (2.01) - -  
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)  
注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

| 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年9月) |              |            | 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年8月) |              |            | 2024/25年度<br>(2024年10月～2025年8月) |              |            |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) | 国名                              | 輸入量<br>(万トン) | シェア<br>(%) |
| ブラジル                            | 7,732.1      | 73.8       | ブラジル                            | 6,887.6      | 73.8       | ブラジル                            | 6,515.4      | 67.5       |
| 米国                              | 2,091.6      | 20.0       | 米国                              | 1,920.5      | 20.6       | 米国                              | 2,438.9      | 25.3       |
| アルゼンチン                          | 267.7        | 2.6        | アルゼンチン                          | 206.4        | 2.2        | アルゼンチン                          | 359.3        | 3.7        |
| カナダ                             | 151.9        | 1.5        | カナダ                             | 151.6        | 1.6        | ウルグアイ                           | 176.1        | 1.8        |
| ウルグアイ                           | 102.7        | 1.0        | ロシア                             | 77.5         | 0.8        | カナダ                             | 117.1        | 1.2        |
| ロシア                             | 79.8         | 0.8        | ウルグアイ                           | 45.4         | 0.5        | ロシア                             | 42.2         | 0.4        |
| その他                             | 45.8         | 0.5        | その他                             | 48.5         | 0.5        | その他                             | 1.1          | 0.0        |
| 合計                              | 10,474.7     | 100.0      | 合計                              | 9,337.7      | 100.0      | 合計                              | 9,650.0      | 100.0      |

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省で作成

図 中国の大豆の期末在庫量の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成



## < アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の減少を受け前年度から 4.7%減の 48.5 百万トンの見込み(図)。前年度は病害虫のヨコバイによる被害によりとうもろこしから大豆に作付けがシフトしたが、2025/26 年度は被害の改善により大豆からとうもろこしに作付けがシフトする見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の月報(2025.10.16)によれば、作付面積は前年度から 2.8%減の 17.5 百万ヘクタールの見込み。

ブエノスアイレス商品取引所(2025.10.8)によれば、大豆の作付けは 10 月中旬に開始される見込み。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要が減少することを受け前年度から 1.0%減の 49.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、同国への大豆主要供給国であるパラグアイの実産量増加等を受け前年度から 5.9%増の 7.2 百万トンの見込み。

2025/26 年度の輸出量は、大幅に輸出量が増加した前年度から 17.8%減の 6.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、2025 年 9 月 22 日、穀物(大豆含む)及び副産物について、23 日から輸出税を一時的に撤廃することを発表した。期限は、10 月 31 日又は申告された輸出額が 70 億米ドルに相当する額に達する日(いずれか早い方)までとしていたが、輸出額の上限に達し、9 月 25 日から再び輸出税を課することとなった。報道情報によれば、輸出を加速させることで、低迷するペソ通貨を支えるために必要なドルを調達する狙いがあったとみられる。政府はこれまで、1 月から 6 月末まで大豆の輸出税を 26%、大豆油及び大豆粕の輸出税を 24.5%に引き下げていたが、7 月 1 日からは従来の税率である大豆 33%、大豆油及び大豆粕 31%に引き上げ、8 月 1 日には、再び大豆 26%、大豆油及び大豆粕 24.5%に引き下げている。

業界情報誌「OIL WORLD Weekly」(2025.10.10)によれば、輸出税の一時撤廃を受け、9 月の輸出量は前年から 1.7 百万トン増の 2.0 百万トンとなっており、うち 97%が中国向けの輸出となっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の減少を受け前年度から 0.8%減、過去 5 年平均(22.7 百万トン)から 4.9%増の 23.9 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 1.0 ポイント増の 42.7%となる見込み。

## 大豆ーアルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10~1 月に作付けされ、3~7 月に収穫され、  
遅植え大豆は、概ね 10~1 月に作付けされ、4~7 月に収穫される。)

| 年 度   | 2023/24 | 2024/25<br>(見込み) | 2025/26 (25年10月~26年9月) |               |                |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 48.2    | 50.9             | 48.5 (48.5)            | -             | ▲ 4.7          |
| 消 費 量 | 43.8    | 50.4             | 49.9 (50.0)            | ▲ 0.6         | ▲ 1.0          |
| うち搾油用 | 36.6    | 42.6             | 42.4 (43.5)            | ▲ 0.6         | ▲ 0.5          |
| 輸 出 量 | 5.1     | 7.3              | 6.0 (5.3)              | 0.2           | ▲ 17.8         |
| 輸 入 量 | 7.8     | 6.8              | 7.2 (6.0)              | -             | 5.9            |
| 期末在庫量 | 24.1    | 24.1             | 23.9 (7.3)             | ▲ 0.8         | ▲ 0.8          |
| 期末在庫率 | 49.1%   | 41.7%            | 42.7% (13.2%)          | ▲ 1.1         | 1.0            |

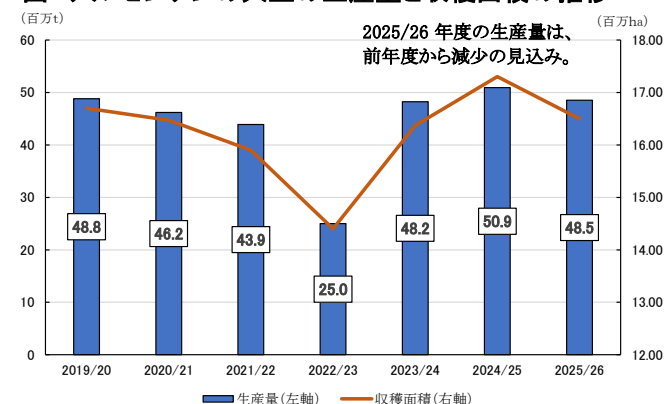
(参考)

|            |       |       |               |   |       |
|------------|-------|-------|---------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 16.37 | 17.30 | 16.50 (17.05) | - | ▲ 4.6 |
| 単収(t/ha)   | 2.95  | 2.94  | 2.94 (2.84)   | - | -     |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2025)  
IGC「Grain Market Report」(18 September 2025)

注:USDAのデータは2025年9月時点のものであり、「前月予測からの変更」は2025年8月予測との差。

### 図 アルゼンチン大豆の生産量と収穫面積の推移



資料:USDA「PS&D」(2025.9.12)をもとに農林水産省で作成

### 写真 サンタフェ州大豆貯蔵施設 (2025.9.24 撮影)



農協の大豆貯蔵施設。  
当施設の貯蔵能力は約1万トン。

撮影者:José Daniel Peloni



(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2025/26年度）

|        | 小麦            | とうもろこし       | コメ           | 大豆           |
|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 米国     | 25年6月～26年5月   | 25年9月～26年8月  | 25年8月～26年7月  | 25年9月～26年8月  |
| カナダ    | 25年8月～26年7月   |              |              | 25年8月～26年7月  |
| 豪州     | 25年10月～26年9月  |              | 26年3月～27年2月  |              |
| EU     | 25年7月～26年6月   | 25年10月～26年9月 |              |              |
| 中国     | 25年7月～26年6月   | 25年10月～26年9月 | 25年7月～26年6月  | 25年10月～26年9月 |
| ロシア    | 25年7月～26年6月   | 25年10月～26年9月 |              | 25年9月～26年8月  |
| ウクライナ  | 25年7月～26年6月   | 25年10月～26年9月 |              |              |
| ブラジル   |               | 26年3月～27年2月  | 26年4月～27年3月  | 25年10月～26年9月 |
| アルゼンチン | 25年12月～26年11月 | 26年3月～27年2月  |              | 25年10月～26年9月 |
| タイ     |               |              | 26年1月～12月    |              |
| インド    | 25年4月～26年3月   |              | 25年10月～26年9月 |              |
| ベトナム   |               |              | 26年1月～12月    |              |

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

|                                   |          |        |        |     |
|-----------------------------------|----------|--------|--------|-----|
| 1 Bushel<br>（ブッシェル）<br>（穀物により異なる） | 0.027216 | メトリクトン | 小麦、大豆  | 米国等 |
|                                   | 0.021772 | メトリクトン | 大麦     |     |
|                                   | 0.025401 | メトリクトン | とうもろこし |     |
|                                   | 0.014515 | メトリクトン | オーツ    |     |
| 1 CWT(百ポンド)                       | 0.045359 | メトリクトン | コメ     | 米国等 |

2 面積

|             |         |       |     |
|-------------|---------|-------|-----|
| 1Acre(エーカー) | 0.40469 | ヘクタール | 米国等 |
| 1rai(ライ)    | 0.16    | ヘクタール | タイ  |
| 1 亩(ムー)     | 0.0667  | ヘクタール | 中国  |

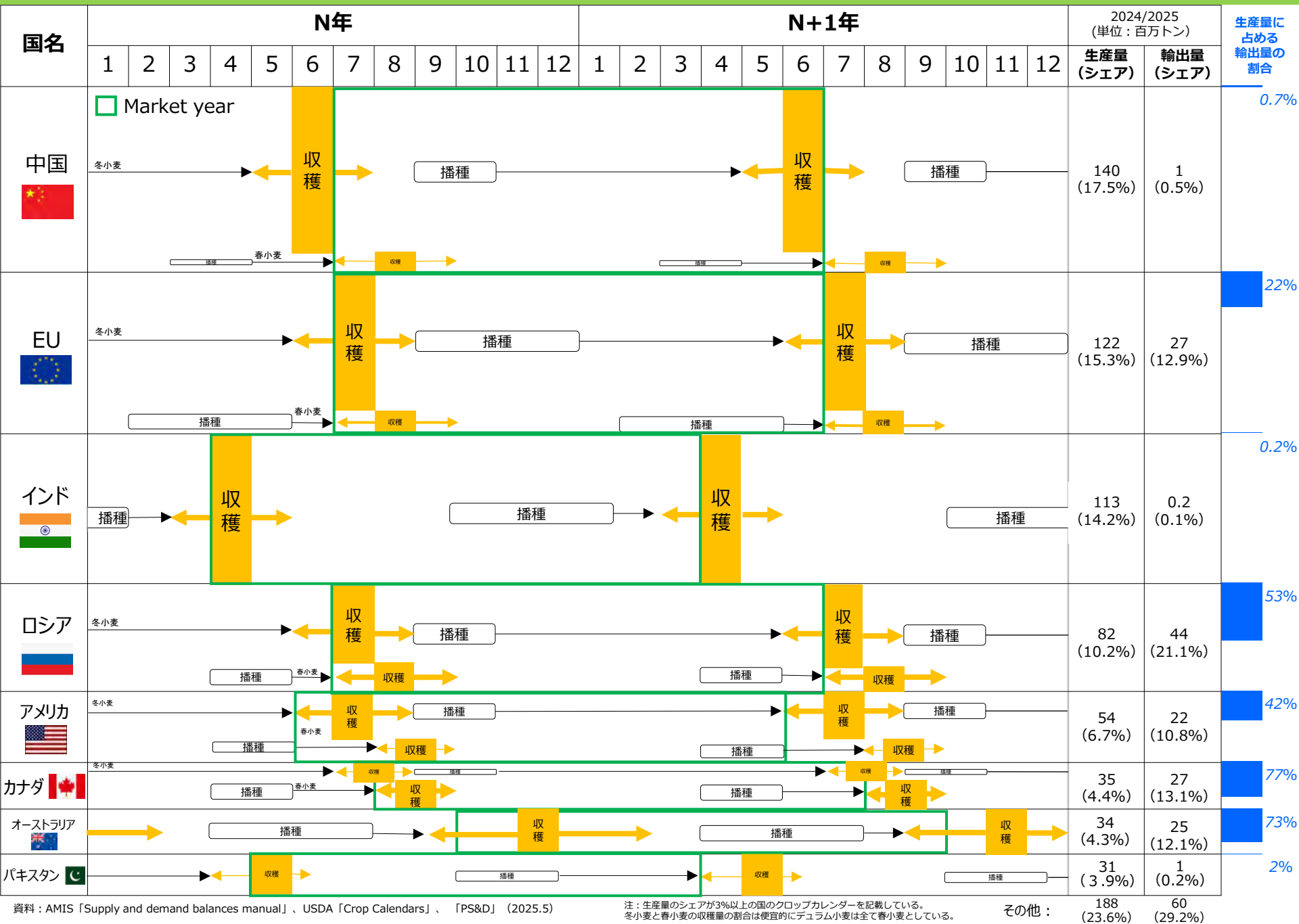
3 その他

|                      |       |      |     |
|----------------------|-------|------|-----|
| 1ガロン                 | 4.536 | リットル | 英国  |
| 1ガロン                 | 3.785 | リットル | 米国  |
| 1LAKH(ラーク)           | 10万   | 位取り  | インド |
| 1斤                   | 500g  | 重量   | 中国  |
| 華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8 |       |      |     |

## (参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

# 主要生産国のクロップカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

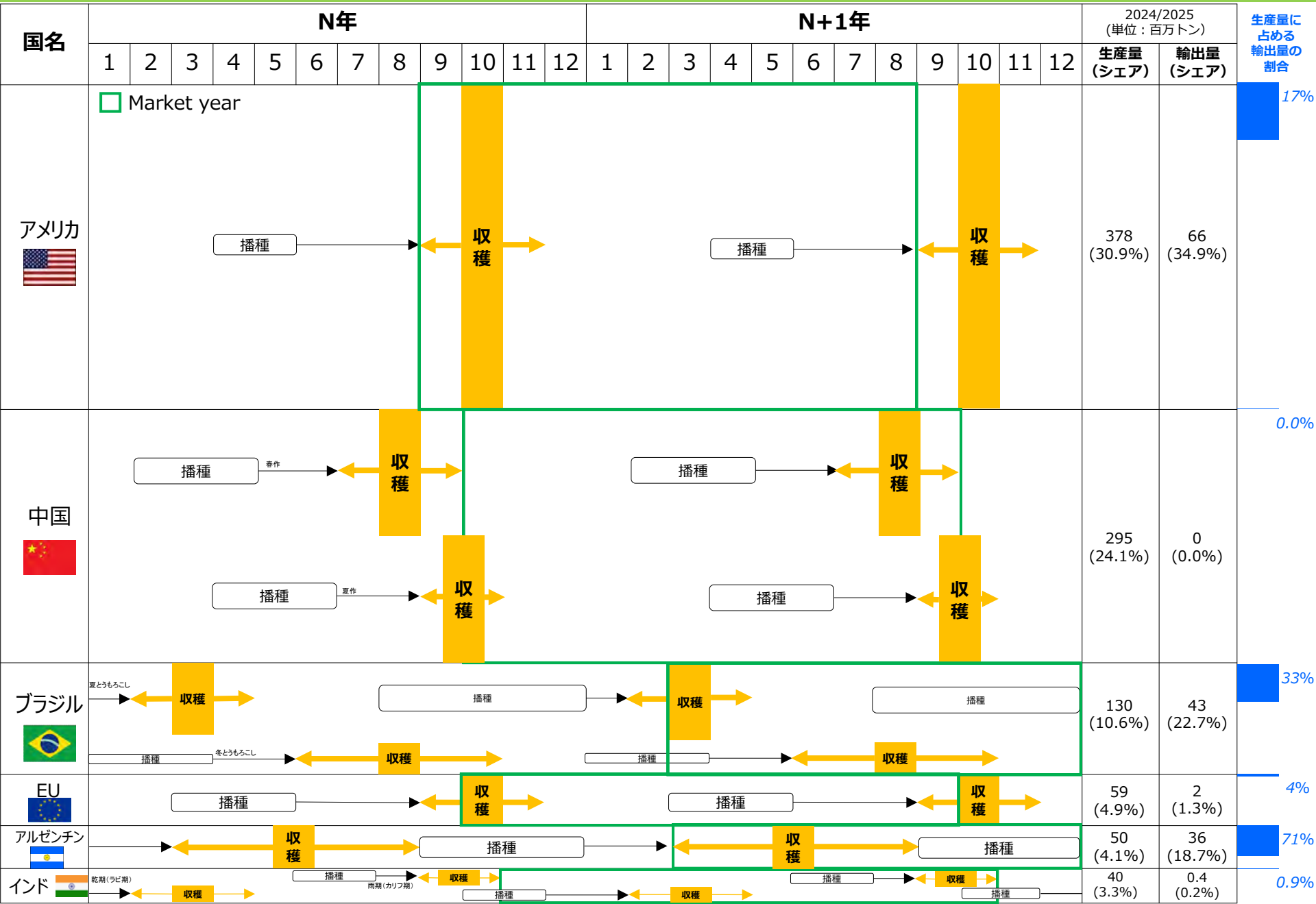


※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、PS&D（2025.5） 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他： 127 (23.6%) 21 (34.4%)

# 主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

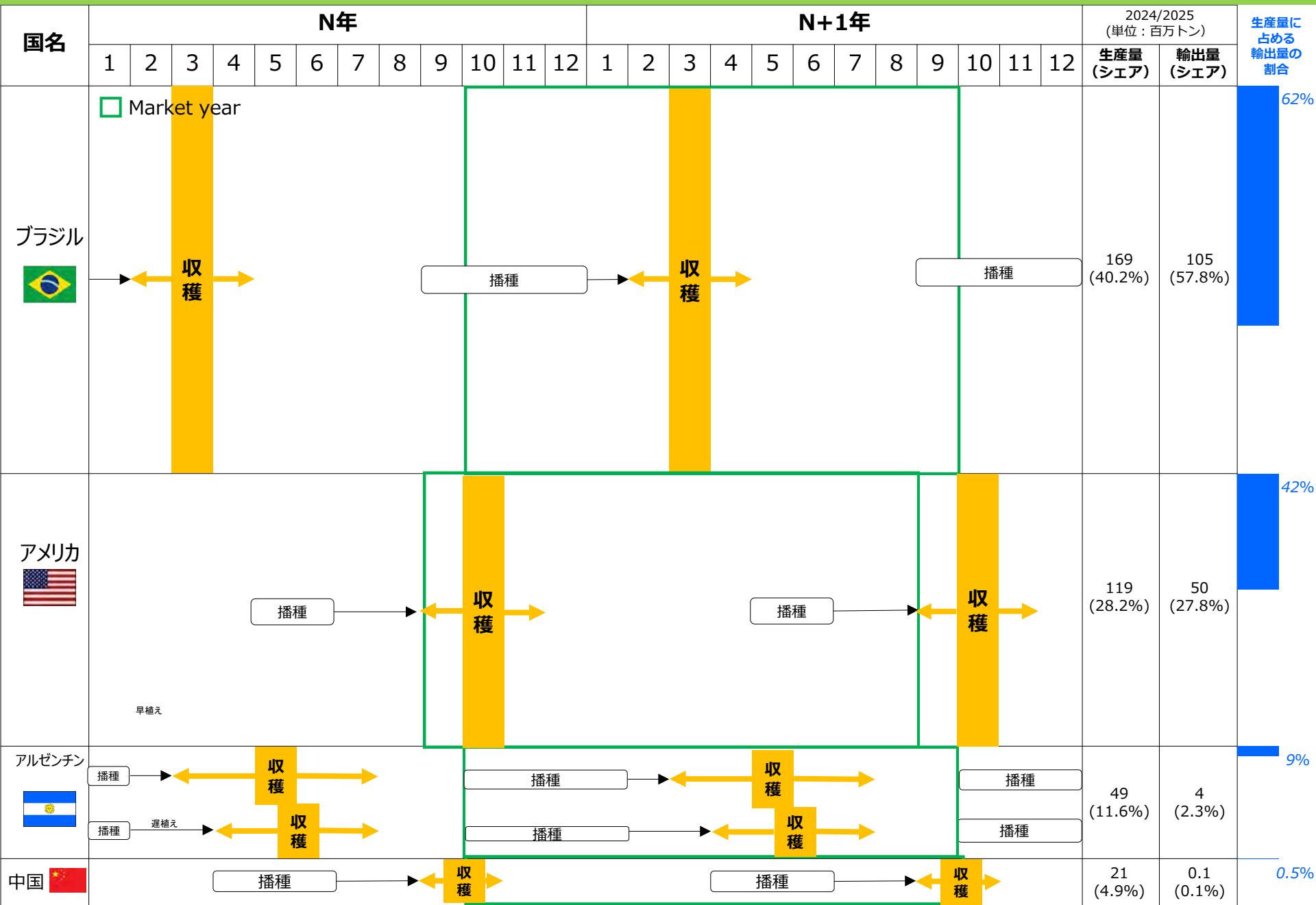


資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2025.5）注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：269 (22.1%) 42 (22.2%)



# 主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」（2025.5）

## 【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

**食料安全保障月報(第 52 号)は、米国農務省穀物等需給報告(2025 年 10 月)の公表中止により、2025 年9月 12 日公表の同報告のデータに基づき作成しております。**

- 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2025 年9月下旬までに発表した情報を引用しています(最新年度 2025/26 年度です)。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

- (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

・食品の価格動向:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>

・米に関するマンスリーレポート:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し(農林水産政策研究所):<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

- (2) 農林水産関係機関の情報(ALIC の情報サイト):<https://www.alic.go.jp/>

・砂糖、でんぷん:<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>

・野菜:<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>

・畜産物:<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関(FAO):<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会(IGC):<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構(OECD)(農業・水産業分野):<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム(AMIS):<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省(USDA):<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社(CONAB):<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省(AAFC):<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局(ABARES):<http://www.agriculture.gov.au/abares>

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>  
(注:同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受け

て、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

○ 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

○ 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

**連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室**  
**TEL: 03-6744-2368(直通)**



## 「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。  
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）  
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大  
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）  
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外  
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）  
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、  
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）  
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、  
その他）  
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））  
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）  
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響  
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）  
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響  
中国の需要・輸入動向  
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響  
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

[https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo\\_geppou\\_ankeeto.html](https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html)

